

特214

645

宮崎部隊

戦歿者名簿



始





宮崎部隊

英靈追悼錄



序

今回彰忠會有志の發起により、本事變に際し北支及中支の野に轉戦し或は鋒鏑に斃れ或は疫癘の冒す所となり戦病歿せられたる護國の英靈に對し、其の武勳を永久に傳へんがため茲に追悼録を編纂し、載する所尊き遺影と略歴とを以てせらる。

願れば昭和十三年春大命を拜して保定及定縣附近、京漢沿線に出動し警備及討伐に従事すること約半歳、黃塵萬丈の下東奔西走眞に寧日なく夙夜其の重責を盡し、又一部隊は徐州會戦に参加し隴海沿線に作戦して克く其の使命を完ふせり、次て武漢攻略戦には光輝ある軍旗を捧して中支江南の地に赴き、嶮難なる山嶽地帯を踏破して隨所には頑敵を屠り皇軍の威武を中外に宣揚し、其の任を終へて歳末北支に歸還するや絨衣を解く暇なく昭和十四年の新春を迎ふると共に共產軍に對する肅正の討伐戦に従ひ、各地に其の根據を覆滅して治安の基礎を確立せり。

征戦實に一年有餘、酷暑を凌ぎ五寒に堪へ楡風沐雨具に辛酸を嘗めたり。

當時を追懐すれば諸君が勇戦健闘の状尙眼前に髣髴として感慨轉た切なるものあり、予乏しきを以て曩に部隊長たり聊か戦歴を誌して諸君の忠烈を偲び序と爲す。

二

昭和十六年二月

前 部 隊 長 宮 崎 富 雄 誌

序 に か え て

日支事變の勃發は、日支兩國に取つて是れ以上の不幸は有りません。蘆溝橋事件は不本意にも、支那全土に波及し計り知れぬ尊き精靈と、莫大の財貨を費したのであります。此の秋に當つて、本名簿中の諸賢も「つはもの」として召し出されて大陸に渡り轉戦を續ける中に何れも武運拙くして、護國の華と散られたので有りました。

一度戦場に臨んだ者は固より生還は期する所では有りませんが、聖業の半で斃れました事は如何にも残念でたまりません。併し乍ら一方我が堅國の大精神を思ふ時、此の際如何なる犠牲も亦已むを得ません。此甲斐あつてか今や我が忠勇の「ますらを」達が惜しみなく流した純潔の血潮の中から、眞の支那が生れ出ようとしてゐます。新政權は成り新條約は結ばれ此處に日支兩國の輝かしい第一歩は踏み出されたので有ります。

大陸の空に在つて眠れなかつた英靈諸賢もさぞかし満足して安らかな眠りにつかれる事と存じます。それにつきましても残つた者が一命を祖國に捧げた、懐しい我子、我父、我夫達の上に思ひを寄せる時、その武勳に感謝すると共に、戦場に在つて縦横無盡に活躍してゐる姿を偲んでは尊い涙のにじむのを禁ずる事が出来ません、これは同じ氣持の我々にのみ味へる心の底からの思ひであります。

思ひ出多き祖國を後にして同じ船に乗せられ、同じ大陸に渡り、同じ聖旗の下で共に苦しみ共に楽しみ共に枕を並べ互に助け合つた勇士の遺族達が在りし日の面影を語り合ふならばどんなにか胸の中も晴れる事かと思ひます。

三

かうした思ひの禁じ得なかつた編者達は身の不肖も顧ず、全国的に擴つて居る御遺族と連絡をとり、記載事項をお知らせ願つて本名簿の發刊を圖つた次第で御座ります。

本名簿に依つてお互に連絡がとれ共に慰め合ひ助け合ふ事が出来れば編者の悦び之れに過ぎません。

本書編輯中幾多の支障を來たしましたが、皆さんの御激勵と在天の靈の加護とに依つて漸く上梓を見るに至りました事を厚く感謝致します。

最後に臨んで御英靈の安らかな眠りを祈り、御遺族の皆様御健在と御隆昌とを念じ、更に戰場に在る御勇士の御武運長久を祈つて發刊の辭に代へる次第で御座ります。

昭和十六年二月十一日

聖戰四回日の紀元の佳節に當りて

編者 塚 本 勝 次 郎

序にかへて

謹んで宮崎部隊勇士の英靈に捧げ竝に父兄に呈す。

武漢攻略戦に於ける本間兵團各部隊は實に強かつたのだ。しかもよく戦つてくれた。

『然るに。』當時兵團は、極めて重大な使命をもつてゐたので、本作戦進行中は勿論、その後今日に於ても各部隊の作戦行動は慎重に秘匿され厳秘にされてゐる。

『その結果。』

同兵團が如何に戦つたか。

また。

『如何なる重大使命を果たしたか。』この戦績は、

そのため未だに一般に知られてゐない。

只、昭和十五年四月に發行された、朝日新聞社の従軍記者池田氏の書かれた、インテリ部隊と云ふ著書によりてその一般を知りたるも同氏は兵團本部附のため、我が宮崎部隊の記事は部隊長より兵團本部へ一局地の戦況を報告なされたのを書かれただけで、九月十六日より二十四日までの行動は一端も載つてゐない。内地に原隊のある部隊の戦病死者は、その都度、住所、氏名、階級、続柄、當時の行動等詳細に居住地の新聞其他にて公表されてゐるが、

我等子弟部隊のそれは上記の理由にて全然公表されず、後世に傳ふべき記録なきを遺憾に思ひ東京及び近縣在住の宮崎部隊遺族にて組織せる彰忠會世話人により計畫され、遺族同志相互間だけでもその一端を知り家門の譽れを子孫に残すべく各府縣の御遺族へ勸奨しましたところ、多數の御賛同を得まして編輯を完了、茲に上梓に當り感慨無量であります。各御遺族も其意を諒察せられ本追悼録を家門の榮譽のため永く保存龜鑑となされ亦感銘を新たにせられ各自勇士英靈のこの不滅の功績を永遠に郷土に傳へられ後世までも精神修養の資ともならば我等は眞に本懐とする所であります。

どうか御遺族各位、折角御自愛なされ健やかにお過しあらんことを祈り、此のうへ共に銃後の奉公を盡し英靈の遺志に副ふよう努めませう。

終りに特筆すべきは本追悼録を後世に傳へて恥しくないものにと、用紙、表装、製本等、再三考究、より良きものを撰みました結果、豫算の超過となり如何にせんと苦慮せるを聞知せられ宮崎部隊長殿より補助金を下された御温情、亦研究社印刷所小酒井吉藏氏の御厚志と本會員有志の基金寄附等多大の援助を賜りました各位に對し遺族一同に代り厚く感謝の意を表します。

合 掌

昭和十五年十二月誌

宮崎部隊彰忠會幹事

野崎桂次郎
星吉藏

一、表装ノ題字ハ宮崎前部隊長ノ御揮毫デス。

凡 例

一、編輯順序は准尉以上の將校を各府縣混同して階級順とし同一階級は誕生日順にて初頭に掲げ其他は遺族現住所の府縣に區別して戦歿日附順とし同日附は階級又は誕生日順にて掲げました。

一、遺族の都合にて賛同申込なき戦歿者の原籍地、階級、氏名、戦歿日と場所等慰靈のため府縣別に配列（順序不同）巻尾に載せ以て部隊追悼録の趣旨に副ひ完備を期しました。

一、編輯に不馴れの素人にて纏綴せるため府縣順其他に不同ある故も計られず豫め御諒承を乞ふ。

編 者 識

凡 例

- 一、編纂に當つては英靈供養の爲め精魂を盡して努力致しましたが、猶充分の成果を得られず、皆さんの御期待に沿へなかつた事を呉々もお詫び致します。
- 一、又御遺族が各地に散在してゐると通信先の不明だつたのとで意外な延引を致し、且、記載者漏れのあつた事は實に遺憾の至りであります。
- 一、發刊に當つて、出版法への牴觸と經費の不足其他の支障から役員諸賢の應援と部隊長殿、其他特志者の御援助を得ました事を此際改めて御禮申し上げます。
- 一、本名簿の配列は將校を先とし以下東京近縣から各地に及び、同縣中では戦歿の月日順に並べました。
- 一、記載文中、不明の箇所につき幾度か照會したのに返信を得なかつた分は原文通りに致しました、又何等の御通信も得られなかつた分は末尾に配列致しました。

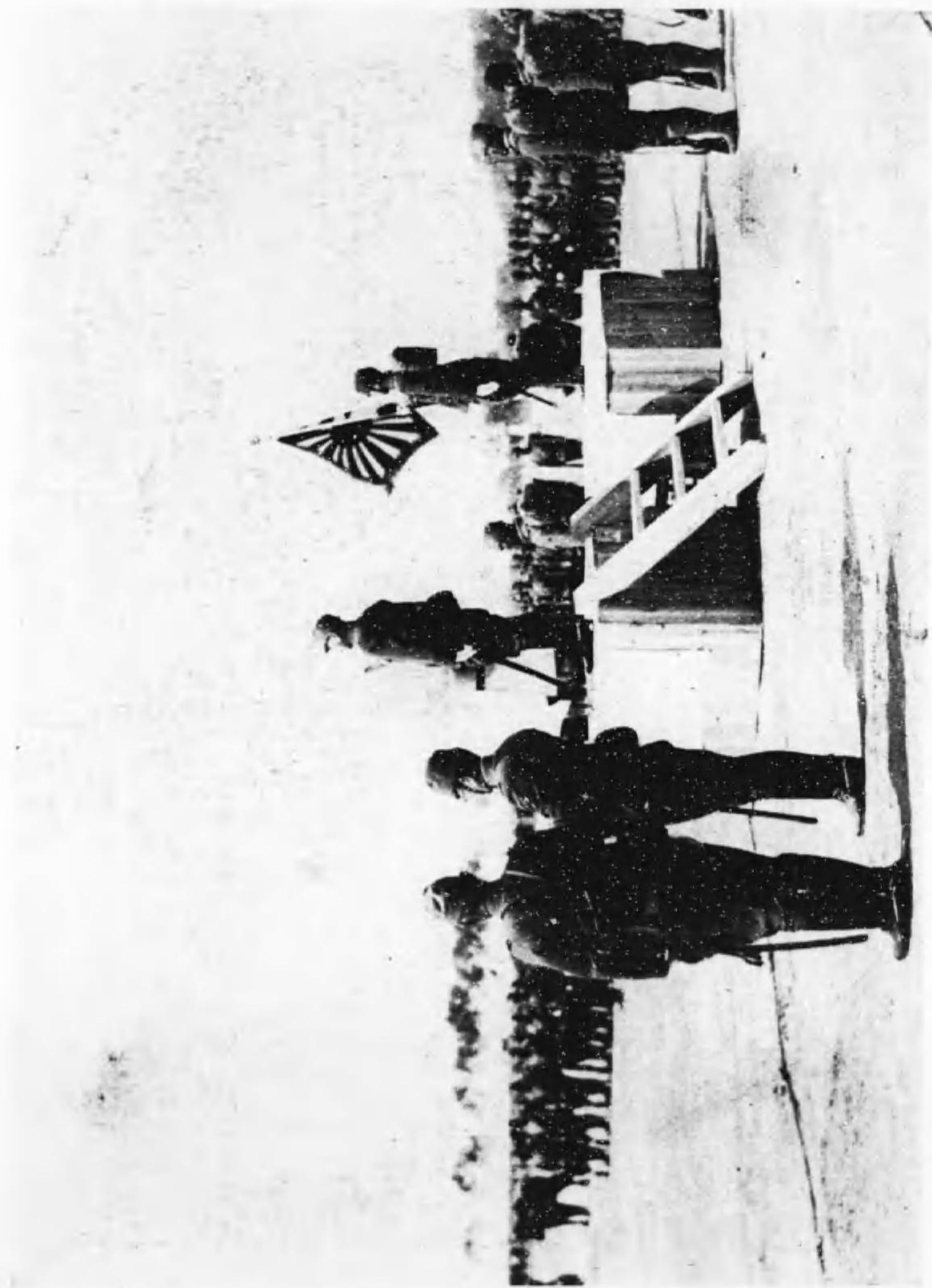
編 者 識



秋百葉條麒麟峰
 官軍奪復專力闘
 忽起銃聲破圍毒
 逆襲敵勢似也倭

時時

字題ノ下閣長隊部同(下) 像肖御ノ長隊部間本(上)

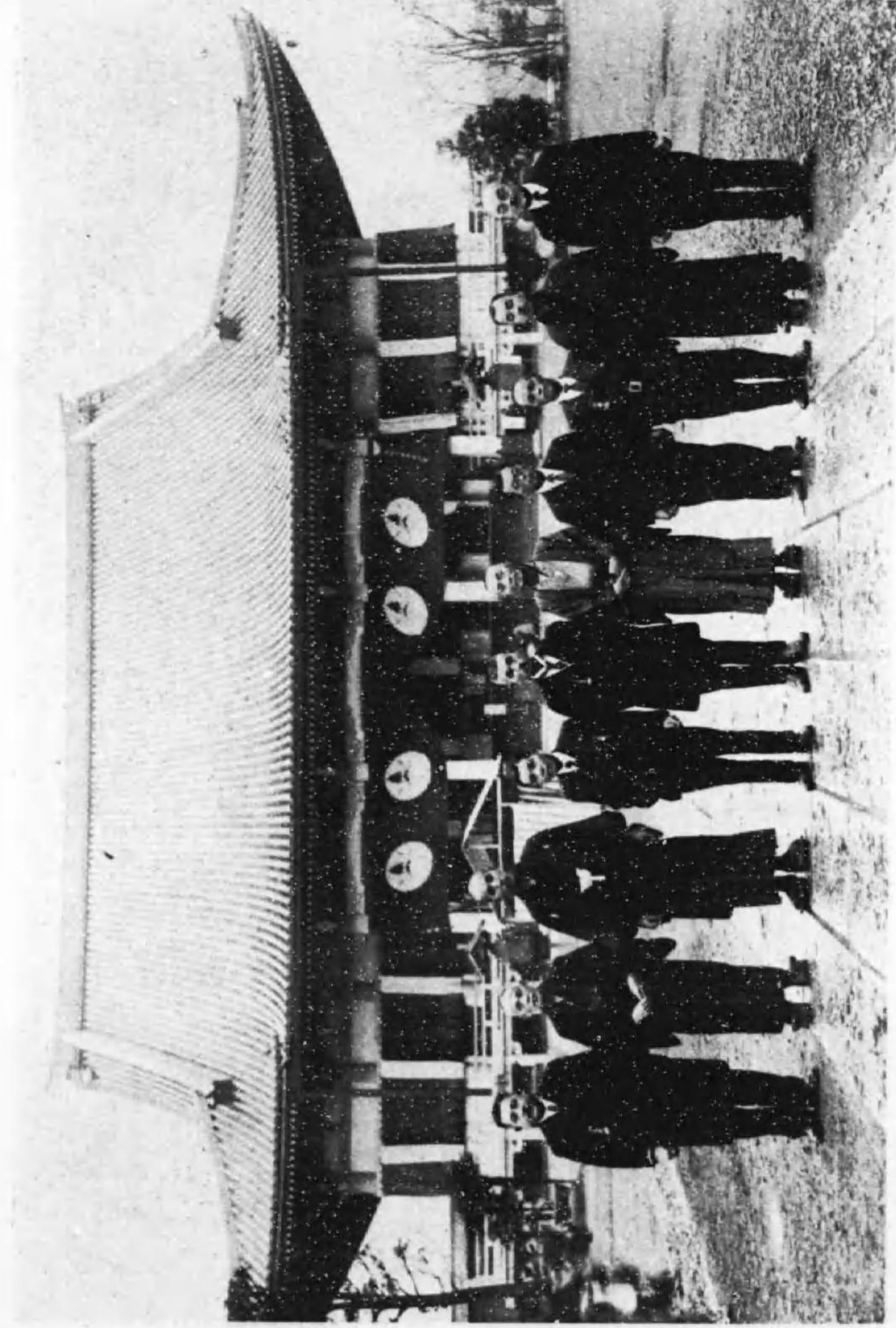


景光ノ典式祭旗軍ルケ於ニ地現月四年三十三和昭

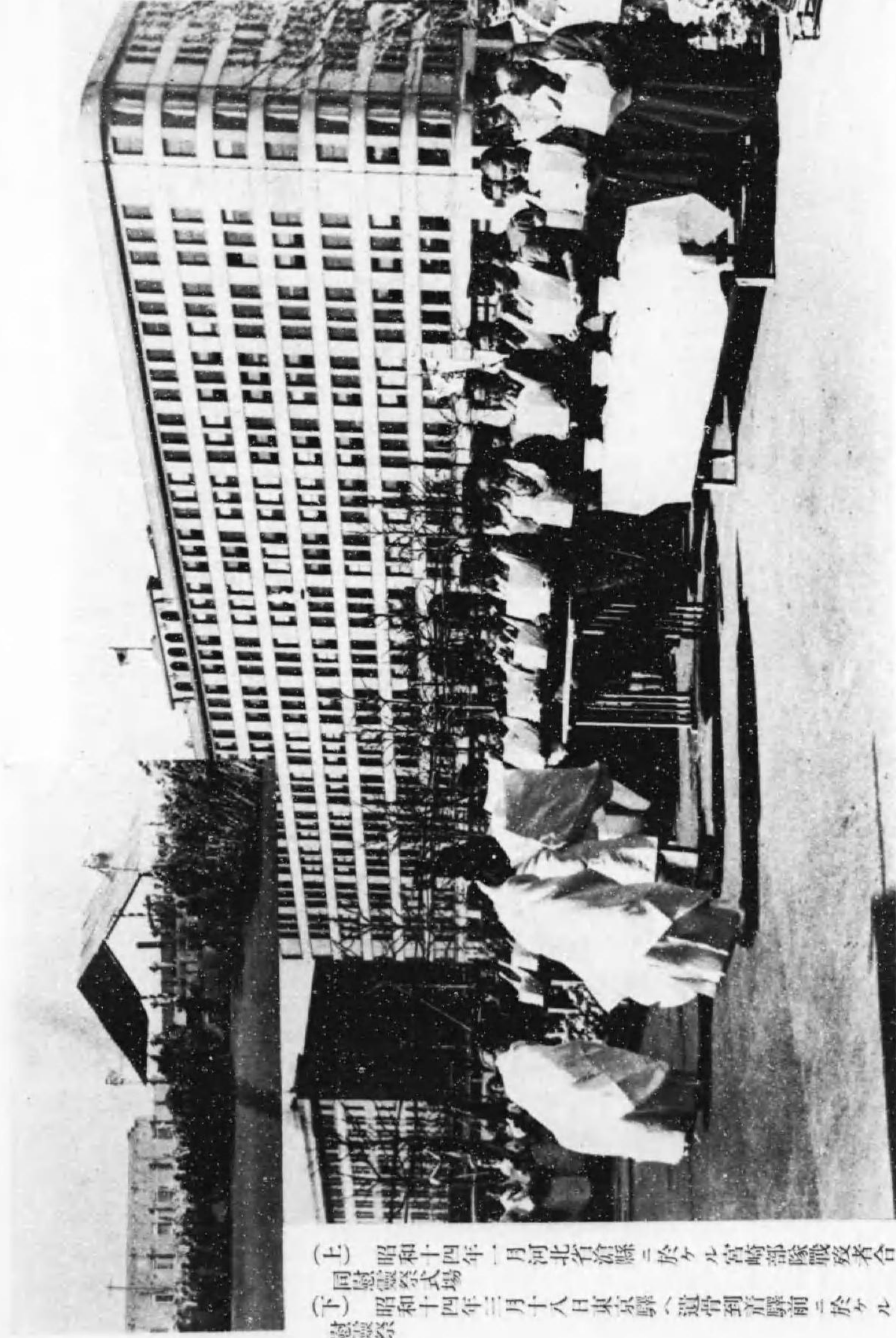


忠勇
義烈
宮崎書

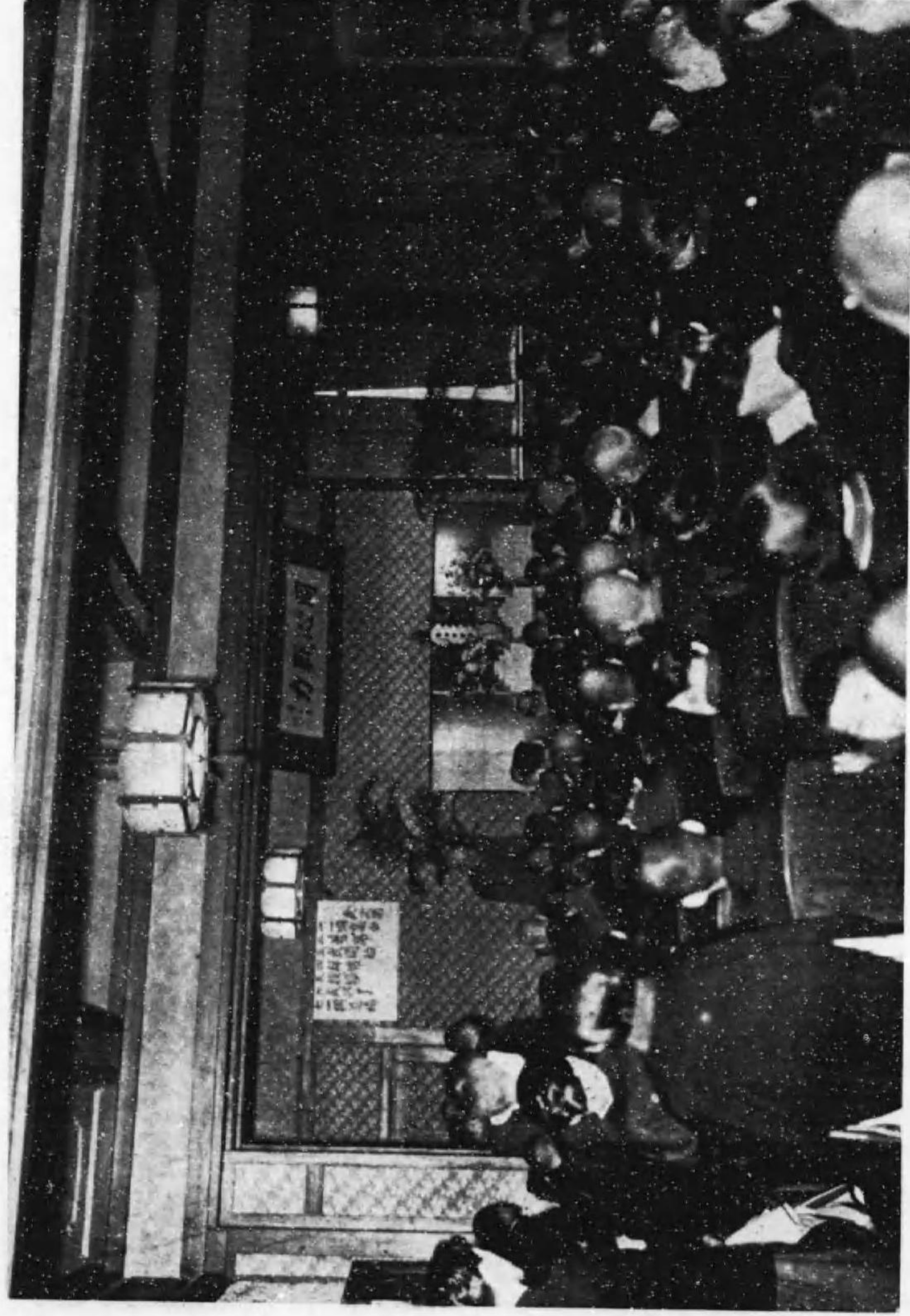
字題ノ殿長隊部同（下）像肖御ノ殿長隊部崎宮（上）



(前寺願本草堂) 影撮紀念會役員忠彰月・十年五十一和昭



(上) 昭和十四年二月河北省滄縣ニ於ケル宮崎部隊戦死者合
同慰靈祭式場
(下) 昭和十四年三月十八日東京驛へ遺骨到着驛前ニ於ケル
慰靈祭



昭和五年八月十九日軍人會館於本館閣下之招待會場

原籍地 千葉縣

所屬部隊 廣部部隊長

故陸軍歩兵大佐

廣部廣



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯

戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日

遺族住所 同 原籍地

氏名 妻 廣部壽恵子

略歴

昭和十一年八月支那駐屯軍壹嶋部隊第〇大隊長ヲ命ゼラル。昭和十二年七月七日ヨリ八月十六日迄天津、北京、廣安門ノ警備並ニ戦闘ニ參加、同年十月二十三日ヨリ十一月九日迄忻口鎮、太原ノ戦闘ニ參加、十三年九月二十六日中華民國江西省德安縣麒麟峯ノ戦闘ニ於テハ必勝ヲ期シ部下ヲ督勵シテ勇戦奮闘大多數ノ敵ヲ斃シ漸ク占領セシガ此時不幸敵彈命中シテ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラル、後ニ至リ廣部山ト命名サル。享年四十二歳、有爲ノ將校ヲ失ヒシハ祖國ノ損失ナリ。

原籍地 茨城縣眞壁郡下妻町
 所屬部隊 廣部部隊高木隊長
 故陸軍歩兵少佐 高木 哲 壽
 法 名 忠烈院釋唯信哲壽居士



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 妻 高木 はま

略 歴

昭和十一年五月支那駐屯歩兵第〇聯隊附ヲ命ゼラル、十二年七月七日ヨリ九月七日迄天津、北京、廣安門、南苑、豐台、通州附近ノ戦闘及ビ警備ニ參加、十月十三日ヨリ十一月九日迄忻口鎮、太原等ノ戦闘ニ參加、昭和十三年三月宮崎部隊附ヲ被命、九月十五日ヨリ二十六日迄、武漢攻略戰ニ參加、丁家山、麒麟峯ノ戦闘ニ參加、九月二十七日江西省德安縣麒麟峯高地ノ戦闘ニハ精銳ノ部下ヲ指揮シ、自ラ敵ト交戦シテ數々ノ武勳ヲ樹テ、多大ノ損害ヲ與ヘ馳名ヲ馳セタルガ頭部ヘ手榴彈破片創ヲ受ケ惜シクモ戰場ノ華ト散リ護國ノ神トナラル。

原籍地 島根縣瀨摩郡大森町
 所屬部隊 廣部部隊、上田隊長

故陸軍歩兵少佐 上田 謙 治 郎
 從六位 勳四等 功五級
 法 名 正徳院謙譽殉忠義禮居士
 明治卅一年七月十日生



戰歿場所 中支江西省德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月廿七日
 遺族住所 島根縣安濃郡久手町
 氏 名 妻 上田 ヨ シ 子

略 歴

明治卅一年七月十日 島根縣瀨摩郡大森町ニ誕生
 大正七年十二月 〇〇聯隊第〇〇中隊ニ入營ス
 昭和六年 士官學校卒業
 同 七年一月 少尉ニ任官
 同 十年一月 中尉ニ任官
 同 十一年三月 北支派遣ヲ命ゼラル
 同 十二年七月 日支事變勃發後通州南園一文字山路江郷等ノ戦闘ニ參加、同年九月板垣部隊ノ山西遠征軍ノ増援部隊トシテ天津ノ萱島部隊ニ屬シ出征セリ、出動中各地ノ激戦ニ參加殊ニ太原城突入ノ際ハ東門ヨリ部隊本部ト共ニ一番乗ニ參加ス。
 同年十一月三日付大尉昇級宮崎部隊第〇大隊第〇中隊長被命同十三年四月迄保定附近ニ於テ守備勤務、同年七月漢口攻略戰ニ參加ノタメ北支出發南京上陸九月上旬九江ヨリ瑞昌蕩漢等ノ山岳戰ニ參加頭敵ヲ蹴散シツ、炎暑ヲ冒シテ不眠不休夜襲ニ白兵戰ニ連戦連勝進軍中蕩漢突破ノ前哨戰タル麒麟峯ノ激戦ニ大隊長戰死ノ後部隊ノ指揮官ヲ命ゼラレ奮戦中遂ニ戰死セリ、同年十月一日少佐ニ任官セラレ功ニ依リ從六位勳四等功五級ニ叙セラレタリ。

原籍地 廣島縣佐伯郡深江村
 所屬部隊 支那駐屯宮崎部隊
 故陸軍歩兵大尉 正七位
 勳六等
 功四級 樋上 浦一
 法名 大雄院釋至佑

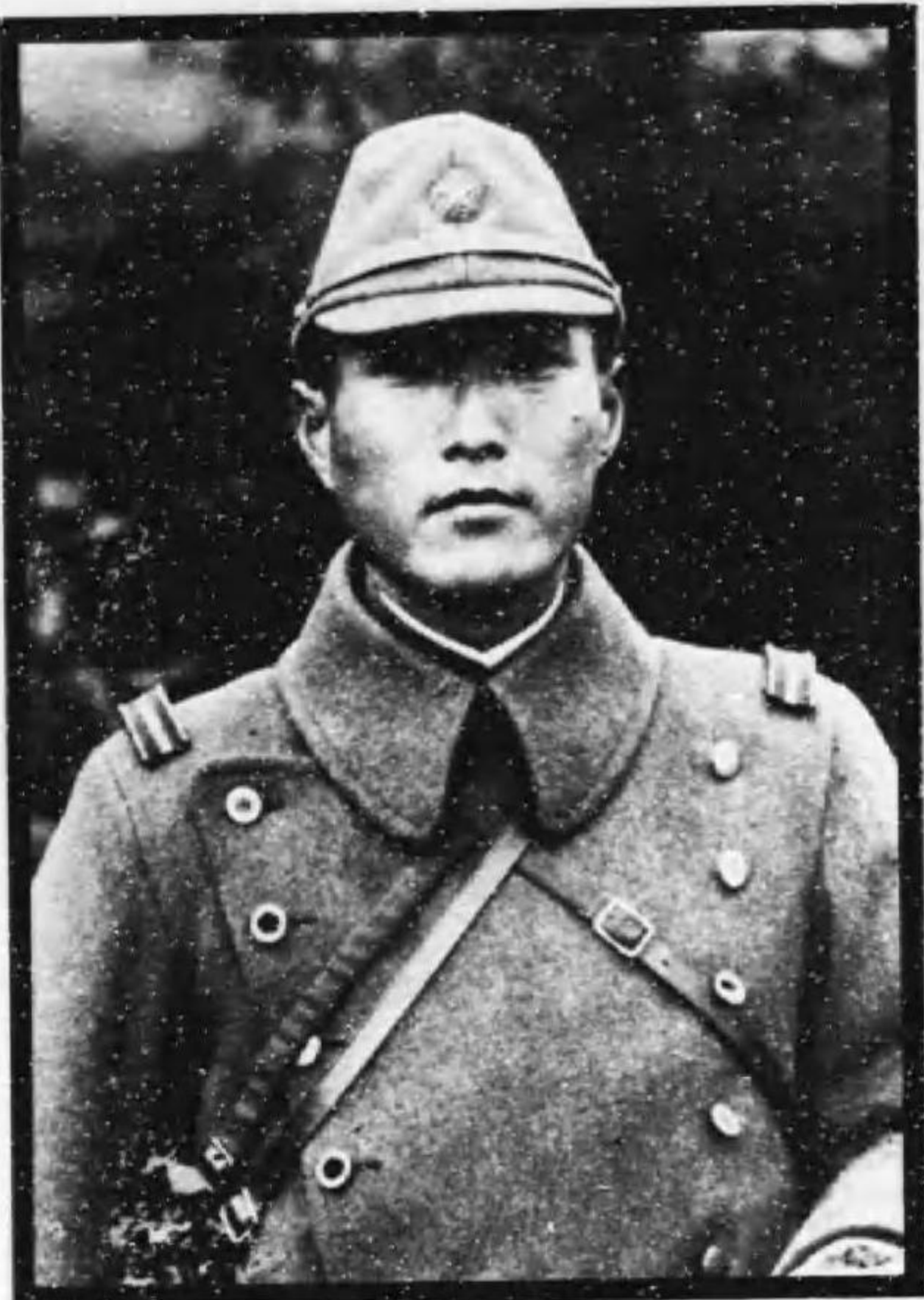


戰歿場所 中華民國江西省德安縣麒麟峰高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 妻 樋上ハルミ

略 歴

一、明治三十九年十月一日廣島縣佐伯郡深江村ニ誕生
 一、大正十五年一月〇〇歩兵第〇〇聯隊へ入隊
 一、昭和五年四月〇〇陸軍歩兵學校附命ゼラル
 一、昭和十一年十二月少尉候補者トシテ陸軍士官學校へ入學
 一、昭和十二年九月陸軍士官學校卒業
 一、同年十月歩兵少尉ニ任官、同時支那駐屯歩兵第〇〇聯隊附拜命
 一、昭和十三年四月同歩兵第〇〇聯隊附トナル、保定附近ニテ營備
 討伐ヲナシ八月北支出發海路南京へ上陸シ九月上旬九江ヨリ瑞
 昌、箐溪等ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散シ炎暑ヲ冒シ
 テ不眠不休夜襲ニ白兵戰ニ奮戦セシモ麒麟峰高地ノ激戰ニ於テ九
 月二十七日名譽ノ戰死ヲ遂ゲタリ、同日附歩兵大尉ニ任ゼラル、
 功ニ依リ勳六等功四級ニ叙セラル。
 尙師團長閣下ヨリ賞詞ヲ授與サル。

原籍地 千葉縣君津郡長浦村久保田五七九
 所屬部隊 湯田部隊三重野隊
 故陸軍歩兵大尉 正七位
 勳六等
 功五級 近 藤 益夫
 法名 忠光院義紘照道大居士 明治三十五年十一月四日生



戰歿場所 湖北省陽新縣龍港西方唐庄山
 戰歿年月日 昭和十三年十月十三日午前十一時四十分
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 近 藤 靖

略 歴

大正十四年三月法政大學豫科卒業、昭和三年三月法文學部文學科
 卒業、四年二月一日歩兵第〇〇聯隊幹部候補生トシテ入營、五年四
 月法政大學工業學校教諭拜命、漢口作戰ニハ十月五日迄聯隊旗手
 代理拜命、後湯田部隊三重野隊小隊長トシテ十月初旬ヨリ中旬迄
 岩嶺山附近、唐庄山等ノ攻撃ニハ卒先陣頭ニ立ツテ勇戦奮闘偉勳
 ヲ樹テ、唐庄山高地奪取後六回ノ逆襲ヲ悉ク撃退セシメシガ最後
 ノ攻撃ニハ敵中へ軍刀ヲ振ツテ突撃シ壯烈ナル白兵戰ヲ惹起シ敵
 數人ヲ殲シタルガ、十月十三日正午頃一彈飛來心臟部ヲ貫キ壯烈
 ナル戰死ヲ遂ゲラル、此狀況ヲ師團長閣下、歩兵團長閣下視察セ
 ラレ大ニ感激サル。
 此奮闘振リコソ鬼神ヲモ泣カシメ眞ニ軍人ノ龜鑑タリ、將兵一同
 ノ意氣ヲ鼓舞シ皇軍ノ勇氣百倍セシム。

原籍地 廣島縣佐伯郡二十日市町三百四十五番地
 所屬部隊 支那駐屯宮崎部隊藤原隊代理
 故陸軍歩兵大尉 正七位
 功五級
 中丸信一
 大正五年十月十五日生
 法 眞華院釋正定



戰歿場所 中華民國湖北省陽新縣陽新鎮東南方孟烟山
 戰歿年月日 昭和十三年十月十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 中丸周一

略 歴

大正五年十月十五日廣島縣佐伯郡二十日市町ニ誕生
 昭和八年三月廣島縣立廣島第二中學校四學年修業
 同年四月陸軍士官學校豫科ニ入學
 同年三月卒業、歩兵第〇〇聯隊附士官候補生ヲ命ゼラレ、同年七月士官學校本科ニ入學
 同十二年六月卒業
 同年八月二十一日陸軍歩兵少尉ニ任ゼラレ支那駐屯軍ニ轉補北支ノ野ニ轉戦ス
 同十三年三月三十一日陸軍歩兵中尉ニ任ゼラル
 同年八月武漢攻略戦ニ參加ノ爲メ北支ヲ出發、海路南京ニ至リ揚子江ヲ遡リテ同月末鄱陽湖西岸ニ上陸、九江瑞昌ヲ經テ江南山岳戦線ヲ進撃、不眠不休ノ奮闘ヲ續ケ來リシガ十月中旬陽新鎮東南方富水河南岸ノ敵陣地攻略ヲ命ゼラル、ヤ中隊ノ兵ヲ率テ連夜ニ互リ夜襲ヲ決行、頑強ナル敵陣地ヲ攻略セシガ十六日夜襲ニ依リ孟烟山高地ヲ占領セシ際敵ノ拳銃彈ヲ腹部ニ受ケ翌十七日早朝同地ニ於テ戰歿ス。
 同日陸軍歩兵大尉ニ任ゼラレ正七位勳五等双光旭日章及功五級金鷄勳章ヲ賜ル。

原籍地 鳥取縣東伯郡社村字横田五九五
 所屬部隊 吉田部隊白貝隊
 故陸軍歩兵大尉 正七位
 勳五等
 功五級
 大場友好
 明治三十五年二月二十七日生
 法 天彰院忠鑑義光居士



戰歿場所 湖北省辛潭舖野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十五日午前二時
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 妻 大場みち

略 歴

大正十年十二月現役志願兵トシテ歩兵第〇〇聯隊ニ入隊、昭和六年十二月滿洲事變ニ參加、小隊長トシテ各地ニ轉戦、勳六等並ニ功七級ヲ賜フ。八年五月准尉ニ任官、十一年五月支那駐屯歩兵第〇〇聯隊付被命、十二年第〇聯隊轉屬、七月蘆溝橋事件勃發ト共ニ小隊長トシテ參加、引續キ各地ニ轉戦シ、九月少尉ニ任官、十三年九月中尉ニ累進、十月漢口ノ攻撃ニ參加、頑敵ヲ撃退セシメ麒麟峯ノ難險ヲ突破シ武勳ヲ樹テ、十月二十日小隊長ヲ指揮シ夕刻ヨリ某高地攻撃ノ命ヲ受ケシガ頑強ニ抵抗シ容易ニ奪取シ得ザリシモ小隊ハ一致團結突撃シ遂ニ占領ス。右戦闘中不幸敵ノ手榴彈腰部足部ニ命中シ再ビ立ツ能ハズ、野戰病院ニ收容セラレ手厚キ療養ヲ受ケタルモ其效ナク、二十五日名譽ノ戰傷死ヲ遂ゲラル。同日大尉ニ任ゼラレ勳五等旭日章並ニ功五級ヲ下賜セラル。

原籍地 埼玉縣北足郡田間宮村登戸
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵中尉 功七位
 功六等 小 高 周 範
 功五級 明治四十年七月三日生
 法 名 四等司教權大僧都周範



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 母 小 高 さ 己

略 歴

大正十四年三月埼玉縣立熊谷中學校卒業、昭和五年三月大正大學
 々部英文學科卒業、昭和六年幹部候補生トシテ歩兵第〇聯隊ニ入
 隊、同年十一月除隊、昭和九年三月陸軍歩兵少尉ニ任官、正八位
 ニ叙セラル、昭和十二年十月召集ニ依リ應召、昭和十三年三月支
 那駐屯宮崎部隊江田中隊付、同年七月漢口攻略戰ニ參加、同年九
 月二十六日江西省德安縣白水街西側麒麟峯高地ノ激戰ニ於テ頭部
 ニ貫通銃創ヲ受ケ名譽ノ戰死ヲ遂ゲ。

原籍地 熊本縣鹿本郡山東村大字有泉
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵中尉 功六等
 功五級 出 田 正 明
 大正五年四月一日生
 法 名 淳城院釋義正信士



戰歿場所 中支德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日午後三時
 遺族場所 熊本縣鹿本郡山東村有泉
 氏 名 父 出 田 改 實

略 歴

昭和八年三月縣立菊池農藝學校卒業、四月ヨリ農業ニ従事、同年
 七月幹部候補生ヲ命ゼラレ宮崎部隊ニ編入、八月北支出發、海路南
 京上陸、九月上旬九江ヨリ麒麟峯ニ至ル山岳戰ニ參加、特ニ麒麟
 峯攻撃ハ三日二晩逆襲又逆襲頑強ニ抵抗セル敵ニ肉迫、敵前五十
 米實ニ劍戟相摩ス自兵戰中、特殊命ヲ受ケ發煙班ヲ率テ眞先ニ正
 面ノ岩上ニ跳ビ上リ風上ヘ煙幕ヲ張り強敵ヲ苦シメ突撃ニ移リ、
 小隊ノ先頭ニ立ツテ指揮中飛來セル一彈ハ足部ヲ貫通シタルモ頓
 着セズ足ヲ曳キツリツ、勇敢ニ進撃中不幸再ビ腸部ヲ貫通シ遂ニ
 斃ル、時ニ二十七日午後三時ナリキ、同日附任歩兵中尉、功ニ依
 リ勳六等功五級ニ叙セラル。

原籍地 千葉縣山武郡豐海町粟生
 所屬部隊 湯田部隊森垣隊
 故陸軍歩兵中尉 勳六等功五級 子 安 浩
 明治三十九年九月三十日生
 法 名 信義院殉國日浩居士



戰歿場所 河北省肅寧縣灣村
 戰歿年月日 昭和十四年二月五日午後三時三十分
 遺族住所 東京市本郷區西片町十ノ七
 氏 名 妻 子 安 珠 子

略 歴

大正十三年千葉縣山武郡成東中學校卒業、昭和二年第一高等學校卒業、昭和五年東京帝大法學部卒業、四月ヨリ協調會調査部ニ勤務、十月初旬九江ニ上陸武漢攻略戰ニ參加、第一線小隊長トシテ連戰連勝シ漢口ニ突入、赫々タル武勳ヲ樹テ部下ト共ニ北支ニ轉戦ス、越エテ十四年一月討伐戰ニ參加、二十三日河北省滄縣ヲ出發、二月四日早朝肅寧縣灣村ニ於テ降雲程ニ戰鬪ヲ開始シ終始中隊ノ第一線ニテ奮闘中午後三時三十分敵ノ三彈ヲ身ニ蒙リ遂ニ斃ル、軍醫ノ手厚キ療養モ出血夥シカリシ爲效ナク五日戰死セラル、享年三十四歳、同日中尉ニ任官セラレ功ニ依リ勳六等功五級ヲ賜ル、幼少ノ子女ヲ殘サレ同情セザル人ナシ。

原籍地 岐阜縣可兒郡小泉村大原
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵少尉 正八位勳六等功五級 若 尾 東 四 郎
 明治三十六年十二月二日生
 法 名 至誠院忠山良節居士



戰歿場所 北支河北省曲陽縣燕趙鎮
 戰歿年月日 昭和十三年六月四日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 妻 若 尾 す ぐ か

略 歴

明治三十六年十二月二日岐阜縣可兒郡小泉村大原ニ誕生、大正五年三月小泉尋常高等小學校卒業、同年四月ヨリ家事ニ従事。歩兵第〇〇聯隊在勤中健康ヲ損シ豫備役ニ編入二年後志願シテ現役ニ入り、昭和十一年五月支那駐屯軍ニ編入、事變勃發同時萱島部隊ニ屬シ天津、山西ニ轉戦、難攻不落ノ忻口鎮ヲ屠リ太原ヲ陥レ、其後郎坊附近ノ警備ニアリテ三月宮崎部隊編成ニ當リ中隊幹部トシテ下士官兵ノ教育ニ當リ、然ルニ六月四日抗日策動ヲ繼續セル共匪ヲ曲陽縣燕趙鎮附近ニ攻撃スルニ當リ第〇小隊長トシテ敵彈雨飛中部下ヲ叱咤卒先陣頭ニ立チテ奮戰中敵彈來ツテ其ノ右頬部ニ命中シ遂ニ戰死ス。同日附少尉ニ任官セラレ正八位勳六等功五級ニ叙セラル。

原籍地 長野縣上伊那郡伊那里村市野瀬四一八ノ一
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵少尉 正八位
 勳六等
 功六級 北原 繁三
 法名 殉忠院顯孝義鑑居士 明治四十三年三月二十五日生



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十五日午前四時半
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 北原 僊亮

略 歴

昭和四年十二月現役兵トシテ歩兵第〇〇聯隊へ入營、昭和六年十一月〇〇陸軍教導學校卒業。
 昭和八年上海派遣、吳淞、泖河鎮ニ轉進、同年五月〇〇港へ上陸、馬家船口、呼蘭、綏化、海北鎮等ノ戰鬪ニ參加、昭和九年内地歸還、昭和十年歩兵曹長ニ任官、昭和十一年五月支那駐屯歩兵第〇聯隊ニ編入天津ニ駐屯、昭和十二年七月七日蘆溝橋事件ニ端ヲ發シ以來各所ニ轉戦ス、昭和十三年三月歩兵宮崎部隊ニ轉入、同年八月北支出發海路南京上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、蕪溪等ノ山岳戦ニ參加、同月二十五日麒麟峯攻略戦ニ頑強ニ抵抗セル敵ト交戦十數回ニ及ビ苦戰奮闘遂ニ攻略セリ、此奮戦中不幸敵彈顔面及ビ胸部ニ命中シ午前四時半名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル、同日附少尉ニ任官セラレ功ニ依リ勳六等功六級ニ叙セラル。

原籍地 岡山縣苫田郡上齊原村二一〇
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵少尉 正八位
 勳六等
 功六級 牧野 清士
 法名 盡忠院清光還元居士 明治四十一年一月二十日生



戰歿場所 江西省九澤兵站病院
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 岡山市南方玉江町九五
 氏名 妻 牧野 千代子

略 歴

大正十年三月高等小學校ヲ卒業後、同公民學校ヲ卒業シ家業農ニ従事、昭和三年一月現役志願兵トシテ歩兵第〇聯隊ニ入隊、同〇〇年五月支那駐屯警備中、〇〇年七月蘆溝橋事變以來各地ニ轉戦數十回、第〇聯隊ニ編入、徐州開戦ニ參加、歸德城ヲ奪取、瑞昌所在ノ敵ヲ撃破シツ、通山方面急進中、嶺碑山東西ノ線ニ據レル數倍ノ敵ヲ猛攻數刻、少尉決然起テ特別班ヲ率ヒ敵前近ニ迫リテ悠々任務遂行、赫々タル武勳ヲ奏セルモ不幸右大腿部ニ貫通銃創ヲ受ケ九月二十七日九江兵站病院ニ瀉焉トシテ散ル。
 功ニ依リ勳六等功六級ニ叙セラル。

原籍地 岐阜縣岐州市啓運町一ノ一
所屬部隊 宮崎部隊

故陸軍歩兵少尉 正八位
功六級 馬淵 禮
法名 眞明院釋忠純 明治四十年十二月十日生



戰歿場所 北支河北省張庄北端
戰歿年月日 昭和十四年三月一日
遺族住所 岐州市啓運町一ノ一
氏名 妻 馬淵 とし

原籍地 長野縣下伊那郡河野村
所屬部隊 廣部部隊江田隊

故陸軍歩兵准尉 勳七等
功六級 森 脇 正 治
法名 正忠院殊勳晃耀清居士 大正二年七月一日生



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯高地
戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
遺族住所 同 原籍地
氏名 父 森 脇 辰 藏

略 歴

一四

明治四十年十二月十日岐阜縣安八郡神戶村ニ誕生、昭和三年十二月歩兵第〇〇聯隊ニ入隊、同五年十一月〇〇教導學校卒業、同六年十二月陸軍〇〇學校甲種學生修業、同七年六月ヨリ支那駐屯、同八年五月北京歩兵隊本部附命ゼラル、同九年四月昭和六年乃至九年事變ノ功ニ依リ勳七等ニ叙セラル、同十一年四月陸軍歩兵曹長〇〇軍司令部附ヲ命ゼラル、同十三年任陸軍歩兵准尉支那駐屯宮崎部隊附命ゼラル、同年八月北支發海路南京へ上陸、九月上旬九江ヨリ武漢攻略戰ニ參加、瑞昌、箐溪、通城等ノ要衝ヲ攻略、嶮峻ナル山嶽地帯ニ據ル頑敵ヲ擊破、漢口へ突入後北支ニ歸還、同年十月勳六等ニ叙セラル、翌年新春共匪掃滅明東亞建設ノ大任ヲ帯ビ津浦、京漢兩線ノ中間地區ノ共匪討伐ニ宜撫ニ活躍中三月一日警備行動中張庄北端ニ達シ十數倍ノ敵ニ遭遇、寡兵克ク奮戰力闘多大ノ損害ヲ與ヘ敗退セシメシガ敵彈ノ爲腹部貫通銃創ヲ受ケ戰死ス、同日附少尉ニ任官、正八位ニ叙セラレ、功六級單光旭日章ヲ賜フ。

略 歴

昭和四年四月更級農業拓殖學校ニ入校シ、六年十月長野武德殿ニ於テ劍道初段ヲ得、七年三月學力優秀、品行方正、實習精勵賞授與サレ、同校本科卒業後家業ニ従事、同年未丁年現役志願ニ合格、昭和八年一月二十日〇〇歩兵第〇〇聯隊ニ入隊ス、當時滿洲事變ノ際ニテ數日ニシテ渡滿シ教育ヲ受ケ、六月十五日ヨリ下士官候補者教育ヲ受ケ金州齊々哈、呼蘭連江口附近ノ警備、鎮山鎮討伐、十月二十日陸軍教導學校入校ノ爲メ連江口ヲ出發シ新京、呼蘭ヲ經テ鴨綠江通過内地歸還、十二月一日仙臺教導學校入學、伍長勤務上等兵ニ進級、在校中九年十一月十一日ヨリ十四日迄埼玉、栃木、群馬縣下ノ特別大演習ニ參加、二十一日卒業、原隊歸着、伍長ニ任官、第〇中隊付被命、十年十二月軍曹ニ累進、滿洲事變ニ依リ勳八等ニ叙セラル、十一年五月十六日支那駐屯宮崎部隊付トナリ天津ノ戰闘、太原作戰、北支、中支ニ轉戰、曹長ニ任ゼラレ西苑保定營備丁家山麒麟峯擊戰ニ上官傷キ指揮中左胸部貫通銃創ニテ戰死サル、享年二十六歳ナリキ。

一五

原籍地 東京市豊島區椎名町二ノ一八四九
 所屬部隊 湯田部隊三重野隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 澤 田 庸
 法 名 正覺院精忠庸德居士
 大正二年九月十三日生



戰歿場所 河北省清苑縣保定
 戰歿年月日 昭和十三年五月十三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 澤 田 初 枝
 母 澤 田 初 枝

略 歴

昭和十二年三月東京商科大学卒業、四月ヨリ三菱信託株式會社ニ入社ス。
 昭和〇〇年二月十九日召集セラル、三月十日出發、五月十三日北支保定附近ノ討伐並ニ警備中、敵大部隊ノ襲撃ヲ受ケ決死ノ勢ニテ應戰中、敵彈頭部ヲ貫通シ、遂ニ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラル。十三年六月十日無言ノ凱旋ヲナサレ、六月十八日單獨豊島區民葬執行。
 同十三年六月二十六日郷里京都市南禪寺天授庵墓所ニ納骨シ、十五年秋靖國神社へ合祀セラル。

原籍地 東京市下谷區山伏町八
 所屬部隊 湯田部隊三重野隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 本 多 實
 法 名 釋英薰信士
 大正五年七月八日生



戰歿場所 河北省保定
 戰歿年月日 昭和十三年五月十四日
 遺族住所 東京市荒川區日暮里町三ノ一四四
 氏 名 本 多 實
 母 本 多 ツ ネ
 兄 本 多 昇

略 歴

昭和六年三月東京市立今戸高等小學校卒業
 昭和〇〇年三月一日應召、支那駐屯宮崎部隊へ入營、同年五月十四日突然敵ノ襲撃ヲ受ケ頑強ニ抵抗シ多數ノ強敵ヲ斃シタルモ不幸敵彈命中シ、保定西關市街南方六〇〇米地點ニ於テ戦死セラル、紀元二千六百年ノ光輝アル秋季ニ靖國ノ神トシテ合祀セラル。

原籍地 東京市江戸川区小岩町六ノ四五
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 町山 瀧 藏
 功七級
 法名 盛賢院義烈瀧昌居士
 大正六年二月九日生



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 兄 町山高太郎

原籍地 東京市板橋區下赤塚町一五一七
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 小泉 正 雄
 功七級
 法名 天忠正道居士
 大正六年六月七日生



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 小泉 豊吉

略 歴

昭和四年三月小岩小學校卒業、三月龜戸松本青果店ニ勤務、七月葛飾區堀越製作所ニ勤務、〇〇年三月北支宮崎部隊ニ應召、徐州、隴海沿線、孟樓、歸德等ノ戦闘ニ参加シ偉勳ヲ奏ス、六月一日柳河集南方火食店等ノ戦闘ニ参加、張庄附近ノ戦闘ニテ頑強ナル敵ニ遭遇シ、之レヲ撃破シ第一線陣地へ突入セル瞬間不幸敵彈ヲ右肩胛部ニ受ケタルモ毫モ屈セズ、追撃シ敵陣ヲ占據スルヤ又モ胸部貫通銃創ヲ蒙リ精魂盡キ安堵ノ色ヲ浮ベ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲラル。

略 歴

小泉氏ノ三男ニ生レ、昭和七年三月赤塚小學校卒業、農業ノ傍青年學校ニ入學模範タリ、昭和十二年教練査閱官正木大佐殿ヨリ賞詞授與サル、十二年甲種合格、北支駐屯歩〇部隊へ入營、徐州會戦ニ参加、其他各地ニ轉戦殊勳ヲ樹テシガ、六月一日張庄附近ノ戦ハ數倍ノ敵ト奮戦シ残ラズ撃破シ更ニ勇躍敵陣ニ突入ノ際、不幸敵彈ノ爲メ顔面及ビ左頸部ニ貫通銃創ヲ受ケ壯烈ノ戦死ヲ遂ゲ、同日上等兵ニ進級セラル。

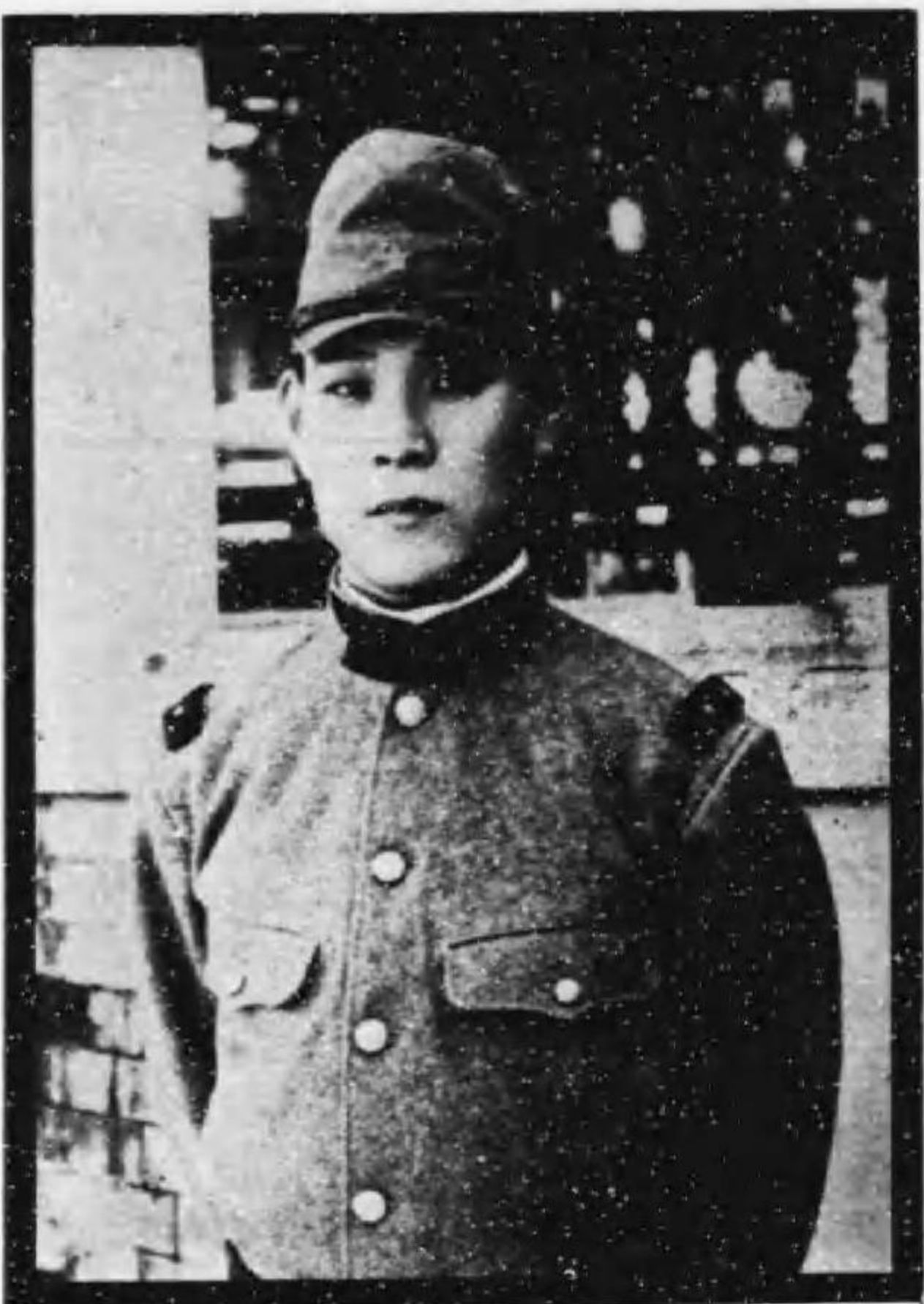
原籍地 東京市牛込區津久戸町二四
所屬部隊 吉田部隊山崎隊

故陸軍歩兵上等兵 從七位
勳八等
功七級 江平 森 司
法名 奉公院釋忠孝大居士
大正二年五月十七日生



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄附近
戰歿年月日 昭和十三年六月二日
遺族住所 同 原籍地
氏名 母 江平 かの

原籍地 東京市品川區東大崎一ノ八一六
所屬部隊 吉田部隊山崎隊
故陸軍歩兵上等兵 勳八等
功七級 平澤 房 吉
法名 義烈院勳譽房道居士
大正五年二月十五日生



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄西北方
戰歿年月日 昭和十三年六月二日午前九時三十分
遺族住所 同 原籍地
氏名 母 平澤 オツ

略 歴

昭和九年三月武藏高等學校高等科卒業、昭和十二年三月東京帝國大學農學部卒業、四月一日農林省經濟更生部金融課ニ勤務中、昭和〇〇年三月一日歩兵第〇〇聯隊ニ應召、北支ニテ教育ヲ受ク、六月一日附任農林技師高等官七等叙從七位、京漢線南方方面警備ニ任ジ、次デ五月中旬徐州會戰臨海線ノ戰闘ニ赫々タル武勳ヲ樹テ、六月二日歸德西南方約四十軒柳家集南方張庄附近ノ敵陣地要點ノ攻撃ヲ命ゼラレ十數倍ノ敵ニ對シ惡戰苦闘遂ニ之ヲ擊破シ、重要ナル任務ヲ果シタル戰況下ニ於テ終始勇敢ニ行動シ敵ノ第一線ニ突撃シ之ヲ奪取シ更ニ後方陣地ニ突入ノ瞬間不幸敵彈ヲ受ケ自由ヲ失ヒタルモ毫モ屈セズ尙突進ヲ續ケ第二陣地ヲ完全ニ占領、任務終ルヤ精魂盡キ再ビ立ツ能ハズ、安堵ノ色ヲ浮ベ天皇陛下萬歲ヲ連呼シツ、戰死ヲ遂グ。

略 歴

昭和三年品川第五日野小學校卒業、四月ヨリ家事ヲ手傳ヒ、後歸物工ニ従事、昭和〇〇年三月十一日北支駐屯長谷川部隊ニ入營、七月七日事變勃發スルヤ蘆溝橋一文字山、南苑等ノ戰闘警備ニ任ジ、八月八日廣安門ヨリ北平城ヘ入城、本部傳令ヲ命ゼラレ、十月一日交代、三日ヨリ三家店ノ討伐ニ參加、十二日天津東站日本憲兵分駐所補助ヲ命ゼラレ勤務中、不幸入院、十二月三日足ヲ手術、十三年二月下旬退院、三月宮崎部隊ニ轉屬、五月初旬ヨリ特別任務ノ爲徐州戰ニ參加、六月二日張庄西北方無名部落ノ戰闘ニ於テ戰死。

原籍地 東京市荒川區日暮里町二ノ三九
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 森 勝三郎
 大正六年三月二十五日生
 法名 勇猛院報國日勝居士



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 東京市向島區吾嬬町西六丁目一〇五
 氏名 父 森 寅之助

略 歴

昭和七年三月下谷區龍泉寺東盛小學校卒業、昭和十一年上野市立中學校第四年ニテ退學、萬年筆製造ニ従事ス。昭和〇〇年三月〇〇歩兵第〇聯隊へ召集セラル、三月十日〇〇驛出發、北支ニテ第一期檢閲ヲ受ケ、六月一日一等兵ニ進級、二日ヨリ保定附近ノ警備中柳河集張庄ニテ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル、同日上等兵ニ進級、弟末之助君モ昭和〇〇年一月召集セラル、母ハ勝三郎君ノ戰死ト未之助君ノ召集ヲ苦ニ思ヒ死去セラル。

原籍地 東京市本所區江東橋一ノ四ノ五號
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 鈴木 吉雄
 大正六年三月二十八日生
 法名 釋 敬 心



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 母 鈴木 シゲ

略 歴

大正六年三月二十八日日本所區菊川町一ノ二二番地ニ誕生、昭和七年三月本所高等小學校卒業、四月ヨリ京橋區大和モーター商會ニ勤務、昭和〇〇年三月一日召集、宮崎部隊山崎隊ニ編入、北中支ニ轉戦、歸德柳河集附近ノ戰闘ニ參加、十數倍ノ敵ニ遭遇シ惡戰苦闘遂ニ是レヲ擊破シ終始勇敢ニ奮闘、第一線ヲ突破シタルモ不幸敵彈ヲ蒙リ斃ルモ屈セズ突撃セルガ精魂盡キ再起スルコト能ハズ、六月二日戰場ノ華ト散ル。

原籍地 東京市向島區寺島町六ノ五四
 所屬部隊 山下部隊吉田部隊白貝隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 豐野 辰伯(月遊)
 功七級
 法名 照忠院殿功譽誠心辰伯大居士
 大正二年十一月十一日生



戰歿場所 河北省定縣々城南關
 戰歿年月日 昭和十三年七月八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 豐野 圭伯

略 歴

豊野君ハ新潟縣南魚沼郡蕨神村市野江第一番戶圭伯氏長男ニ生レ
 昭和十二年三月麹町區富士見町日本齒科醫學專門學校卒業、學士
 ノ稱號ヲ受ク、十二年五月齒科醫師免許證ヲ受ケ父業ヲ嗣グ、得
 意ノ運動、講武水田流、水泳教師免許、講道館柔道一級、堤寶山
 流柔術第二十二代免許皆傳、昭和〇〇年三月日支事變ニ應召、五
 月二十日上等兵候補者ニ選バル、七月八日定縣城東關ニ立哨中百
 五十名ノ敵襲ヲ受ケ單身城門ヲ死守シ敵ヲ一步モ城内ニ入レズ克
 ク任務ヲ完遂セシガ不幸敵彈胸部ヲ貫通シ遂ニ斃ル、北支駐屯中
 西苑、望都、定縣、蕪趙鎮、安國縣城等ノ警備討伐ス。
 戰死サル、ヤ部隊長殿以下將校團、在支邦人、支那官民等ニ哀惜
 セラレ弔辭、花輪、輓章、輓聯等贈ラル、定縣知事高倣然氏ヨリ
 棄家越海征伐北支不幸定縣星落東門全體將士兵燹涙。故郷扶桑幼
 承庭調諷料中山命隕地方闕境民衆同含悲。敬輓ヲ贈ラル。

略 歴

大正二年五月東京ニ生レ、中學四年ヲ經テ昭和十一年三月慶應義
 塾大學ヲ卒業、翌四月東邦電力會社ニ入社、勤務中昭和〇〇年三
 月一日應召〇〇聯隊ニ入營、同月六日駐支部隊要員トシテ屯營出
 發、渡支北京到着宮崎部隊多田隊ニ編入、北京ヨリ保定ニ移駐、
 訓練討伐、同年五月徐州會戰ニ參加各地ニ轉戰、碭山、歸德攻略入
 城、附近隴海線警備、七月下旬保定ニ歸還退ナク再ビ武漢攻略戰
 參加ノ命下リ保定出發黃海ヲ經テ揚子江遼江、八月下旬南京ニ集
 結、九月上旬九江附近ニ進出、同月十三日九江ヨリ瑞昌ヲ經テ十
 六日愈々江南戰線中央突破ノ火蓋ハ切ラレ前線ノ敵ヲ擊破スルヤ
 所屬隊ニ敵急追ヲ命ゼラル、本人ハ大隊砲觀測手トシテ參加敵ヲ
 追ヒ、十七日馮家舖附近ニ達スルヤ敵ハ茶園嶺堅固ノ陣地ニ據リ
 砲機銃ヲ亂射頑強ニ抵抗ス、我隊ハ展開敵ヲ猛攻ス、大隊砲モ猛
 射シ其攻撃ヲ援護中戰鬪ハ進捗隊主力ハ移動シ砲列附近小隊長以
 下五名ノ時側背竹藪中ヨリ約十數名ノ敵突如砲列ヲ襲撃シ來ル、
 此危急ニ沈着怯マズ先勇敢ニ銃劍ヲ揮ツテ突撃奮戰中不幸敵彈
 ニテ頭部貫通銃創ヲ受ケ壯烈ナル戰死ヲ遂グ、其瞬間敵ヲ擊退、
 砲列ハ無事、同時ニ敵主力モ擊破セラレ、同日附伍長ニ任ゼラレ
 功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラレ、昭和十五年十月靖國神社ニ合
 祀セラレ。

原籍地 新潟縣中頸城郡津有村大字上野田
 所屬部隊 湯田部隊彌永隊(小隊)
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 野 崎 久 雄
 功七級
 法名 忠誠院釋久雄居士
 大正二年五月十三日生



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣馮家舖附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月十七日
 遺族住所 東京市中野區野方町一丁目七六六
 氏名 父 野崎 桂次郎

原籍地 東京市豊島區西巢鴨二ノ二七八三
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 木村 信雄
 大正六年三月一日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣八卦山附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 木村 ひと

略 歴

昭和八年三月巢鴨中學校卒業、四月日本鋼管株式會社へ入社、重役ノ信望篤ク將來ヲ囑望サル。昭和〇〇年三月、宮崎部隊へ入營、模範兵トシテ計理係事務ヲ司ル、又軍旗下賜サル、ヤ中隊代表トシテ天津迄出迎フ、六月天津、保定、正定、歸德等ヲ陸路南下シ攻撃戰參加ノ爲メ南京集結、火蓋切ラル、ヤ九江上陸、同年九月十七日瑞昌縣八卦山附近ノ戰鬪ニ輕機關銃手トシテ活躍、頑強ナル敵ヲ蹴散シ八卦山ヲ占領、夜ニ入り俄然我ニ數倍ノ兵力ヲ以テ逆襲シ來リ之ニ猛射ヲ浴セシ爲テ十八日拂曉退却セシガ、不幸敵ノ手榴彈破片右肩胛ニ命中シ午前八時惜シクモ二十二歳ヲ最後トシテ散兵線ノ華ト散ル、同日伍長ニ任官ス。部隊長殿ヨリ致命傷ナルモ猶輕機ヲ放タズ責任ヲ全フセルハ軍人ノ鑑ナリト稱セラレ。功ニ依リ勳八等功七級ヲ授ケラレ、二千六百年ノ紀念ノ年ニ靖國神社ニ合祀セラレテ家門ノ榮譽ニ過グル事ナカラン。

原籍地 東京市淺草區菊屋橋二ノ五ノ一
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 小林 金太郎
 大正六年五月十日生
 法名 忠心義勇居士



戰歿場所 中支江西省瑞昌縣丁家山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 東京市淺草區永住町十八番地
 氏名 父 小林 松五郎

略 歴

大正六年五月十日原籍地ニ誕生
 昭和六年三月淺草清島小學校卒業、後伊勢丹運動部ニ入社
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯、長谷川部隊ニ入隊、同日宮崎部隊ニ轉屬江田隊ニ編入、同日ヨリ西苑保定ノ警備並ニ討伐ニ從事、八月上旬南京上陸、九月上旬九江上陸以來猪頭橋警備、同月中旬茶園峯、八卦山、丁家山等ノ戰鬪ニ參加、九月十九日江西省瑞昌縣丁家山高地ノ戰鬪ニ於テ背部ニ砲彈破片創ヲ受ケ戰死、同日上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 東京市足立區梅田町一〇一九
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 石鍋 三郎
 法名 威徳院殉義覺全居士
 大正七年十二月十日生



戰歿場所 中支江西省瑞昌縣丁家山
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 東京市足立區梅田町一〇一九
 氏名 父 石鍋 増五郎

略 歴

昭和八年東京市足立區梅島高等小學校卒業後家業ニ從事中、暴支
 膺懲ノ聲高ク齡十九歳ヲ以テ敢然現役志願トシテ昭和〇〇年三月
 一日支那駐屯軍歩兵第〇聯隊へ入營、木間部隊ニ屬シ北支戰線ニ
 嚴寒、酷暑、惡水險路ヲ冒シ勇戰奮闘堅陣ヲ突キ或ハクリーク渡
 河戰等各地ニ赫々タル武勳ヲ樹テタルモ、昭和十三年九月十九日
 中支丁家山攻撃ニ輕機射手トシテ參加、敵彈飛雨ヲ物トモセズ常
 ニ陣頭ニ立チ奮戰中不幸頭部貫通銃創ヲ受ケ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲ
 タルハ滅私奉公、家門ノ榮譽永久ニ輝クベシ。

原籍地 東京市板橋區練馬北町三ノ八五二
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 田中 庄次
 法名 瑞光院殉勇庄祭居士
 大正四年十二月六日生



戰歿場所 徳安縣麒麟峯高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 東京市板橋區練馬北町三ノ八五二
 氏名 父 田中 彌一

略 歴

昭和五年三月二十五日練馬開進第一小學校卒業、同年四月ヨリ家
 庭ニテ農業ニ従事ス、昭和〇〇年三月召集、宮崎部隊高木隊ニ入
 營、四月十一日ヨリ保定附近ノ警備及ビ討伐ニ參加、五月十日ヨ
 リ徐州戰ニ參加後茶園峯及ビ八卦山戰闘ニ參加、九月十九日ヨリ
 丁家山附近ノ戰闘ニ參加奮戰ス、二十七日麒麟峯附近ノ山頂ニ蟠
 居セル敵ニ猛射ヲ浴セテ肉迫シ交戰中敵彈命中シ二十二歳ニテ戰
 死サル、同日附上等兵ニ進級セラル。

原籍地 東京市荒川区尾久町三ノ二四八三
 所屬部隊 廣部部隊上山隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 内田 辰夫
 法名 義報忠徹居士
 大正六年二月四日生



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日午前七時三十分
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 内田 孝三郎

原籍地 東京市足立區千住宮元町七
 所屬部隊 吉田部隊白貝隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 岡田 權太郎
 法名 德安院權譽義芳居士
 大正六年十月二十一日生



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 岡田 與助

略 歴

昭和六年三月尾久小學校卒業、四月ヨリ魚商ニ従事、〇〇年二月二十日支那駐屯宮崎部隊ニ入營、四月上旬京漢線へ出動、保定ヲ中心トシテ警備並ニ討伐、高碑店、保定、定州、望都、河北等ニ於ケル戰鬥参加、南京、九江ノ奮戰ヲ終リ、武漢三鎮ノ攻略ニハ南方岳州、通城ノ線ヲ突破、十日北支轉進命令ニ接シ麒麟峯ニテ數回ノ決死隊ニ加ハリ肉彈戰ヲ演ジ、死骸ノ山ヲ踏越ヘ目的ヲ達成セシモ不幸左胸部貫通銃創ニテ九月二十七日壯烈ナル戦死ヲ遂ゲラル、一粒嵐ノ相續人ヲ御國ヘ捧ゲシ父君心中察スルニ餘リ有リ。

略 歴

昭和五年三月足立區千壽第四小學校卒業、七月ヨリ芝區須賀商會ニ勤務中、徴兵検査ニ甲種合格、〇〇年二月二十日支那駐屯宮崎部隊へ入營、北支戰線ニ出動、徐州西方及ヒ隴海線ノ各地ニ奮戰、更ニ中支ニ轉戦シ八月南京へ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌箬溪等ノ山岳戰ニ参加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散ラシ炎暑ヲ冒シテ不眠不休白兵戰ニ夜襲ニ連戦連勝セシモ、九月二十七日麒麟峯高地ノ戰鬥ニ於テ我陣地ニ逆襲シ來ル優勢ナル敵ト猛烈ニ交戦中、卒先陣頭ニ立チテ奮闘之ヲ擊退セシモ左胸部貫通銃創ヲ受ケ遂ニ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲラル。

原籍地 東京市瀧野川區瀧野川一ノ四七一
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 伊藤 輝光
 法名 瑞昌院忠誠殉輝居士
 大正六年四月十四日生



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 伊藤 やす

原籍地 東京市向島區寺島町二丁目八十七番地
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 鈴木 武雄
 法名 勇豪院殉忠武鑑居士
 大正六年十二月一日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣麒麟峯附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 鈴木 元太郎

略 歴

昭和四年三月瀧野川小學校尋常六年卒業後、駒込町炸藥工場ニ勤務、〇〇年三月一日應召、三月十九日北支宮崎部隊第〇中隊ニ編入、四月中旬迄西苑附近警備、七月下旬迄保定附近ノ警備並ニ討伐ニ參加、八月中支ニ轉ジ九月中旬ヨリ漢口攻略戰ニ參加、瑞昌馮家舖、周庄間ノ山岳戰ニ參加、九月二十九日麒麟峯ノ戰闘ニ於テ數百倍ノ敵ト交戦シ敵陣ヘ突入セントスル瞬間、手榴彈命中シ戰場ノ華ト散ル、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

略 歴

大正六年十二月一日 埼玉縣南埼玉郡大相模村ニ於テ誕生
 昭和五年三月 東京市第一寺島尋常高等小學校卒業
 昭和八年一月 日本電線株式會社編組部ニ奉職
 同〇〇年三月 支那駐屯軍宮崎部隊上田隊ニ屬シ保定城外ニテ一期檢閲ヲ受ケ、保定、安慶等ニ於テ警備ニ服シ、七月上旬九江ヨリ漢口攻略戰ニ參加ノタメ進撃中、江西省瑞昌縣麒麟峯附近ニ於テ敵ノ大部隊ト遭遇、激戰中同年九月二十七日壯烈ナル名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル、同日附上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 東京市王子區岩淵町二ノ二七九
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 安井 信一
 功七級
 法名 忠誠院信覺日報居士
 大正六年三月二十二日生



戰歿場所 中支德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 安井伊三郎

原籍地 東京市下谷區金杉町一〇四
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 大久保 由次郎
 功七級
 法名 誠忠院昭勳淨顯居士
 大正六年三月三十一日生



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日
 遺族住所 東京市足立區梅田町三八〇
 氏名 兄 大久保賢太郎

略 歴

大正十二年四月東京市日暮里小學校へ入學後赤羽小學校へ轉校、
 昭和四年三月卒業、直チニ三菱銀行神田支店ニ勤務、四月ヨリ大
 倉商業學校專修科へ入校、昭和九年三月家庭ノ都合上三菱銀行退
 社、同時ニ第四學年ニテ同校退學、昭和十二年八月荏原製作所旋
 盤工トシテ勤務中〇年三月一日應召セラレ、各地ニ轉戰中ナリシ
 ガ德安縣麒麟峯ノ攻撃ニ參加シ、九月二十八日戰死サル。
 信一氏ハ一粒胤ニテ母ハ非常ニ苦ニシ病ノ床ニ臥シ遂ニ後ヲ追ヒ
 テ死去セラル。

略 歴

昭和四年三月東京市下谷區東盛小學校卒業後酒商店員トナリ同十
 二年迄勤メ、其後下谷龍泉寺町貴保堂手帳製造業ニ従事、同〇〇
 年支那駐屯軍歩兵第〇聯隊ニ入營、木間部隊ニ屬シ徐州會戰ニ參
 加、隨海沿線ニ於テ奮戰赫々タル武勳ヲ樹テタリシニ、昭和十三
 年九月二十八日江西省德安縣麒麟峯高地ノ戰鬪第一線小隊ノ一員
 ニ參加、敵彈ヲ物トモセズ勇戰奮闘克ク中隊長ヲ核心トシテ敵殲
 滅ヲ計リ赫々ノ戰果ヲ修メタルモ、遂ニ頭部貫通銃創ヲ受ケ壯烈
 ナル戰死ヲ遂ゲラル。

原籍地 宮城縣仙臺市東七番丁六三
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 星 光 憲
 大正四年七月八日生



戰歿場所 中支江西省德安縣古樹李東方高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十九日
 遺族住所 東京市城東區北砂町四丁目九〇六
 氏名 父 星 吉 藏
 母 同 枝

略 歴

大正四年七月八日東京市淺草區七軒町ニ誕生、昭和八年三月日本大學中學校卒業、同年四月日本大學高等師範部地理、歴史科入學、同十一年三月同部卒業、同年六月廿日無試験檢定ニ依リ師範學校、中學校、高等女學校地理、歴史科教員免許狀ヲ受ク、同十二年四月日本大學法文學部文學科史學專攻入學在學中、昭和十一年四月警視廳書記奉職、向島消防署在勤被命。
 昭和十三年三月一日〇〇歩兵第〇聯隊ニ應召、同六月屯營出發同中甸支那駐屯宮崎部隊市川隊ニ入隊、保定附近ノ警備ニ、七月下旬南京ニ集結ノタメ保定出發八月下旬南京上陸、九月初旬九江附近集結ノタメ南京出發九月中旬九江上陸、以來同地附近警備ニ、瑞昌、馮家鋪周庄間ノ戰鬥ニ參加、九月二十九日麒麟峯附近ノ戰鬥中江西省德安縣古樹李東方高地ニ於テ中隊ト共ニ本部ノ警備中敵ノ大逆襲ヲ受ケ、重機關銃射手トシテ勇敢沈着應戰中右前方ヨリ敵ニ狙撃セラレ頭部鐵帽ノ下縁右耳ヨリ左耳上ニ貫通銃創ヲ受ケテ散華ス。

原籍地 東京市江戸川區下篠崎町二〇八
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 小 林 正 己
 大正六年八月六日生
 法 名 瑞光院殉正己鑑居士



戰歿場所 中華民國江西省德安縣麒麟峯高地附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 母 小林 わか

略 歴

大正六年八月六日原籍地ニ於テ誕生
 昭和七年三月市立東京市江戸川區篠崎尋常高等小學校高等科卒業
 昭和七年四月日立製作所龜井戸工場ニ入社
 同〇〇年十二月二十日入營ノ爲メ〇〇驛出發北支派遣軍宮崎部隊ニ入營、爾來軍務ニ精勵シ學術業ニ秀テ各地ノ戰鬥ニ參加赫々タル武勳ヲ樹テ、九月二十九日中華民國江西省德安縣麒麟峯高地附近ノ戰鬥ニ於テ勇敢ニ奮戰中左大腿部ニ敵ノ手榴彈破片創ヲ受ケ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル。

原籍地 東京市淺草區永住町一五〇
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 塚 本 豊 美
 功七級
 法 名 瑞光院忠勳豊美居士
 大正六年一月十日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣大屋田村第一野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月四日二十四時
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 塚 本 勝 次 郎

原籍地 東京市荒川區日暮里町六ノ三二五
 所屬部隊 廣部部隊山田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 波 多 野 吉 太 郎
 功七級
 法 名 曠生院法護義徳信士
 大正五年四月七日生



戰歿場所 江西省武寧縣龍口張南側
 戰歿年月日 昭和十三年十月九日
 遺族住所 東京市荒川區日暮里町七ノ三三九渡邊清方
 氏 名 波 多 野 政 太 郎

略 歴

昭和十二年三月東洋商業學校卒業後、東京鐵道局上野運輸事務所ニ勤務中昭和十三年三月應召、三月十日〇〇驛出發、十九日支那駐屯歩兵第〇聯隊へ入營宮崎部隊ニ轉屬、第二機關銃中隊ニ編入、九月一日上等兵ニ進級、保定出發、八月七日南京上陸、九江附近ノ警備、瑞昌、馮家舖ノ戰鬪、馮家舖周庄間ノ戰鬪ニ參加、九月二十六日ヨリ二十九日迄ノ麒麟峯附近山岳戰ニハ糧食續カズ生芋ヲ嚙リ不眠不休ヲ者トモセズ山頂ヘ重機ヲ擔ヒ上ゲ敵ニ猛射ヲ浴セタリ、此頃ハ落伍者續出セシガ勇戰奮闘、敵ニ殲滅的大打撃ヲ與ヘテ皇軍ノ威力ヲ發揮セシガ、十月三日大屋田村簷溪間ノ戰鬪ニ敵ノ迫撃砲破片ヲ左胸部左下腿並ニ内踝部ニ蒙リ、野戰病院ニテ加療セシモ出血甚シク遂ニ戰傷死ヲ遂グ、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

略 歴

昭和四年三月日暮里小學校卒業、四月ヨリ大工職ニ従事、十三年三月一日召集下命、歩兵第〇聯隊ニ應召、三月十日屯營地出發、三月十八日山海關通過支那駐屯歩兵第〇聯隊ニ編入、宮崎部隊ニ轉屬、第三機關銃隊ニ編成サル、昭和十三年十月九日武寧縣龍口張南側高地附近ノ戰鬪ニテ頭部貫通銃創ヲ受ケ、孤獨老齡ノ父ヲ殘シテ戰場ノ華ト散ル。

原籍地 東京市豊島區長崎仲町二ノ二五七五
 所屬部隊 湯田部隊三重野隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 本橋 榮次
 法名 顯正院報國日營信士
 大正六年十一月二十二日生



戰歿場所 中華民國江西省合掌街第三野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 本橋 あい
 母 本橋 あい

略 歴

大正六年十一月二十二日東京府下長崎村北原ニ誕生、昭和五年三月長崎第一小學校尋常科卒業、同年四月淺草區小島町二ノ二十五番地松木光衛方ニテ同十三年一月迄簿押印刷業ニ従事、昭和〇〇年三月一日召集ヲ受ケ、歩兵第〇聯隊ニ應召、同月十日屯營出發、同月中旬支那駐屯長谷川部隊ニ入隊、同日宮崎部隊ニ轉屬、六月一日歩兵一等兵、同月下旬木間兵團編成下ニ編入、八月上旬南京上陸以來下旬迄九江附近ノ警備、九月上旬大板橋上陸、猪頭橋、瑞昌、馮家舖周庄間ノ戦闘ニ參加、同下旬麒麟峯附近ノ警備並ニ戰鬥參加、十月上旬大屋田箸溪龍港間ノ戰鬥ニ參加、十月八日西流巷附近ニ於テ左頸部貫通銃創ヲ受ケ合掌街第三野戰病院ニ入院、同九日戰傷死ス。

原籍地 東京市淀橋區柏木町一ノ一一八
 所屬部隊 吉田部隊野口隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 松 長 弘 記
 法名 忠勳院釋義芳居士
 大正五年六月一日生



戰歿場所 中華民國湖北省陽新縣鳳凰尖
 戰歿年月日 昭和十三年十月十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 松 長 フウ
 母 松 長 フウ

略 歴

大正五年六月一日北海道石狩郡深川ニ誕生、昭和七年三月森下美術學校卒業、同年四月圖案設計ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日支那駐屯歩兵第〇聯隊第〇中隊ニ入隊、同年七月七日警備下令、同十三年三月下旬支那駐屯宮崎部隊山崎隊ニ編入、西苑附近ノ警備、五月中旬以來徐州開戦ニ參加、八月上旬南京上陸、九月初旬九江上陸同地附近警備、同月中旬瑞昌馮家舖ノ戰鬥、同下旬麒麟峯附近ノ戰鬥、十月上旬マデ大屋田村箸溪間ノ戰鬥ニ參加、十月十日箸溪忽鎖龍港間ノ戰鬥中同日鳳凰尖附近ノ戰鬥ニ於テ腹部貫通銃創ニ依リ戰死、同日附伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等ニ叙セラレ功七級ヲ賜ハル。

原籍地 東京市向島區隅田町四ノ一二〇
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 近藤 二郎
 功七級
 法名 報公院釋義淳信士
 大正五年十月六日生



戰歿場所 湖北省陽新縣石尖山
 戰歿年月日 昭和十三年十月十二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 近藤 留治郎

略歴

昭和四年三月向島區隅田小學校卒業、同年四月ヨリ建築業ニ従事ス、昭和〇〇年二月支那駐屯歩兵第〇聯隊ニ入營、天津ニテ一期檢閲ヲ受ケ成績優秀、中隊事務ニ従事ス、七月事變勃發スルヤ蘆溝橋、一文字山、保定等ノ戰闘ニ卒田口部隊ニ屬シ轉戦、十三年十月武漢攻略戰ニハ宮崎部隊ニ編入セラレ伍長勤務ニ選拔セラレ、十月十二日石尖山鞍部ノ攻撃ニ連絡兵トシテ峻峻ナル山岳地帯ヲ馳驅シ敵兵ト銃剣ヲ以テ戦ヒ多數ノ敵ヲ斃シ拔群ノ功ヲ樹テ中隊ノ日章旗ヲ翻シタルモ、一彈胸部ヲ貫通シ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲラル、同日附伍長ニ任官セラレ、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セララル。

原籍地 兵庫縣加西郡富合村豊倉
 所屬部隊 湯田部隊三重野隊
 故陸軍歩兵曹長 勳六等 内藤 信二
 功七級
 法名 妙心首座忠道信海禪士



戰歿場所 湖北省唐庄山附近
 戰歿年月日 昭和十三年十月十三日
 遺族住所 東京市下谷區谷中上三崎南町〇伊藤鉦次方
 氏名 母 内藤 クミ

略歴

大正四年五月十一日兵庫縣加西郡富合村ニ誕生、幼時岡山曹源寺ノ佛門ニ入り大連中學ヲ卒業、昭和〇〇年一月〇〇第〇〇〇聯隊ニ入營、同年天津守備隊トナリ渡支、偶々蘆溝橋事變突發シ直チニ出動シテ奮戦ス、後北京守備、昭和十三年六月中支ニ轉戦、揚子江ヲ遡江シテ星子ニ上陸、瑞昌、簞溪等ノ山岳戰ニ參加、漢口陥落ヲ目前ニシテ同年十月十三日湖北省唐庄山附近ノ戰闘ニ於テ無念胸部貫通銃創ヲ負ツテ遂ニ江南ノ華ト散ル、同日附ヲ以テ曹長ニ任ゼラレ功ニ依リ勳六等ニ叙セララル。

原籍地 東京市小石川區白山御殿町五〇
 所屬部隊 宮崎部隊要員
 故陸軍衛生兵伍長 勳八等 藤 田 春 雄
 功七級
 法 名 盡忠院釋勇勝
 大正五年三月十一日生



戰歿場所 湖北省陽新縣唐庄山
 戰歿年月日 昭和十三年十月十三日
 遺族住所 東京市小石川區白山御殿町七一
 氏 名 藤 田 春 雄
 母 藤 田 幸 子

略 歴

大正五年三月十一日東京市ニ誕生、昭和五年高等小學校卒業、同年四月ヨリ印刷業ニ従事、昭和〇〇年三月支那駐屯歩兵第〇聯隊第〇中隊ニ入營、同年七月七日警備下令、同十三年二月一日衛生兵上等兵ニ進級、同年三月一日宮崎部隊要員トシテ轉屬、七月下旬南京集結ノタメ保定出發、八月初旬南京上陸、下旬九江附近集結ノタメ南京出發、九月初旬大板橋上陸、直ニ同地附近警備、九月中旬瑞昌馮家舖間ノ戰闘ニ參加、同下旬馮家舖、周庄、麒麟峯附近ノ戰闘ニ參加、十月初旬ヨリ中旬迄大屋田、箬溪龍港間等ノ戰闘ニ參加、十月十三日中華民國湖北省陽新縣唐庄山附近ノ戰闘ニ於テ右胸部貫通銃創ヲ受ケ戰死セラル。

略 歴

原籍地 東京市淀橋區戸塚町一ノ七七三
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 國 分 源 七
 功七級
 法 名 昭徳院忠光義源居士
 大正五年四月二十七日生



戰歿場所 江西省陽新縣唐庄山南側高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月十五日
 遺族住所 東京市大森區調布鶴ノ木町七一
 氏 名 國 分 源 七
 母 國 分 ユ キ

大正五年四月二十七日福島縣安積郡喜久田村ニ誕生、昭和三年三月安積郡喜久田村立尋常高等小學校尋常科卒業、同八年十一月ヨリ同十二年二月迄浦田區下丸子大隅塗工所ニ勤務、昭和〇〇年三月支那駐屯軍歩兵第〇聯隊ニ入隊、七月七日支那事變勃發以來各所ニ轉戰或ハ警備討伐參加、北支治安維持ニ奮闘、十三年五月宮崎部隊平山支隊ノ編成ニ加リ徐州ノ大會戰ニ參加、平坦開闢ナル隴海線ヲ西進各所ニ於テ轉戰急迫炎熱河南ノ大平野ヲ横斷、同下旬歸徳縣城ノ陥落ヲ觀ルニ及ベリ、七月再ビ師團主力ヲ以テ漢口作戰ニ參加スル事トナリ、九月上旬九江上陸以來敵ノ退路遮斷ノタメ嶮峻山谷ヲ越ヘ不眠不休江西省ノ山河ヲ西進シ敵彈下ニ夜ヲ徹シツ、十月中旬梨頭尖南側木道獨立標高三〇五高地ヨリ攻撃ヲ續行中、敵ハ我ガ側面ニ來リ反撃我ニ數倍ノ兵力ヲ以テ逆襲シ來ル事數回、十五日午前八時一舉ニ此ノ敵ヲ擊退スベク砲兵ノ火力ト適時適切ナル自動火器ノ威力ヲ以テ激戰中、敵小銃彈不幸胸部ヲ貫通シ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲタリ。

原籍地 東京市豊島區巢鴨五丁目一二三四
 所屬部隊 湯田部隊藤原隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 福 島 喜 一 郎
 功七級
 法 名 健武院誠忠喜道居士
 大正五年十月二十日生



戰歿場所 湖北省陽新縣第一野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十三日
 遺族住所 東京市豊島區巢鴨五丁目一二三四
 氏 名 福 島 新 一 郎
 父 福 島 新 一 郎
 母 福 島 新 一 郎

原籍地 埼玉縣大里郡久下村八八一
 所屬部隊 吉田部隊白貝隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 井 桁 長 英
 功七級
 法 名 勇猛院法英信士
 大正六年四月十四日生



戰歿場所 湖北省陽新縣辛潭舖病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十五日
 遺族住所 東京市澁野川區西ヶ原四〇八
 氏 名 井 桁 長 五 郎

略 歴

大正五年十月二十日東京市豊島區巢鴨ニ誕生、昭和十一年三月帝國商業夜間部卒業、高等精密工業學校夜間部在學、同五年大日本印刷株式會社ニ入社、昭和〇〇年三月一日召集ヲ受ケ〇〇第〇聯隊入營、同月中旬北支駐屯宮崎部隊藤原隊ニ入隊、保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ、八月北支出發、海路南京へ上陸、九月九江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散シ炎著ヲ冒シテ不眠不休夜襲ニ白兵戰ニ連戰連勝遂ニ漢口ニ突入、赫々タル武勳ヲ樹タルモ戰半ニシテ右胸部貫通重傷ヲ受ケ十月二十三日第一野戰病院ニテ戰傷死ス、同日上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等ニ叙セラレ功七級ヲ下賜セラル。

略 歴

大正六年四月十四日東京市本郷區坂下町ニ於テ誕生、昭和七年三月巢鴨中學二年修業、同年四月ヨリ日本橋區江戸橋東株一般取引員大福商店ニ勤務、昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍宮崎部隊ニ入營、保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ北支出發、海路南京へ上陸シ、九月上旬九江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散ラシ炎著ヲ冒シテ不眠不休夜襲ニ白兵戰ニ連戰連勝遂ニ漢口ニ突入、赫々タル武勳ヲ樹タルモ戰半ニシテ病魔ノ冒ス所トナリ、十月二十五日湖北省陽新縣辛潭舖第〇〇師團第〇野戰病院ニテ戰病死ス、同日附上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等ニ叙セラル。

原籍地 東京市豊島區雜司ヶ谷町二丁目五〇六
 所屬部隊 宮崎部隊中丸隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 穂 積 清
 功七級
 法 名 義道院忠烈清鑑居士
 大正八年一月三十日生



戰歿場所 中華民國江蘇省上海第十兵站病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 穂 積 順 三

略 歴

中學校卒業、昭和〇〇年三月支那駐屯軍宮崎部隊ニ入營、藤原隊
 第〇小隊第〇分隊ニ屬シ、同年八月海路南京ニ上陸、九江ヨリ武
 漢攻略戰ニ參加、瑞昌、箬溪等ノ山岳地帯ニ據ル頑敵ヲ擊破シ、
 九月一日歩兵上等兵ニ進級、十月一日秀家陳附近ノ敵陣ニ對シ力
 戰奮闘攻撃前進中、突然左側高地ヨリ優勢ナル敵ノ機關銃ヲ有ス
 ル大部隊現出、猛火ヲ受クルモ意トセズ摘彈筒手トシテ應戰、沈
 着能ク其重火器ニ對シ全ク制壓、之レガ爲メ第一線ノ前進ヲ容易
 ナラシム、此時身ニ敵彈ヲ受ケ重傷、野戰病院ニ收容セラレ上海
 陸軍病院ニ於テ戰傷死ヲ遂ゲラル、行年二十歳。

原籍地 北海道茅部郡森村柳原五五ノ一
 所屬部隊 湯田部隊多田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 澤 田 行 雄
 法 名 忠和院義節行雄居士
 大正六年九月三日生



戰歿場所 湖北省陽新縣辛潭舖野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月三十一日
 遺族住所 東京市本所區厩橋三ノ一七
 氏 名 母 澤 田 み き

略 歴

昭和七年三月北海道龜田郡戸井小學校卒業、四月ヨリ芝區三田四
 國町製鐵所ニ勤務、〇〇年三月支那駐屯長谷川部隊へ入隊、宮崎
 部隊へ轉屬、多田隊ニ編入、七月二十八日保定出發、八月七日南
 京上陸、九江大板橋、猪頭橋ノ警備、瑞昌馮家舖周庄間ノ戰闘參
 加、麒麟峯大屋田等溪間ノ戰闘參加、慈口鎮、陽新鎮ノ戰ニテ綿
 ノ如ク疲勞シ、十月三十日脚氣兼マラリヤニ罹リ、三十一日辛潭
 舖野戰病院ニテ戰病死サル。

原籍地 東京市葛飾區細田町七八一
 所屬部隊 宮崎部隊崎隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 木村勝藏
 功七級
 大正五年十月二十七日生
 法名 誠忠院功譽義勝居士



戰歿場所 湖北省陽新縣野戰豫備病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 木村 かよ

原籍地 東京市本所區既橋三ノ二三
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 戸邊幸治郎
 功七級
 大正六年十一月二日生
 法名 顯忠院勇譽義烈居士



戰歿場所 江蘇省上海兵站病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月二十九日午前二時
 遺族住所 向島區寺島町二ノ一二三池上長之助方
 氏名 戸邊 はる

略 歴

木村氏ノ五男ニ生レ、昭和七年三月奥戸小學校卒業後、農業ノ傍
 青年學校ニ通學、昭和〇〇年三月支那駐屯步兵第〇聯隊歩兵砲隊
 へ入營、豐臺駐屯、十二年七月事變勃發スルヤ牟田口部隊久保田
 隊ニ屬シ、蘆溝橋、瀧王廟、宛平城等ヲ占領シ北京入城、南苑南
 壤化ノ激戰參加、十一月太原城一番乘ノ功名ヲ擧ゲ、房山、馬頭
 鎮、門戶溝等ノ討伐ニ從ヒ、十三年三月輪崎歩兵砲隊ニ轉屬、銃
 工班教官代理トシテ修理ニ從事シ西苑及び保定附近ノ警備討伐ヲ
 ナス、昭和十三年八月南京上陸、漢口攻略戰ニ參加、獅子坡附近
 並ニ馮家舖、徐村、双板橋、煤山、箬溪、慈口鎮、陽新鎮等各地
 ニ奮戰シ、同年十月三十日マラリヤニ罹リ、十一月三日陽新野戰
 病院ニ於テ遂ニ陣歿ス、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級
 ニ叙セラル。

略 歴

昭和七年三月牛島小學校優等卒業、六月向島區吾嬬町刀根鐵工
 場へ勤務、十二年四月仕上トシテ多年勤績シ組合長ヨリ感謝狀
 ニ記念品ヲ添へ贈ラル、父廣吉氏ハ六十三歳ニテ一月五日死亡後
 母ヲ扶養シ刀根工場へ勤務シ孝養意ナカリシガ、〇〇年三月一日
 召集セラレ勇躍征途ニ上リ、七月以來武漢攻略戰ニ參加シ各地ニ
 轉戰殊勳ヲ樹テタルガ、十月二十二日湖北省慈口鎮附近ノ戰ニテ
 左大腿部ニ貫通銃創ヲ負ヒ野戰病院、兵站病院等ニテ療養中十一
 月二十九日戰傷死セラル。

原籍地 東京市淺草區永住町六一
 所屬部隊 湯田部隊多田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 小川 一郎
 法名 一漢院報公日脫居士
 大正六年一月十日生



戰歿場所 湖北省咸寧野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十二月八日
 遺族住所 東京市淺草區永住町六一
 氏名 小川 留

略 歴

昭和六年三月王子小學校卒業、七年三月駒込中學校中退、四月ヨリ洋服生地卸問屋ニ勤務中、昭和〇〇年三月一日應召、三月十日〇〇出發、北支駐屯歩〇部隊第〇機關銃中隊ニ編入、爾來保定附近ノ警備ニ任ジ、五月徐州會戰ニ參加、七月南京ヲ經テ九江附近着、猪頭橋附近ノ警備、九月一日上等兵ニ進級、九月瑞昌馮家舖間、馮家舖周庄間、麒麟峯等ノ警戰ニ參加、大屋田村筭溪間ノ戰鬪ニハ携帶口糧缺乏シ空腹ニテ疲勞甚ダシク病者相次ギ落伍者多數ニ上リシモ勇敢ニ奮闘、敵ニ機銃ノ猛射ヲ浴セ拔群ノ功ヲ樹テタリ。同年十月等溪、龍口慈口鎮間ノ戰鬪並ニ陽新鎮附近ノ警備ニ任ジタリ。十月十五日ハ七ヶ師ノ敵ノ退路ヲ遮斷シ大字廟ノ戰ニハ第二分隊六番射手トシテ活躍シタリ、十一月陽新鎮楠林橋間ノ戰鬪ニ參加、通城ノ追擊戰ニハ重體ノマラリヤヲ我慢シ、三十日崇陽野戰病院ニ入院、十二月八日咸寧豫備病院へ移サレ加療中戰病死サレシガ、勳ハ戰死ニ劣ルコトナシ、同日伍長ニ任官。

原籍地 岡山縣御津郡大野村北長瀬三六二
 所屬部隊 宮崎部隊崎崎隊
 故陸軍歩兵軍曹 勳七等 坪井 光章
 功六級
 法名 顯誠院義忠日章居士
 明治四十三年一月十八日生



戰歿場所 河北省北京陸軍病院
 戰歿年月日 昭和十四年三月十五日午後二時
 遺族住所 東京市赤坂區青山北町六ノ四五
 氏名 坪井 秀恒

略 歴

昭和三年三月赤坂中學校卒業、爾來日本郵船會社ニ入社、勤勉實直ニシテ同僚ニ範タリ、昭和五年甲種合格、幹部候補生トシテ歩兵第〇〇〇聯隊ニ入隊、翌年十二月一日伍長ニ任官除隊シ、再び日本郵船ニ入社、頭腦明晰、社主ノ信望厚カリシガ、昭和十三年七月辭職、昭和〇〇年〇月〇日召集セラレ勇躍征途ニ上リ宮崎部隊麾下トシテ河北省滄縣並ニ肅寧縣等北支各地ニ轉戰シ、中隊ノ精銳トシテ盡忠報國ノ誠ヲ致シ、殊ニ三月一日ハ難關ヲ極メタル張庄附近ノ敵陣攻略ニ當リテハ分隊長トシテ參加、迫撃砲、機關銃火ノ中ニ敢然一塊ノ據ル可キ地物ナキ畑中ヲ前進、敵前四〇〇米ノ陣地ヲ占領、多大ノ損害ヲ與ヘタリシモ敵ハ多數ヲ頼ミ賊聲ヲ擧ゲ突撃シ來リシヲ坪井君ハ勇猛果敢克ク部下ヲ指揮、頑敵五十ヲ斃シタルモ敵彈腹部、右前膊部ニ命中、飛行機ニテ北京陸軍病院ニ後送セシガ三月十五日戰傷死サル。

原籍地 東京市淺草區田原町二ノ一八
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵上等兵、勳八等望 月 一 郎
 大正五年七月三十一日生
 法 名 彰忠院了義居士



戰歿場所 大阪陸軍病院
 戰歿年月日 昭和十四年三月二十六日
 遺族住所 東京市淺草區千束町一ノ一〇七佐藤重藏方
 氏 名 從弟 望 月 與 四 郎

原籍地 東京市本所區龜澤町四ノ一
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵伍長、勳七等 永 澤 正 三 郎
 大正五年十月二十日生
 法 名 德行院殉國日正



戰歿場所 北支河間縣齊會附近
 戰歿年月日 昭和十四年四月二十三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 永 澤 庄 平

略 歷

昭和四年三月田原小學校卒業後就職ニ從事中、昭和〇〇年二月二十日支那事變ニ因リ應召、支那駐屯宮崎部隊へ入隊、以後保定附近ノ匪賊討伐或ハ警備ニ任ジ、八月北支出發海路南京上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ於テ天嶮ニ依リ堅固ナル陣地ヲ構築シ頑強ニ抵抗セル敵ニ對シ、炎暑ヲ冒シ夜襲ニ白兵戰ニ拔群ノ功ヲ樹テタルガ不幸病魔ニ冒サレ野戰病院ニテ加療後大阪陸軍病院ニ後送サレ、専心療養ニ務メラレシガ藥石效ナク十四年三月二十六日戰病死セラル。

略 歷

昭和十一年三月京都北陽商業學校卒業
 昭和〇〇年三月支那駐屯軍ニ入營、同年七月今次事變勃發スルヤ直ニ聖戰ニ參加、蘆溝橋ノ戰闘ヲ始メトシ石家莊、保定、徐州等ノ激戰ニ奮闘シ、古來ヨリ難攻不落ト誇リタル武漢三鎮ノ攻撃ニ參加シ、遂ニ攻略シ後北支原隊ニ歸リ現地ノ守備中河間縣齊會南側附近ノ戰ニ右翼分隊長トシテ奮戰中頭部ニ貫通銃創ヲ受ケ遂ニ戰場ノ華ト散ル、即日伍長任官。

原籍地 東京市淺草區吉野町一ノ二ノ六
 所屬部隊 湯田部隊多田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 小室 正三
 功七級
 法名 圓光院忠山正道居士
 大正六年八月三十日生



戰歿場所 河北省河間縣劉莊橋附近
 戰歿年月日 昭和十四年五月三日午後二時半
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 小室 みつ

原籍地 東京市足立區千住二ノ六五
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵軍曹 市川 鶴吉
 法名 秀勳院白頭義徹居士
 大正四年九月二十八日生



戰歿場所 河北省青縣白塔附近
 戰歿年月日 昭和十五年六月十五日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 市川 岩吉

略 歴

昭和十年三月府立第七中學校卒業、後日本橋區蠅蝨町水上株式取引店ニ勤務、〇〇年十二月一日〇〇歩兵第〇聯隊ニ入營、〇〇年九月七日支那事變ニ依リ同月二十日勇躍征途ニ上リ上海上陸、武漢攻略戰ニ參加、六ヶ月間同地整備、北支ニ轉戦、河北省中南部ノ討伐ニ從ヒ戰鬪二十回餘、機關銃手トシテ敵彈雨飛ノ中ヲ勇戰奮闘拔群ノ殊勳ヲ樹テ、昭和十四年五月三日劉莊橋附近ノ共產匪討伐ノ命ヲ受ケ子牙河ノ堤防ニ於テ重機關銃三番射手トシテ威力ヲ發揮、無數ノ頭敵ヲ斃シテ敵勢ヲ挫キ突撃ニ移リ突入セントシタル刹那、敵彈左胸部ニ命中シ同日午後二時半遂ニ壯烈ナル名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル、木戰鬪ハ交戦一時間後完全ニ占領シ敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリ。
 同日伍長ニ任官セラル。

略 歴

昭和十二年三月明治大學專門部法科卒業、六月ヨリ足立區役所ニ勤務、〇〇年三月支那駐屯宮崎部隊ニ召集、原隊ニテ教育ヲ受ケ八月海路南京へ上陸、九月上旬瑞昌、箬溪ノ山岳戰ニ參加、最難關ノ漢口ヲ攻略、再ビ北支ニ歸還整備、討伐ニ任ジ治安維持ニ努力ス、昭和〇〇年六月十五日白塔附近ノ戰鬪ニ於テ重機關銃分隊長トシテ常ニ陣頭ニ立チ勇猛沈着、部下ヲ督勵シ百發百中敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ、追撃戰ニ方リテハ雷鳴豪雨、泥濘、股ヲ没スル中ヲ晝夜馳驅シ、四圍ノ壕中ヨリ無數ノ新ナル敵ノ襲撃ヲ受ケ、部下ヲ叱咤、激勵シテ猛射ヲ浴セ殲滅的打撃ヲ與フ、分隊全員ハ一致團結シテ毫モ屈セズ應戰シ、彈藥缺乏シ銃ト運命ヲ共ニセン事ヲ誓ヒテ群ル敵中へ突入シ拳銃ニテ多數ノ敵ヲ斃シタル刹那、一彈頭部ニ命中シ散華セリ、守下部隊長、武人ノ龜鑑ナリト賞詞サル、同日軍曹ニ累進セララル。

原籍地 東京市城東區大島町二丁目五七六
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵上等兵 上山勇藏
 大正六年十二月六日生
 法名 武徳院盡命勇進居士



戰歿場所 河北省青縣泊塔附近
 戰歿年月日 昭和十五年六月十五日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 佐藤辰次郎

原籍地 神奈川県中郡神田村大神一六四七
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵伍長 野邊豊年
 勳八等 功七級
 大正五年十月十八日生
 法名 河南院忠烈豐勳居士



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 野邊喜太郎

略歴

大正六年十二月六日原籍地ニ於テ誕生、昭和六年三月二十五日東京市城東區第二大島尋常小學校卒業、同年四月城東區南砂町九丁目宮地株式會社鐵道部ニ入社、昭和〇〇年一月支那駐屯宮崎部隊入營、同〇〇年五月討伐隊ノ一員トシテ棗林附近ニ於テ數十倍ノ敵ト遭遇スルヤ寡兵克ク勇猛沈著敵ノ堅陣ヲ擊破、六月十五日泊塔附近ノ戰鬥ニ於テ久住隊ニ配屬機關銃手トシテ陣頭ニ立チ優勢ナル敵ニ多大ノ打撃ヲ與ヘ、之レガ追撃ニアリテハ雷鳴豪雨道路泥濘夜暗ノ行動意ノ如クナラズ本隊ト連絡ヲ絶エルニ及ビ四周壕中ヨリ數百ノ新ナル敵ノ逆襲ヲ受ケ彈藥全ク盡キ分隊長以下諸共ニ白兵戰ヲ演ジ群ガル敵中ニ突入勇戰奮闘頑敵ヲ木葉微塵ニ粉碎シタルモ其際頭部貫通銃創ヲ受ケ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル。

略歴

昭和四年三月神田小學校卒業後旋盤工ニ從事、昭和〇〇年三月支那駐屯宮崎部隊ニ入營、天津ニ於テ一期檢閲ヲ受ケ、支那事變勃發スルヤ軍務ニ執掌、翌年二月上等兵ニ進級、同六月朔日勇躍決死隊ニ參加中、河南省寧陵縣張庄附近攻撃勇進奮闘遂ニ敵彈ノタメ斃ル、昭和十三年六月一日附伍長ニ任官セラレ功ニヨリ勳八等功七級ニ叙セラレ、紀元二千六百年ノ光輝アル昭和十五年秋季靖國神社大祭ニ合祀セラレ家門ノ榮譽是レニ過グル事ナシ。

原籍地 神奈川縣橫濱市神奈川區三ツ澤下町三一
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 仁保 一男
 功七級
 明治四十四年七月二十一日生
 法名 殉邦院釋一道居士

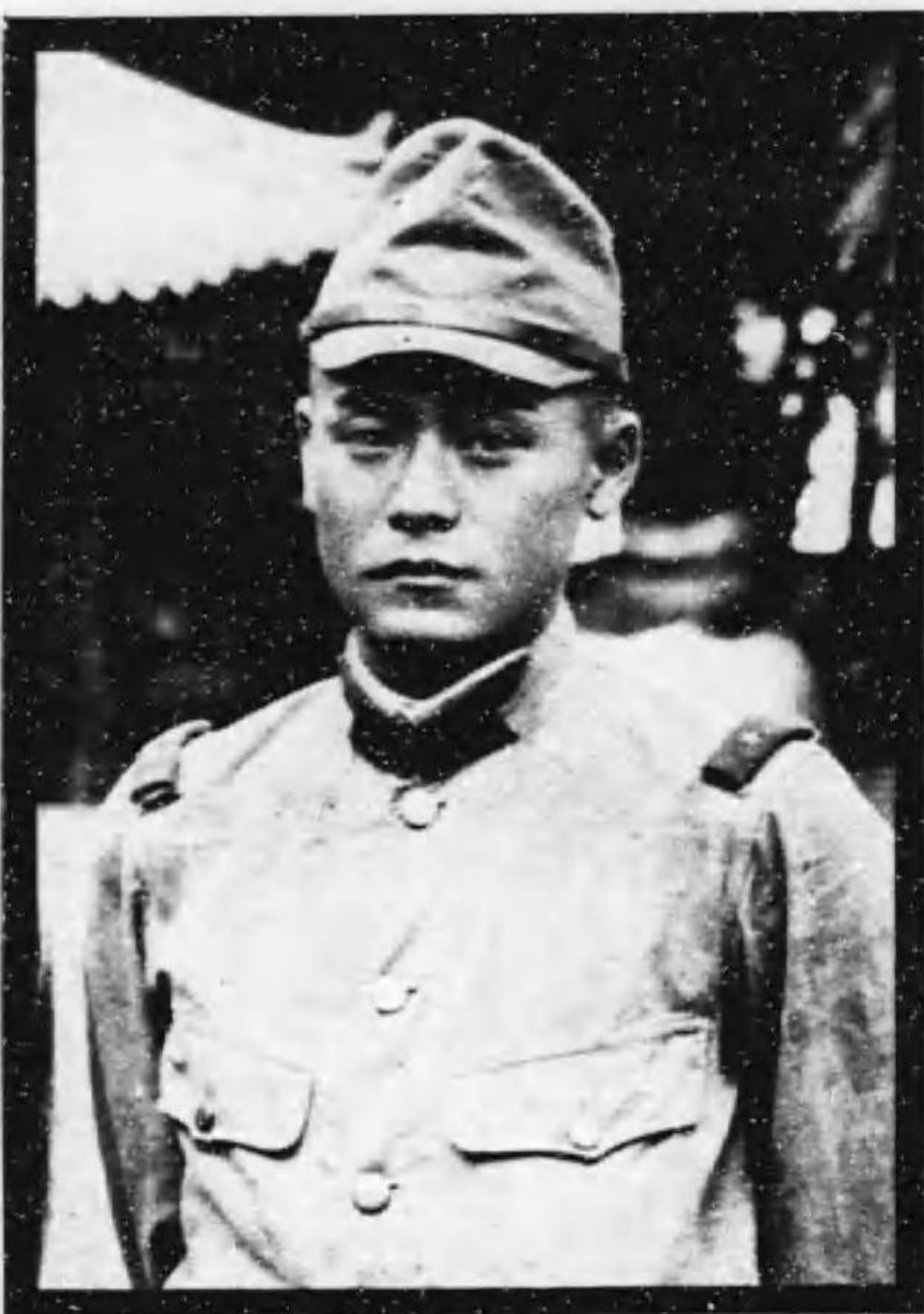


戰歿場所 江西省瑞昌縣丁家山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 遺兒 仁保 義男
 妻 仁保 德子

略 歴

昭和四年三月縣立第二橫濱中學校卒業、八年三月北海道帝國大學豫科修了、十一年三月帝大農學部農藝化學科卒業、四月ヨリ北里研究所化學部勤務、十一月ヨリ麒麟麥酒株式會社神崎工場勤務、昭和〇〇年三月北支派遣宮崎部隊江田隊に入隊、七月下旬迄保定ニ駐屯シ繁劇ナル勤務、討伐ニ從事シ治安肅正ニ貢献セリ、以後武漢攻略戰ニ參加ノ爲メ三伏ノ炎暑ヲ冒シテ中支江南ニ派遣セラレ、九月十八日廣部大隊ハ馮家舖南方丁家山、老鴉尖ニ互ル峻峰ノ堅壘ニ據ル頑敵ニ對シ攻撃ヲ行ヒ奪取シタルモ其優勢ヲ恃ミ執拗抵抗ヲ持續シ丁家山ハ二十餘回逆襲奮闘ヲ企圖セリ、皇軍ハ寡兵勇戰奮闘毎次多大ノ損害ヲ與ヘ撃退セシメタルガ我亦死傷續出、彈藥缺乏、石塊ニテ防戦シ豫備隊タリシ小高小隊ノ應援ニテ彈藥ノ補充ト死傷者收容ニ仁保君ハ必死トナリ重責ヲ擔フ中、九月十九日黄昏丁家山頂ニテ迫撃砲彈ヲ胸ニ受ケ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲラル。

原籍地 橫濱市中區西戸部町三丁目二六四
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 西村 功博
 功七級
 法名 本雄院功博日鑑居士
 大正六年三月十日生



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯高地附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十九日
 遺族住所 橫濱市中區西戸部町三丁目二六四 渡邊石藏方
 氏名 妹 西村 博子

略 歴

昭和五年三月尋常小學校卒業後家事ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日支那駐屯宮崎部隊ニ入營、〇〇部隊氣付宮崎部隊上田隊へ編入、北支ニテ同年五月匪賊討伐ニ參加、六月第一期檢閲ヲ受ケ北支出發海路南京ニ上陸、九月二日南京出發、揚子江ヲ溯航數々ノ戰闘ニ參加、不眠不休敵ニ當リ意氣正ニ天ヲ衝ク、サレド江西省德安縣麒麟峯高地附近ノ戰闘ニ無念敵彈ヲ頭部ニ受ケ名譽ノ戰死ヲ遂グ、同日上等兵ニ進級シ功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セララル。

原籍地 千葉縣山武郡東金町堀上八九六
 所屬部隊 廣部部隊山田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 河野 朔三
 大正六年一月二十二日生
 法名 妙法一義院盡忠日讚居士



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣丁家山
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 河野 朔三
 母 河野 そよ

略 歴

昭和六年三月東金尋常高等小學校卒業
 卒業後大連ニ於テ商業ニ従事
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍宮崎部隊山田隊ニ入隊興亞ノ聖戰ニ參加、北支ニ中支ニ轉戰、同年九月十九日江西省瑞昌縣丁家山ノ山頂ニ於テ奮戰中胸部ニ敵砲彈ヲ受ケ名譽ノ戰死ヲ遂ゲ、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 千葉縣安房郡白濱町白濱五二九六
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 淵 邊 春 一
 大正六年六月一日生
 法名 恭惟聖院超勳連道居士

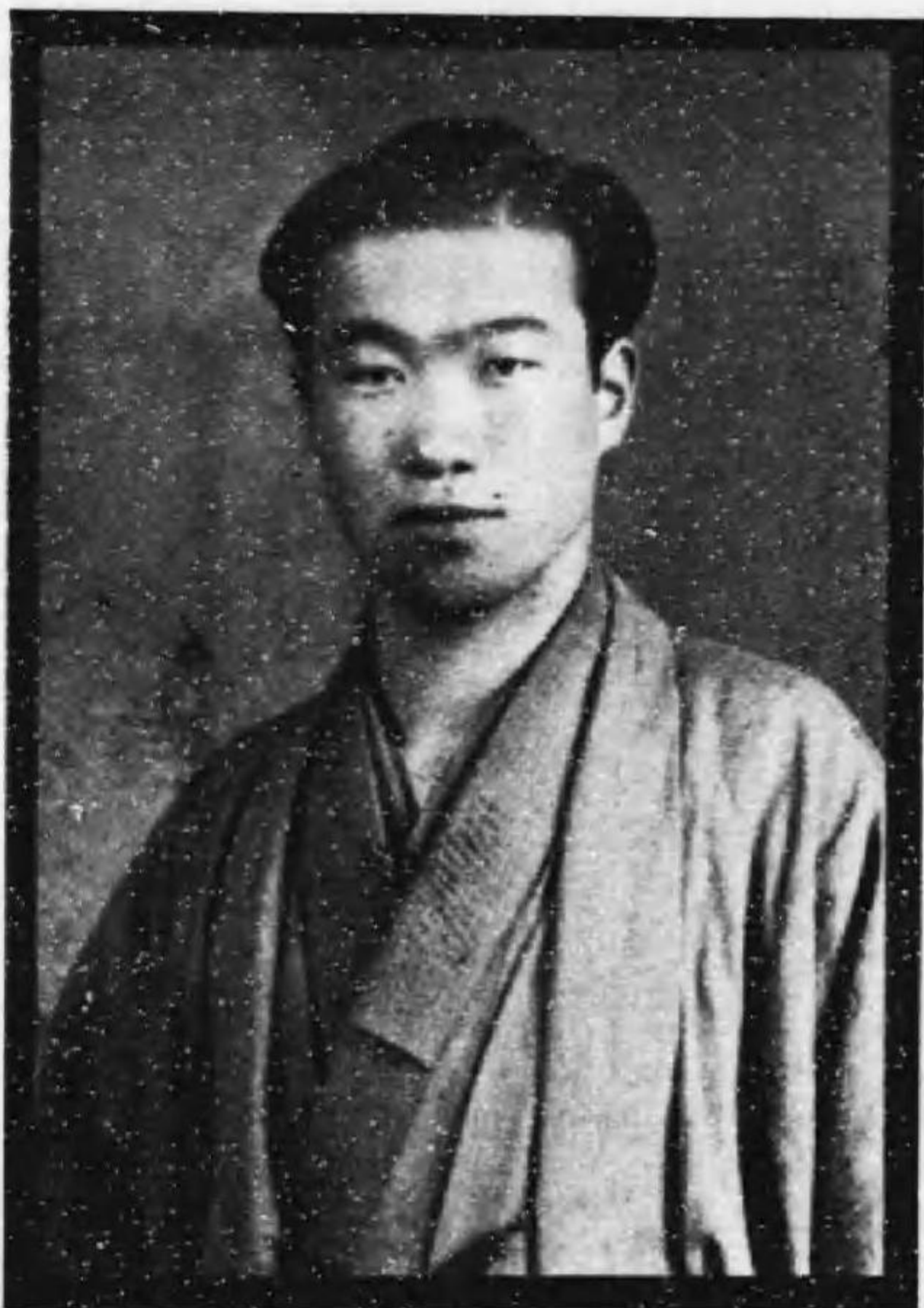


戰歿場所 中華民國江西省瑞昌西方丁家山上
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 千葉縣安房郡白濱町白濱五二九六
 氏名 淵 邊 彌 五 左 衛 門 父

略 歴

大正六年六月一日千葉縣安房郡白濱町白濱五千二百九十六番地ニ誕生
 昭和七年白濱小學校卒業
 同年四月ヨリ本籍地ニ於テ漁業ニ従事ス
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍歩兵長谷川部隊ニ入營、入隊間モナク暴支膺懲ノ征戰ニ參加シ各地ニ轉戰シ、武漢攻略戰ノ命ニ接スルヤ九江方面ヨリ進撃シテ廬山ノ峻嶮ヲ突破シ堅陣瑞昌ヲ陥レ逐次敵ヲ西下壓迫シテ猛進ヲ續ケ、昭和十三年九月十九日瑞昌西方丁家山上ノ激戰ニ於テ肉彈相撃ツ接戰ヲ演ジ阿修羅ノ如ク奮戰セシニ、忍ビ寄ル敵ノ手榴彈ノ爲メ胸部ヲ貫通サレ戰死ス。
 功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 千葉縣長生郡豊田村澁谷三〇八
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 松崎 康
 功七級
 法名 陸軍歩兵伍長松崎康命
 大正六年十月十五日生



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣丁家山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 松崎 康
 兄弟 松崎 健

略 歴

昭和十年三月東金實業學校卒業
 同年四月ヨリ千葉市武藤齒科醫院助手ニ從事
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍岡崎部隊ニ入營、同日附支那駐屯
 宮崎部隊ニ轉屬、同年同月二十四日高木隊ニ編入、同年六月一日
 命歩兵一等兵、同年九月一日附歩兵上等兵ニ進級
 同〇〇年四月中旬北京郊外西苑ヨリ保定附近ノ警備ニ、五月中旬
 平山枝隊ニ屬シ徐州會戰ニ參加、徐州西方地區臨海線各地ニ於テ
 奮戰、七月中旬保定ニ歸還、七月下旬保定出發八月下旬南京着、
 九月上旬同地發揚子江遡航鄱陽湖畔大板橋ニ上陸、同中旬九江發
 瑞昌、簪溪戰ニ進擊、同中旬茶園岑附近ニ於テ戰闘、同中旬ヨリ
 宮崎部隊第一線右翼丁家山附近ニ於テ戰闘、同日夜丁家山占領、
 同十九日逆襲セル敵中央軍ト激戰中同日午前十時三十分右胸部貫
 通銃創ヲ受ケ名譽ノ戰死ヲ遂ゲ、同日附任歩兵伍長、功ニ依リ勳
 八等ニ叙セラレ功七級金鷄勳章ヲ賜ハル。

原籍地 千葉縣東葛飾郡新川村大字北五三四
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 野能 巳之助
 功七級
 法名 能忠院釋巳成信士
 大正六年二月十四日生



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣丁家山附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 野能 三藏

略 歴

大正六年二月十四日原籍地ニ誕生
 昭和四年三月尋常科卒業
 同 五年三月高等科一年終了
 同 九年三月補習學校卒業、高等科一學年終了後野田醬油株式會
 社流山工場味淋部ニ勤務ス
 昭和〇〇年二月十九日北支派遣山下部隊宮崎部隊上田隊ニ入營、
 興亞ノ聖戰ニ參加、北支ヨリ中支ニ轉戰、同年九月十九日江西省
 瑞昌縣丁家山附近ノ戰闘ニ於テ戰死ス。

原籍地 千葉縣印旛郡公津村臺方一九〇
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等功七級 內山正一
 法名 瑞昌院義岳正道居士
 大正六年十月十一日生



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌野戰豫備病院
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十四日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 內山音五郎

略歴

大正六年十月十一日下總國印旛郡公津村臺方一九〇番地ニ孤々ノ聲ヲ擧ゲ、幼ニシテ母ヲ喪ヒ慈父ノ膝下ニ昭和七年三月二十四日公津尋常高等小學校高等科ヲ卒業、同年四月一日青年學校ニ入學、支那事變勃發スルヤ選バレテ召集傳令員トシテ之ニ服務ス、昭和〇〇年一月北支宮崎部隊山崎隊ニ入隊シ徐州會戰ニ參加シテ武功ヲ樹ツ、又武漢攻略戰ニハ勇躍之ニ從軍シ、同年九月中旬江西省瑞昌縣八卦山附近ノ戰闘ニ於テハ第一線輕機關銃手トシテ常ニ陣頭ニアリテ勇戰シ、勇敢沈着寡兵ヲ以テ衆敵ヲ擊破シ敵彈前頭部ニ貫シテ重傷ヲ受クルモ尙ホ毅然トシテ敵ヲ猛射シ克ク其ノ任務ヲ全セリト雖モ、惜哉同月二十四日午後十一時二十分瑞昌野戰豫備病院ニ於テ名譽ノ戰傷死ヲ遂ゲタリ、君ガ忠勇義烈ハ洵ニ軍人ノ龜鑑ト謂フベシ、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラレ、昭和十五年十月十五日靖國神社ニ合祀セラル。

原籍地 千葉縣山武郡綠海村井之内二九四〇
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等功七級 高橋秀夫
 法名 英玉院明德忠秀居士
 大正六年三月廿九日生



戰歿場所 中華民國江西省德安縣白水街西側麒麟峯高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 高橋廣吉
 母 同 高橋なか

略歴

大正六年三月二十九日 千葉縣山武郡綠海村井之内二九四〇番地ニ誕生
 大正十二年四月 綠海村尋常高等小學校入學
 昭和四年三月 同校尋常科卒業
 昭和六年三月 同校高等科卒業
 昭和六年四月 農業ニ従事
 昭和〇〇年三月一日 支那駐屯軍長谷川部隊ニ入隊ス、同日支那駐屯軍宮崎部隊ニ轉屬、同日第九中隊ニ編入
 保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ、六月北支出發中支作戰ニ參加、征戰數ヶ月最モ難關タリシ山岳地帯ニ不眠不休戰闘ヲ續ケ、九月二十日ヨリ大敵ヲ攻撃、二十六日天明頃江西省德安縣白水街西側麒麟峯高地附近ノ戰闘ニ於テ顔面ニ手榴彈破片創ヲ受ケ戰死セリ功ニ依リ勳八等白色桐葉章並功七級金鷄勳章ヲ賜ハル。

原籍地 千葉縣東葛飾郡松戸町松戸新田
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 安 蒜 佐 太 郎
 功七級
 法 名 勇功院殉義佐鑑居士
 大正六年十一月十一日生



戰歿場所 中華民國江西省德安縣白水街
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 安 蒜 梅 吉
 父 安 蒜 梅 吉

略 歴

大正六年十一月十一日千葉縣東葛飾郡松戸町松戸新田ニ誕生
 昭和三年三月松戸町尋常高等小學校卒業
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯宮崎部隊ニ入營、同年九月二十六日
 中華民國江西省德安縣白水街西側附近ノ戰鬪ニ於テ胸部貫通銃創
 ヲ受ケ戰死ス。
 同日附上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 千葉縣東葛飾郡湖北村新木二五七一
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 油 原 文 藏
 功七級
 法 名 空昌光院麟峰文勇居士
 大正七年三月十日生



戰歿場所 中華民國江西省德安縣麒麟峰
 戰歿年月日 昭和十三年九月廿七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 油 原 房 吉
 父 油 原 房 吉

略 歴

昭和元年三月 湖北尋常高等小學校卒業以後農業ニ従事
 昭和〇〇年三月北支駐屯軍宮崎部隊入營、保定附近ニテ一期檢閲
 ヲ受ケ七月下旬北支出發海路南京へ上陸シ、九月上旬南京出發九
 江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散ラ
 シ炎暑ヲ冒シ不眠不休五十數回ノ逆襲ヲモ物トモセズ肉彈戰ニ
 肉彈戰ヲ以テシ彼ノ有名ナル廣部山(麒麟峯)ニ突入占領セリ、
 遂ニ九月二十七日午後九時三十分戰死セリ。
 右戰鬪ハ二十五日ヨリ三十日迄初メハ五分、十分毎ニ逆襲シ來タ
 リ、其激戰タルヤ言語ニ絶セルモノアリシトカ。

原籍地 千葉縣印旛郡安食町龍角寺六三八ノ一
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 林 田 光 司
 功七級 大正六年三月十八日生
 法名 瑞昌院義勇光司清居士



戰歿場所 中華民國江西省德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 林 田 司 智 郎

略 歴

大正六年三月十八日千葉縣立八生農學校卒業
 誕生ス
 昭和九年三月千葉縣立八生農學校卒業
 同年四月ヨリ農業ニ従事ス
 昭和〇〇年三月支那駐屯宮崎部隊吉田隊入營、同年四月ヨリ北支定縣警備ニ服ス
 同年五月湯田枝隊ニ屬シテ徐州、隴海線、歸德、寧陵各地ノ戰闘ニ參加ス
 同年六月一日付一等兵ニ進級
 同年七月下旬武漢攻略戰參加ノ命ニヨリ北支出發八月南京上陸、同年九月一日上等兵進級、同月上旬九江ヨリ瑞昌ヲ經テ各地ノ山岳戰ニ參加頑敵ヲ蹴散シツ、進撃、同月二十八日麒麟峯附近ノ攻撃戰ニ第一線輕機關銃射手トシテ群ガル敵ノ逆襲部隊ヲ猛射中不幸敵彈ノ爲メ腹部ニ貫通銃創ヲ負ヒ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲ、享年二十二歳、同日付伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 千葉縣東葛飾郡新川村大字下花輪七九一
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 秋 元 新 太 郎
 功七級 大正六年四月廿一日生
 法名 瑞勇院顯譽殉正居士



戰歿場所 中支江西省德安縣麒麟峯高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 秋 元 純 之 輔

略 歴

大正六年四月二十一日本籍地ニ於テ純之輔ノ四男トシテ誕生
 昭和七年三月新川尋常高等小學校卒業
 同年四月ヨリ農業ニ従事シ農村中堅青年ノ範タリ
 昭和〇〇年三月支那駐屯軍宮崎部隊ニ入營、同年四月中旬西苑ヨリ保定ニ移駐トナリ匪賊蠢動活潑トナル爲メ警備ニ活躍ス
 宮崎部隊トシテ徐州會戰ニ武動ヲ樹テ、八月下旬鄱陽湖畔ニ上陸シ廬山山岳戰ニ參加、頑強ナル敵ヲ殲滅シ酷暑ヲ冒シ不眠不休ノ白兵戰ニ猛進撃シ連戰連勝、宮崎部隊隨一ノ大激戰九月二十九日遂ニ〇隊長高木少佐殿戰死ノ日ニ二時頃中支江西省德安縣麒麟峯高地頂上激戰ニ於テ敵小銃彈ノタメニ腰部貫銃創ヲ負ヒ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲ、同日上等兵ニ進級セラレ功ニ依リ勳八等白色桐葉章功七級金鷄勳章ヲ賜ハル。

原籍地 千葉縣安房郡由原村坂東
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 柏谷 高 清
 功七級
 法 名 妙法眞乘院高春日雄居士
 大正六年三月三日生

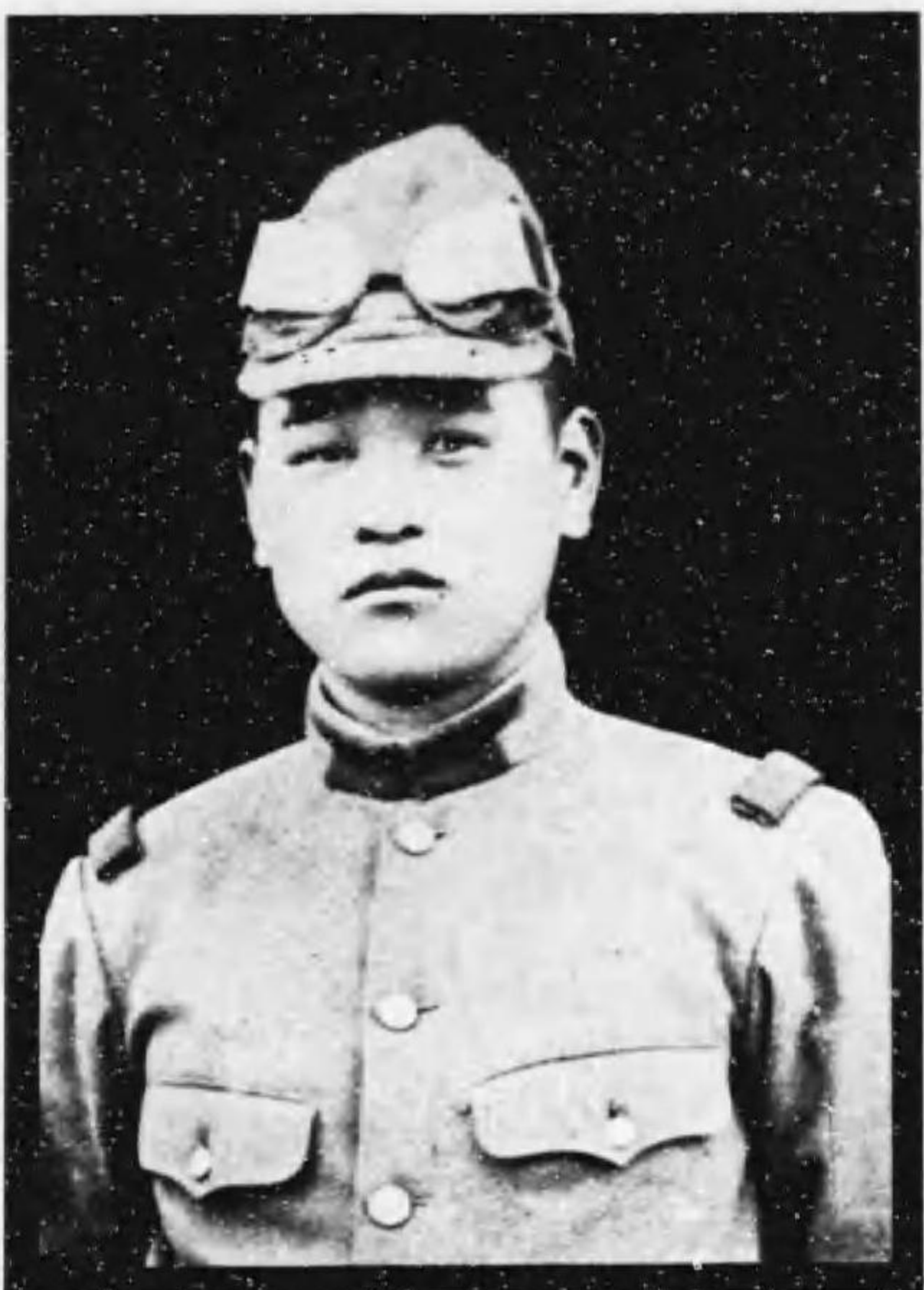


戰歿場所 中華民國江西省武寧縣三坪高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 柏谷 留吉
 父 柏谷 留吉
 母 柏谷 たけ

略 歴

大正六年三月三日 千葉縣安房郡由原村坂東ニ誕生
 同 十二年四月一日 由原尋常高等小學校入學
 昭和六年三月 同校高等科卒業
 同 年 同 月 同校補習科入學
 同 八年三月 同校補習科卒業
 同 年 四 月 青年學校入學
 同 十一年四月 由原村青年學校自治會長被命
 同 十二年三月 青年學校研究科卒業
 補習科卒業後農業ニ従事
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍宮崎部隊ニ入營、保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ一等兵ニ進級警備ニ付ク、八月北支出發海路南京へ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、簞溪等ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散シ炎暑ヲ冒シテ不眠不休夜襲ニ白兵戰ニ連戰連勝、同年十月三日輕機關銃射手トシテ江西省武寧縣三坪高地附近ニテ奮戰中上半身砲彈破片創ヲ受ケ名譽ノ戰死ヲ遂ゲ、同日伍長ニ任官、勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 千葉縣千葉市神明町一九六
 所屬部隊 湯田部隊林隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 笹本 宗 太郎
 功七級
 法 名 功勳院忠誠義勇居士
 大正四年十二月十三日生



戰歿場所 中支湖北省陽新野戰豫備病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 笹本 作 次 郎
 父 笹本 作 次 郎

略 歴

大正四年十二月十三日千葉縣千葉市ニ生ル
 昭和三年三月千葉縣立女子師範學校附屬小學校高等科卒業
 同年四月ヨリ家業ニ従事
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍歩兵第一聯隊ニ入營、天津附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ、七月七日支那事變勃發ト同時ニ豐臺附近警備ニ進駐、同月下旬内宛ノ攻撃ニ參加、宛平縣城攻撃ニテ左隊部ニ首貫銃創ヲ受ケ天津野戰病院ニ入院、約一ヶ月後退院、同年十月支那駐屯軍董島枝隊ニ屬シ北京出發、大同、雁門關、平地泉、淞口鎮等山西各地ニ轉戰ス、十一月八日太原城攻撃ニ參加、十三年三月支那駐屯軍宮崎部隊ニ配屬、保定京漢沿線警備、同年八月北支出發海路南京ヨリ九江ニ上陸、漢口攻略戰ニ加リ瑞昌、簞溪等ノ山岳戰ニ參加、同年十月中旬湖北省陽新縣唐庄山ノ戰闘ニ左手貫通銃創ヲ受ケ陽新野戰豫備病院ニ入院、十一月三日敗血症ヲ併發戰傷死ス、同日附歩兵伍長ニ任官セラレ、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 千葉縣千葉郡幕張町馬加三四七
所屬部隊 吉田部隊白貝隊

故陸軍歩兵伍長 勳七等 功七級 鈴木金之助
法名 崇陽院義殉森鑑居士
大正五年九月九日生



戰歿場所 中華民國崇陽師團所屬第二野戰病院
戰歿年月日 昭和十三年十一月十一日
遺族住所 同 原籍地
氏名 父 鈴木三郎

略 歴

昭和五年三月幕張尋常高等小學校卒業
同年四月ヨリ農業ニ従事
同〇〇年三月一日支那駐屯歩兵第一聯隊入營、同〇〇年三月支那駐屯宮崎部隊ニ編入西苑附近ノ警備ニ四月十一日移駐ノタメ西苑出發定縣附近警備、七月下旬南京集結ノタメ保定ヨリ八月下旬南京上陸、同月末九江集結ノタメ南京出發九月上旬九江上陸、猪頭橋、瑞昌、馮家舖、周庄、麒麟峯、大屋田村、箬溪、慈口鎮等ノ戰鬥ニ參加、十月下旬慈口鎮ヨリ大治南方地區ヲ經、粵漢線遮斷及汀油橋、咸寧、楠林橋等ノ追撃戰ニ、十一月月上旬楠林橋ヨリ通城ノ追撃戰ニ參加、十一月八日崇陽縣崇陽西南方地區ノ戰鬥ニ於テ右大腿部貫通銃創ヲ受ケ〇〇野戰病院ニ入院
昭和十三年十一月十一日右大腿部骨折貫通銃創兼瓦斯瘡疽ノタメ〇〇野戰病院ニ於テ戰傷死ス、同日附伍長ニ任ゼラレ功ニ依リ勳七等功七級ニ叙セラル。

原籍地 千葉縣市原郡八幡町山木
所屬部隊 宮崎部隊
故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 田利次
法名 彰忠院利考日成善士
大正六年八月二日生



戰歿場所 湖北省崇陽縣第二野戰病院
戰歿年月日 昭和十三年十一月十一日
遺族住所 同 原籍地
氏名 父 鎗田直次郎

略 歴

大正六年八月二日千葉縣市原郡八幡町ニ誕生、大正十四年三月八幡小學校卒業後弟妹ノ訓育ニ父母ヲ助ケ専心家事ニ従事ス。
昭和〇〇年三月支那駐屯軍宮崎部隊ニ入營、翌〇〇年八月聖戰下ノ第一線ニ起ツ可ク北支進發海路南京へ上陸、九江ヨリ炎熱燒クガ如キ困苦缺乏ニ堪へ岷々タル山嶽地帯ニ肉彈以テ頑敵ヲ殲シ、遂ニ目的タル武漢三鎮ノ攻略成リ赫々タル武勳ヲ樹テタルモ、南方岳州通城ノ線ニ敵ヲ追撃中、黃土岑ノ戰鬥ニテ遂ニ敵彈ヲ受ケ十一月十一日湖北省崇陽縣〇〇野戰病院ニ於テ名譽ノ戰傷死ヲ遂グ、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 埼玉縣入間郡原市場村大字原市場九七九
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 的板辰三
 功七級
 法名 光照院忠誠徹居士
 大正五年二月二十九日生



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄
 戰歿年月日 昭和十三年六月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 的板茂左衛門

原籍地 埼玉縣北足立郡朝霞町臺五七一
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 渡邊萬平
 功七級
 法名 柳河院忠誠萬德居士
 明治四十四年十一月二十五日生



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄在
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 埼玉縣北足立郡朝霞町臺五七一
 氏名 父 渡邊五郎右衛門

略 歴

昭和四年三月市場村尋常高等小學校卒業後材木問屋店員トシテ從事、昭和〇〇年三月支那駐屯歩兵第〇聯隊筒井隊山崎隊ニ入營、天津ニテ第一期檢閲、蘆溝橋南苑方面ノ諸戰ニ參加、宮崎部隊ニ編入、徐州會戰ニ參加、昭和〇〇年六月一日寧陵縣張庄ニテ最前線ニ活躍、中隊獨力敵陣要點攻撃ヲ命ゼラレ數十倍ノ敵ト惡戰苦闘第一戰ニ突撃奪取、更ニ後方陣地ニ突入ノ瞬間不幸右胸部手榴彈破片創ヲ受ケタルモ屈セズ第二陣地占領、任務終ルヤ精魂盡キ再ビ立ツ能ハズ、安堵ノ色ヲ浮ベ天皇陛下萬歲ヲ連呼從容トシテ死ニ就ク、壯烈無双鬼神モ泣カシムル華々シキ最後ヲ遂ゲラル。

略 歴

昭和五年三月東京日白中學校卒業、同十二年中央大學法學部卒業、同〇〇年一月陸軍造兵廠東京工廠會計課勤務、同年三月一日支那駐屯歩兵第三聯隊ニ召集、定縣附近ニ於テ幹部候補生ヲ志願セルモ其期至ラズ、五月突如徐州攻撃ノ命下リ隴海線ニ沿ヒ攻撃河洲附近ニ於テ中隊獨力陣地要點攻撃ヲ命ゼラレ十數倍ノ敵ニ對シ惡戰苦闘之ヲ擊破、更ニ後方陣地ニ突入ノ瞬間不幸頭部ニ敵手榴彈ヲ受ケタルモ屈セズ尙モ第二陣地ヲ占領、任務終ルヤ精魂盡キ再ビ立ツ能ハズ、安堵ノ色ヲ浮ベ天皇陛下萬歲ヲ連呼從容トシテ昭和十三年六月二日名譽ノ戰死ヲ遂グ。

尙宮崎部隊長ハ中央大學當時ノ軍事教練教官タリ。

原籍地 東京市麻布區北日ヶ窪四四
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 芥 義 信
 功七級
 大正五年三月三十一日生
 法 名 報國院徳光良義居士



戰歿場所 河南省寧陵縣柳河集
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 埼玉縣川口市榮町二丁目二三山田勝次郎方
 氏 名 母 芥 い そ

略 歴

昭和二年從橋區柏木第一尋常高等小學校卒業、昭和三年機械仕上工ニ従事、昭和〇〇年三月一日支那駐屯歩兵第〇聯隊第〇中隊ニ入營ス、蘆溝橋事變起リ南支ノ戦闘ニテ右大腿部ニ敵彈ヲ受ケ天津共立學校ノ假病院ニ入り、昭和十二年八月二十九日ニ退院、天津ニテ補充憲兵ヲ勤務、其後支那駐屯宮崎部隊ニ入り徐州附近ノ大會戰ニ奥山准尉以下四十五戰友ト征途ニ上リ、五月中旬以降隨海線沿線孟樓及歸德附近ノ戦闘ニ偉勳ヲ奏シ、六月二日河南省寧陵縣柳河集南方及ビ張庄ノ戦闘ニ於テ右胸部貫通銃創ヲ受ケ戰死ス。

原籍地 埼玉縣北足立郡朝霞町大字臺六一〇
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 比 留 間 惣 吉
 功七級
 大正五年八月九日生
 法 名 柳河院忠勇惣徳居士



戰歿場所 河南省柳河驛
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 比 留 間 半 三 郎

略 歴

昭和五年三月初霞第一高等小學校卒業後農業ニ従事、昭和〇〇年三月召集セラレ保定附近ニテ一期ノ檢閲ヲ受ケ、五月初旬以來徐州會戰ニ參加、各地ニ奮戰中六月二日河南省柳河驛附近ノ戦闘ニ於テ名譽ノ戰死ヲ遂ケ。

原籍地 埼玉縣南埼玉郡粕壁町四四一三ノ五
 所屬部隊 湯田部隊多田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 金子 正三
 功七級
 法名 天鏡院忠光義照居士
 大正六年三月四日生



戰歿場所 江蘇省南京兵站病院
 戰歿年月日 昭和十三年八月十一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 金子 米藏
 父 金子 米藏

略 歴

昭和六年粕壁高等小學校卒業後、東京市木郷區春木町小木民三村本店へ勤務、昭和〇〇年二月十九日召集ヲ受ケ三月一日歩兵第〇聯隊へ應召、同年三月廿四日支那駐屯軍宮崎部隊多田隊ニ編入サル、四月十一日ヨリ保定附近ノ討伐ニ參加、五日徐州附近ノ戦雲急ナルヲ以テ、山東省濟寧へ着シ隴海線へ向ヒ急行軍ニテ突進、敵ヲ撃退ス、次デ碭山ヲ拔キ歸德ヲ攻略、二十九日堂々入城、七月南京集結ノタメ保定ヲ出發、八月七日南京上陸、同十日病魔ノ冒ス處トナリ十一日南京兵站病院ニ於テ陣歿ス。

原籍地 埼玉縣北葛飾郡吉田村大字上字和田五〇三
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 大木 甲
 功七級
 法名 瑞光院殉忠覺道居士
 大正六年二月二日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣丁家山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 大木 武
 兄 大木 武

略 歴

昭和三年三月本村第一尋常高等小學校卒業後、塗工職ニ従事ス、昭和十三年三月支那駐屯歩兵第〇聯隊へ應召、七月下旬迄北支ニ駐屯シ第一期檢閲後附近ノ警備、討伐ヲ行ヒ武動ヲ樹テ九月中支ニ轉戦、南京、九江、茶園峯、及ビ八卦山ノ戰鬥ニ死力ヲ竭シテ奮戦シ、九月十九日ヨリ丁家山附近ノ戦ニハ彈丸雨飛ノ中ヲ意トセズ第一線ニテ活躍セシガ此時敵彈ニテ左胸部へ貫銃創ヲ受ケ戦死セラル。

原籍地 埼玉縣大里郡佐谷田村三三五
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 新藤 庄三郎
 法名 瑞昌院義烈庄道居士
 大正六年二月十九日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣丁家山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 新藤 なを
 母 新藤 なを

略 歴

新藤藤作氏ノ六男ニ生レ不幸兄四名ニ死別、昭和五年三月佐谷戸
 小學校卒業、手不足ノ爲メ自家農業ニ従事、昭和〇〇年三月一日
 應召、出發ノ際隣家戸井田氏ニ頭髮ト爪ヲ託シ留守ト銃後ハ宜敷
 頼ム、此度ノ御奉公ハ東亞新秩序建設ノ爲メ帝國ノ目的達成ニ邁
 進シ、陛下ノ御心ヲ安ズル覺悟デスト元氣揚々征途ニ上リ三月十
 日母國ヲ離レ支那駐屯歩兵第〇聯隊ニ入隊、以後徐州戰ニ參加、
 一路揚子江ヲ遡リ途中瑞昌、馮家鋪、周庄間ノ戰鬪ニ參加、丁家山
 高地ニ差懸ルヤ雲霞ノ如ク寄セ來ル敵ヲ撃破シタルモ、此ノ激戰
 ニ於テ敵彈左大腿部及ビ腹部ヲ貫通シ、天皇陛下萬歲ヲ唯一言殘
 シテ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル、同日附上等兵ニ進級十五年秋季靖國
 神社大祭ニ合祀セラル。

原籍地 埼玉縣北葛飾郡豐田村字北廣島
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 小島 明
 功七級
 法名 忠章院殉義治範居士
 大正六年十二月一日生

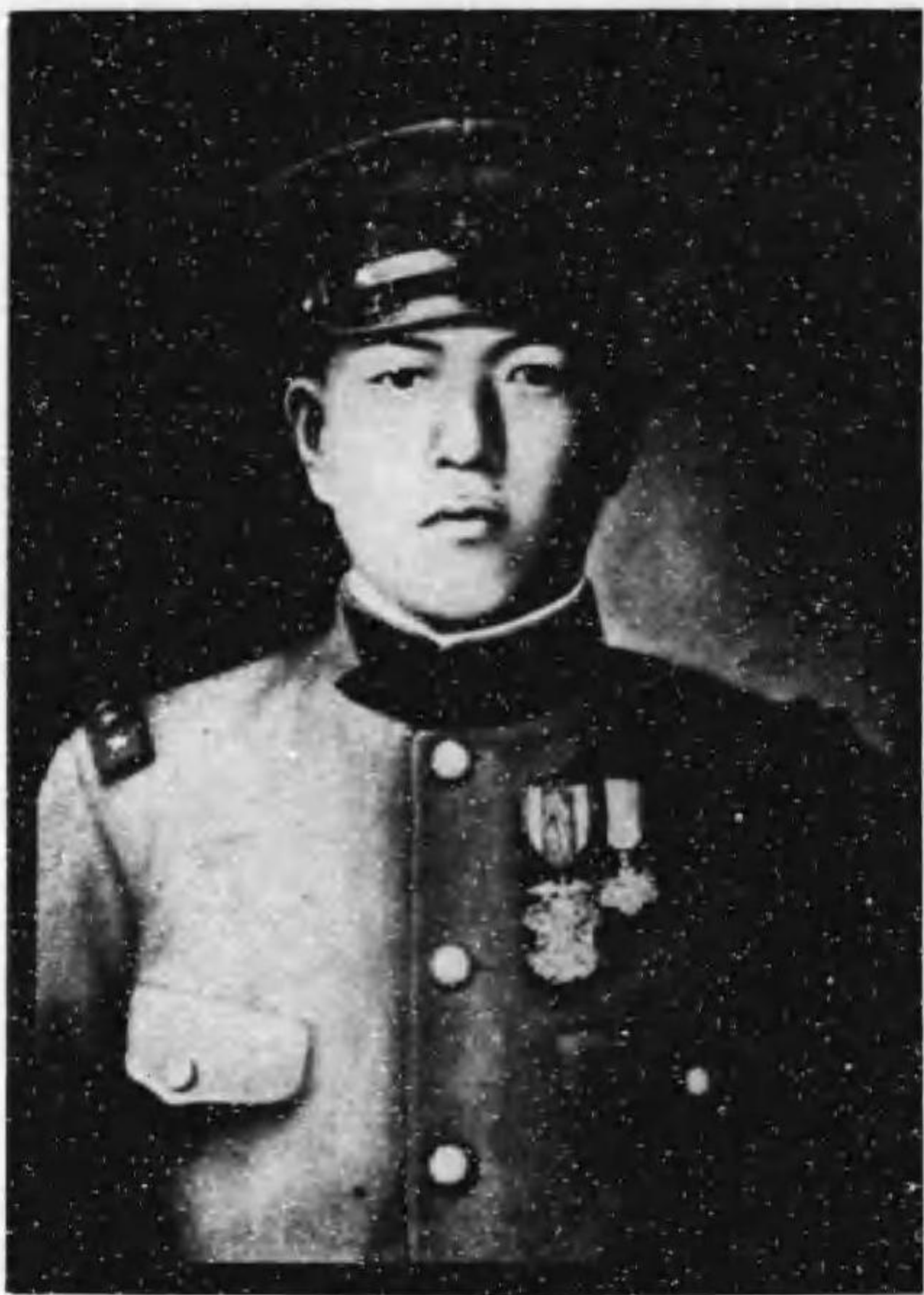


戰歿場所 江西省德安縣白水街西側
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 小島 治三郎
 父 小島 英治郎
 兄 小島 治三郎

略 歴

昭和六年三月豐田小學校尋常六年卒業、爾來農業ニ従事、〇〇年甲
 種合格、翌年二月二十日〇〇驛集合、支那駐屯歩兵第〇聯隊へ入
 隊宮崎部隊へ轉屬、四月十日迄西苑警備、七月二十七日迄保定警
 備並ニ討伐、八月六日南京上陸、九月六日九江上陸、九月七日猪
 頭橋警備、茶園峯、八卦山附近並ニ丁家山長岡坪等ノ戰鬪參加、
 九月二十五日ヨリ麒麟峯ノ戰鬪ニ參加、白水街西方ノ奮戰ニテ胸
 部ニ敵ノ手榴彈破片創ヲ蒙リ遂ニ戰死セラル、同日上等兵ニ進級
 シ勳八等功七級ヲ賜ハル。

原籍地 埼玉縣大里郡長井村大字善島四九四
 所屬部隊 湯田部隊多田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 大 鷲 藤 作
 功七級
 大正五年一月三十一日生
 法 名 殉國院義烈榮光居士



戰歿場所 武寧縣煤山南約二軒
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 大鷲善次郎

略 歴

昭和四年三月長井尋常高等小學校卒業後農業ニ従事ス
 昭和十三年三月召集、支那駐屯軍歩兵第〇聯隊ニ入營、保定附近
 ニテ一期檢閲ヲ受ケ、八月北支出發南京上陸、九月上旬九江ヨリ
 瑞昌、箸溪等ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散シ炎暑ヲ
 冒シ不眠不休、夜襲ニ白兵戰ニ連戰連勝、遂ニ武寧縣南方約二キ
 ロノ地點ニテ敵ト白兵戰ノ際、遂ニ頭部ヲ貫通セラレ十三年九月
 二十八日戰死ス。

原籍地 埼玉縣川口市元郷町一ノ七五九ノ一
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 石 場 健 造
 功七級
 大正五年三月七日生
 法 名 瑞昌院義烈健男居士



戰歿場所 湖北省瑞昌縣煤山南麓高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日午前八時二十五分
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 石場辰太郎

略 歴

昭和二年三月川口市元郷第五小學校卒業、四月川口市木町淺若鑛
 物工場ニ入所、十二年二月十九日迄勤務、二十日北支派遣牟田口
 部隊古市隊へ入營、支那事變勃發スルヤ各地ノ戰鬪ニ參加シ勇猛
 果敢、就中徐州大會戰ニ參加、歸德縣城陥落ニ偉功ヲ樹テ、同十
 三年七月漢口攻略戰ニ加ハリ第二小隊機關銃手トシテ克ク困苦缺
 乏ニ耐ヘ江西省ノ山河ヲ西進シ敵彈下ニ夜ヲ徹スルコト數十回、
 偶々九月二十八日瑞昌縣煤山附近ノ激戰ニ於テ小隊正面ヨリ手榴
 彈ヲ以テ逆襲シ來ル敵ノ有力部隊ト白兵戰中、不幸敵ノ小銃彈ニ
 ヨリ頭部擦過銃創ヲ受ケ遂ニ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲラル、同日附伍
 長ニ任官セラレ、勳八等功七級ヲ賜ハル。

原籍地 埼玉縣人間郡越生町大字黒岩九〇
 所屬部隊 湯田部隊藤原隊
 故陸軍歩兵伍長 宇津木 慶次郎
 勳八等 功七級
 法名 誠心院瑞昌忠慶居士
 大正四年一月六日生



戰歿場所 江西省武寧縣煤山南方黎家西北側高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月三十日午後三時
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 宇津木 ツヤ

略 歴

昭和三年三月越生尋常高等小學校卒業、昭和〇〇年三月支那駐屯軍歩兵第〇聯隊ニ入營、事變勃發ト共ニ中支方面派遣ヲ命ゼラレ、同十三年九月初旬九江附近ニ上陸以來各地轉戰、九月三十日江西省武寧縣煤山南方黎家西北側高地ノ戰鬪ニ於テ手榴彈破片創ヲ受ケ、同日午後三時戰死ス、輕機關銃射手トシテ砲烟彈雨ニ屈セズ前面ノ敵ヲ排撃シツ、アル時、惜クモ機關銃ヲ握リタルマ、戰死ス。

原籍地 埼玉縣人間郡三芳野村大字紺屋六一四
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵伍長 栗原 修太郎
 勳八等 功七級
 法名 修徳院宏覺顯正居士
 大正五年四月十四日生



戰歿場所 江西省武寧縣羅盤山三坪高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 栗原 長次

略 歴

昭和六年三月高等科卒業、四月以降農業ニ従事、同九年六月上京鮮魚商ヲ營ム、同〇〇年二月二十日支那駐屯歩兵第〇聯隊ニ入隊、同年七月七日支那事變勃發スルヤ勇躍果敢戰鬪ニ參加、卓軍ノ意氣ヲ大ニ發揚、同〇〇年五月宮崎部隊平山支隊ノ編成ニ加ハリ徐州大會戰ニ參加、平坦開闊ナル陸海線ヲ西進各所ニ轉戰追急進、炎熱黃河ノ大平野ヲ横斷、殊ニ五月下旬歸徳縣城ノ陥落ヲ觀ルニ及ベリ、七月再び息ヲ暇ナク師團主力ヲ以テ漢口作戰ニ參加、九月上旬九江上陸以來嶮峻山谷ヲ越ヘ不眠不休江西省ノ山河ヲ西進、敵彈下ニ夜ヲ徹スル事數十回、同下旬煤山南側木道上獨立標高三〇五高地ヨリ攻撃續行、中隊ハ第一線トナリ煤山南側ニ向ヒ反撃ヲ志シ殊ニ正面ノ敵ハ我ニ數倍ノ兵力ヲ以テ逆襲セル事數回、三日午前八時一舉敵ヲ撃退スベク自動火器ノ威力ヲ敵ノ眞只中ニ集中、遂ニ退却セシメタリ、此好機ニ乘ジ殊ニ煤山南側陵線上占領ノ際、敵ノ砲彈破片創ヲ受ケ壯烈ナル戰死ヲ遂グ。

原籍地 埼玉縣南埼玉郡川柳村南青柳二六二三
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 立原 健治
 功七級
 法名 忠勝院殉健英鑑居士
 大正六年二月十五日生



戰歿場所 江西省武寧縣煤山附近
 戰歿年月日 昭和十三年十月三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 立原七五郎

原籍地 埼玉縣大里郡別府村大字西別府二〇七七
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 清水 圳一
 功七級
 法名 報國院忠道宗儀居士
 大正六年四月七日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣大屋田村
 戰歿年月日 昭和十三年十月十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 兄 清水 善一

略 歴

昭和四年三月川柳小學校尋常科卒業、四月ヨリ農業ニ従事、昭和
 ○○年三月宮崎部隊へ入隊、北支西苑ニテ教育ヲ受ケ、五月平井
 支隊ニ加ハリ徐州大會戰ニ參加、後ニ至リ平坦開闢ナル隨海線ヲ
 西進シ各所ニ轉戰、炎熱ヲ冒シ黃河南ノ大平野ヲ横斷、歸德縣
 城ヲ占領、七月憩フ暇ナク漢口作戰ニ參加スル事トナリ、九江上
 陸以來敵ノ退路ヲ遮斷スベク嶮峻ナル山岳ヲ越ヘ不眠不休、生芋
 ヲ糲トシ晝夜ヲ間ハズ、敵彈下ニ夜ヲ徹スルコト數十回、煤山
 ノ戰ニ寡兵ヨク交戦シ敵ハ不利ナルヲ悟リテ退却、死人ノ山ヲ築
 キシガ又々逆襲シ來リ、彼我白兵戰ヲ演ズルコト一時間餘、勇戰
 奮闘中不幸敵ノ小銃彈腹部ヲ貫通シタルモ屈セズ突進中、遂ニ力
 盡キ十月三日戰場ノ華ト散ル。
 郷里ハ老父母ト妹ノ三人暮ニテ健治氏出征中、火災ニテ全焼シ
 人々同情セザルナシ。

略 歴

昭和七年三月二十九日別府小學校卒業、四月ヨリ農業ニ従事、昭
 和○○年二月二十八日應召、北支派遣宮崎部隊平井隊ニ入隊、五
 月徐州ノ大會戰ニ參加、隨海線ヲ西進シ黃河口南ノ大平野ヲ横斷、
 同月下旬歸德縣城ヲ陥落セシメ、七月再ビ憩フ暇ナク歸國、主力
 ヲ以テ漢口作戰ニ參加スルコトナリ九月上旬九江ニ上陸、以來
 敵ノ退路遮斷ノタメ嶮峻山谷ヲ越ヘ晝夜ヲ間ハズ不眠不休江西省
 ノ山河ヲ西進、敵彈下夜ヲ徹セシコト數十回、十月初旬煤山南側
 本道上ノ獨立標高三〇五高地ヨリ攻撃ヲ續行、正面ノ敵ノ我ニ數
 倍ノ兵力ヲ以テ逆襲シ來ルコト數回ニ及ベリ、三日午前八時一舉
 ニ此敵ヲ撃退スベク自動火器ノ威力ヲ敵ノ眞只中ニ集中ス、此好
 機ヲ逸セズ敵陣地ニ突撃ヲ敢行セリ、當時吉房軍曹ノ分隊ニ屬シ
 之レニ參加、勇敢ナル突撃中敵砲彈落下爲ニ身ニ砲彈破片創ヲ受
 ケシモ尙屈セズ銃ヲ執リテ突撃セシモ重傷ノ身ヲ如何ニセン、十
 月十日敵ヲ睨ンデ斃レタリ、功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜ハル。

原籍地 埼玉縣北埼玉郡廣田村字北根一五七〇
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍衛生兵伍長 勳八等 田島利次
 功七級
 法名 誠忠院義岳利道居士
 大正六年三月六日生



戰歿場所 湖北省陽新縣箬溪
 戰歿年月日 昭和十三年十月十五日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 母 田島照子

略 歷

昭和八年三月埼玉縣立不動岡中學校卒業、昭和九年四月埼玉縣廳ニ奉職、一年有餘ニテ川口市役所ニ轉職、昭和〇〇年三月召集セラル、旬日ヲ經テ出征、北支各地ヨリ中支ニ轉戰赫々タル武勳ヲ樹テ、次テ昭和〇〇年九月上旬武漢攻略戰ニ參加、中支湖北省陽新縣箬溪ノ山岳戰ニ中隊附衛生兵トシテ砲烟彈雨ノ中ヲ克ク戰傷者ノ收容ニ手當ニ献身ノ努力ヲ盡シ奮闘中、不幸敵彈ノ爲メ腹部貫通銃創ヲ受ケ壯烈悲痛ナル最後ヲ遂ゲラル行年二十四歳。

原籍地 埼玉縣北足立郡戸田村大字新會
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 小山林之助
 功七級
 法名 新陽院忠實義殉居士
 大正六年十月二十五日生



戰歿場所 江西省陽新縣梨頭尖高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月十五日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 兄 小山仙右衛門

略 歷

本籍地ノ尋常高等小學校高等科卒業、實業補習夜學四年終了、卒業後農業ニ従事。
 故陸軍歩兵上等兵小山林之助君 大正六年十月二十五日仁三郎三男、戸田新會生、資性剛毅忠君愛國之志厚、際會日支事變應召集、昭和〇〇年二月中支派遣軍屬本間部隊宮崎部隊、勇躍上征途、徐州大會戰如各地轉戰、耐艱苦缺乏每次勇戰奮闘破敵陣拔堅疊發揮皇軍威力易圖、同十三年十月十五日漢口攻略進軍中於江西省陽新縣梨頭尖高地、不幸敵彈遂壯烈戰死、誠帝國軍人龜鑑可言、即日賞其功賜授金鷄勳章功七級勳八等白色桐葉章。
 柳川將軍亦賞其忠勇、題墓碑如武人之名譽家門之光榮過、茲誌而傳後世矣。
 紀元二千六百年十月十五日
 龍寶山王中僧正 隆道撰(並文書)

原籍地 埼玉縣入間郡元狹山村大字二本木一四
所屬部隊 湯田部隊藤原隊

故陸軍歩兵軍曹 勳七等 功六級 中村 泰 男
法名 國泰院忠勇宗鑑居士 大正八年八月十九日生



戰歿場所 湖北省陽新縣孟烟山高地
戰歿年月日 昭和十三年十月十六日二十二時五十分
遺族住所 同 原籍地
氏名 母 中村 さく

略 歴

昭和九年三月元狹山村尋常高等小學校卒業、爾後農業ニ従事、昭和〇〇年支那駐屯軍第〇聯隊ニ入營、事變勃發スルヤ蘆溝橋占領、同〇〇年三月歩兵第〇聯隊ニ編入、七月中旬迄保定附近ニテ討匪行、警備ニ服務、七月中旬武漢攻略戦ニ參加ノ爲メ北支出發、八月中旬南京、九月中旬瑞昌附近ノ戦闘開始茶園峯ニ進出、同月下旬金輪峯ノ敵撃破、十月五日簪溪占領、十月十六日龍江ヨリノ戦闘ニ豪雨ヲ冒シ不眠不休堅陣孟烟山攻撃ニ第〇大隊第〇小隊第〇分隊長トシテ參加、常ニ率先シテ隊員ニ範ヲ垂、ヨク部下ヲ指揮シ上下ノ信望ヲ一身ニ荷負、特ニ戦闘ニ當リテハ先頭ニ在テヨク敵狀ヲ看破シ猛勇ヲ震、鬼分隊長トウタハレタリ、山上ノ敵陣ニ迫ルヤ勇猛果敢ナル突撃ニ移リシ際、脱兎ノ如ク敵陣ニ突入セシ折敵ノ手榴彈ノ爲メ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲラル、二十二時五十分、同日軍曹ニ昇進、功ニ依リ勳七等功六級ニ叙セラル。

原籍地 埼玉縣北葛飾郡金杉村大字築山地四元ノ三
所屬部隊 吉田部隊白貝隊
故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 戸 邊 元 吉
法名 護光院殉勇元範居士 大正六年三月二十七日生



戰歿場所 師團所屬第四野戦病院
戰歿年月日 昭和十三年十月廿四日
遺族住所 同 原籍地
氏名 父 戸邊 佐太郎

略 歴

大正六年三月二十七日埼玉縣北葛飾郡金杉村ニ誕生、昭和六年三月金杉尋常高等小學校卒業、同七年四月金杉村公民學校ニ勉學ノ傍農業ニ従事、昭和〇〇年三月一日召集ヲ命ゼラレ應召、支那駐屯宮崎部隊ニ轉屬、同年四月移駐ノ爲メ西苑出發、定縣附近ノ警備、八月上旬南京上陸、同月下旬ヨリ猪頭橋附近警備、九月中旬瑞昌馮家鋪間ノ戦闘ニ參加セルヲ始メトシ、馮家鋪周庄間ノ戦闘、麒麟峯附近ノ戦闘、大屋田箆溪間ノ戦闘等ニ參加、連戦連勝敵ヲ蹴散ラシ赫々タル武勳ヲ樹テ、十月上旬ヨリ下旬ニ及ブ箆溪、龍港慈口鎮間ノ激戦ニハ砲煙彈雨ヲモノトモセズ鬼神ヲ泣カシムル拔群ノ活躍ヲナシ、武運拙ナク護國ノ英靈トナル。

原籍地 埼玉縣北足立郡戸塚村大字長藏新田五四四
 所屬部隊 吉田部隊白貝隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 高橋安五郎
 功七級
 法名 輝巖院忠烈殉祭居士
大正五年九月二十七日生



戰歿場所 湖北省陽新縣栗村下南側高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 高橋吉五郎
 孫 同 征子

略 歴

大正五年九月二十七日埼玉縣北足立郡戸塚村大字長藏新田五四四番地ニ誕生、昭和六年三月戸塚尋常高等小學校卒業、後農業ニ従事、昭和〇〇年三月召集ヲ命ゼラレ支那駐屯長谷川部隊ニ入營、同日宮崎部隊白貝隊ニ轉屬、七月下旬南京集結ノタメ保定出發、九月上旬九江上陸、以來猪頭橋、瑞昌方面ノ戰闘ニ參加、十月下旬大屋田村箬溪間ノ戰闘ニ參加、三日三晩寢食ヲ忘レ、十月二十八日午前十一時中華民國湖北省陽新縣栗村下南側高地附近ノ戰闘ニ於テ戰死ス。

原籍地 埼玉縣北葛飾郡彥成村大字彦江
 所屬部隊 湯田部隊藤原隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 鈴木隆
 功七級
 法名 大輝院殉忠隆鑑居士
大正六年十月二十八日生



戰歿場所 湖北省辛潭舖野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 鈴木嘉津

略 歴

昭和七年三月小學校ヲ卒へ青年學校ニ入學、農業ニ従事スル傍勉學ニ勵ミ常ニ其成績タルヤ頭角ヲ現シテ居タ、昭和〇〇年三月突如應召、支那駐屯軍歩兵第〇聯隊ニ入營、各地ニ轉戰力闘、八月北支ヲ出發海路南京ニ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ參加、不眠不休頑敵ヲ蹴散ラシ更ニ銳鋒ヲ轉ジテ辛潭舖ニ迫リ摘彈筒手トシテ奮戰拔群ノ偉勳ヲ樹テシガ、不幸敵彈ヲ受ケ龍口野戰病院ニ收容サレ更ニ辛潭舖ニ轉送、加療中、昭和十三年十月二十八日遂ニ不歸ノ客トナル、未教育補充兵トシテ應召僅カ九ヶ月餘ニシテ伍長ニ任官、勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 埼玉縣兒玉郡仁手村字仁手二四ノ一
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 福 島 仲 治
 法 名 至誠院義岳顯道居士
 大正六年十月八日生



戰歿場所 江蘇省上海兵站病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月三十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 福島 清 作

略 歴

昭和六年三月仁手小學校卒業、四月洋服業ニ従事、〇〇年三月一日支那駐屯歩兵第〇聯隊ニ入營第〇聯隊ニ轉屬、第〇中隊ニ編入西苑警備、四月十日保定直、警備並ニ討伐、八月六日南京直、九月六日九江直、九月七日猪頭橋着警備、國峯、八卦山附近ノ戦闘ニ參加、丁家口、長忍坪附近戦闘參加、麒麟峯、大屋田村附近警備、龍口、萬家塘附近警備中病魔ニ冒サレ十月三十日陽新鎮野戰豫備病院ニ入院、後上海第七兵站病院ニテ懇篤ナル療養モ無効遂ニ戰場ノ露ト消ユ。

原籍地 埼玉縣人間郡人間村北人會
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 宮 崎 一 二
 功七級
 法 名 神 靈
 大正六年二月二十六日生



戰歿場所 湖北省陽新野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 兄 宮崎 茂 景

略 歴

昭和六年三月入間小學校卒業、昭和〇〇年三月北支駐屯長谷川部隊へ入營、〇〇年七月七日ヨリ〇〇年二月二十八日迄大隊本部ニ勤務、昭和〇〇年三月宮崎部隊ニ轉屬、七月南京集結ノタメ保定出發、漢口攻略戰ニ參加、九月上旬ヨリ九江、瑞昌、麒麟峯、著溪、龍口等ノ戦闘ニ參加、十月十三日唐庄山ノ戦闘ノ際、左背部ニ手榴彈破片創ヲ受ケ陽新野戰病院ニ入院、十一月一日戰傷死ス、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 埼玉縣南埼玉郡平野村大字駒崎三一
 所屬部隊 廣部部隊上山隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 吉岡義男
 大正四年三月二十九日生
 法名 崇陽院武列義男居士



戰歿場所 崇陽縣桂口市西北方三軒黃土嶺
 戰歿年月日 昭和十三年十一月八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 吉岡卯作

原籍地 埼玉縣南埼玉郡八幡村大字大原八五六
 所屬部隊 宮崎部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 大山繁造
 法名 武昌院殉忠繁道居士



戰歿場所 湖北省武昌野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月十九日
 遺族住所 埼玉縣南埼玉郡八幡村大字大原八五六
 氏名 父 大山熊五郎

略 歴

昭和四年三月埼玉縣南埼玉郡平野村小學校卒業、後農業ニ従事シ
 公民學校青年訓練所ニ入り、昭和九年十一月陸軍大演習ニ際シ本
 校代表トシテ參加ノ光榮ニ浴セリ、同十年三月卒業ス、昭和〇年
 十二月〇〇歩兵第〇聯隊ニ入營、同十二年六月除隊、昭和〇〇年
 七月支那事變勃發スルヤ青年學校教練科指導員トナル、昭和〇〇
 年九月十四日應召、宮崎部隊上山隊ニ屬シ出征、中支湖北省東南
 部各地ニ赫々タル武勳ヲ樹テ、同十一月八日通城攻撃ノ途次黃土
 嶺高地奪取ノタメ右翼分隊長トシテ夜襲決行、彈丸雨飛ノ下ニ進
 撃又進撃、敵前三十軒先頭ニ立チ指揮中不幸敵彈ノ爲メ名譽ノ職
 死ヲ遂ゲ。

略 歴

昭和五年三月八幡尋常高等小學校卒業以來魚商ニ従事ス、昭和〇
 〇年山崎隊ニ編入暴支膺懲、徐州大會戰ニ參加武勳ヲ奏シ、九月
 中旬中支江南ノ茶園嶺及方家山麒麟峯ヲ經テ羅盤山附近ノ強敵ヲ
 撃破シ蒼溪ヲ攻略シ、進ミテ孟烟山々嶽地帯ノ頑敵ヲ追撃ス、此
 ノ間六旬正ニ百數十里、勇敢健闘滅私奉公ノ忠誠ヲ竭シ拔群ノ功
 績ヲ樹テタルモ十一月十九日不幸武昌野戰病院ニ於テ戰病死ス、
 村葬ニ際シ畏クモ恩賜品ヲ賜リ、茲ニ兄弟二勇士共江南ノ華ト散
 リ忠烈武人ノ龜鑑トシテ眞ニ家門ノ榮譽タリ。

原籍地 埼玉縣川口市本町四丁目一九七
 所屬部隊 湯田部隊藤原隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 岩 澤 敏 登
 法 名 盡忠院敏譽登蓮居士
 大正六年九月二日生



戰歿場所 崇陽縣第二野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月二十四日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 岩 澤 意 智
 母 岩 澤 意 智

略 歷

昭和七年三月川口尋常高等小學校卒業、後麻布東京通信講習所入所電信技術ヲ修了、同八年東京王子郵便局電信課ニ勤務、昭和〇〇年三月召集、保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ、八月北支出發海路南京へ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ參加、無線部隊ニ入り第〇分隊長トナリ炎暑ヲ冒シ不眠不休進撃通城ヲ經テ崇陽へ向フ途中、楠林橋附近ニテ不幸病魔ノ冒ス所トナリ倒ルル事數回、而シ責任感強ク任務ヲ果シツツアルモ遂ニ無線機ヲ背負シマ、轉倒立ツ能ハズ、十一月二十四日崇陽第〇野戰病院ニ收容手當ヲ受ケタルモ甲斐ナク同日戰病死ス。

原籍地 埼玉縣北足立郡日進村上大成
 所屬部隊 廣部部隊上山隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 菊 池 源 三
 功七級
 法 名 彰忠院正源義道居士
 大正六年十一月二十八日生



戰歿場所 河北省河間縣齊會
 戰歿年月日 昭和十四年四月二十三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 菊 池 要 右 衛 門
 父 菊 池 要 右 衛 門

略 歷

昭和七年三月二十九日進尋常高等小學校卒業、後家事ニ従事、昭和〇〇年一月二十一日支那駐屯軍歩兵第〇聯隊ニ入營、北平附近ニテ一期ノ檢閲ヲ受ケ、四月二十三日河北省河間縣齊會附近ノ戰鬪ニ支那正規軍ト白兵戰ヲ演ジ、敵約百名ヲ二十九人ヲ以テ全滅セシメタルガ、急ヲ聞キ敵ノ應援隊潮ノ如ク寄せ來タリ、寡兵ヨク死守セルガ多勢ニ無勢遂ニ抗シ難ク、戰場ノ華ト散リ果テタリ。

原籍地 埼玉縣北足立郡石戸村下石戸六五〇
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 戸田 省三
 大正六年三月二十九日生
 法名 盡忠院三省孝達居士



戰歿場所 湖北省通城野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月二十四日
 遺族住所 埼玉縣大宮市下町一區三九八五
 氏名 弟 戸田 源助

原籍地 茨城縣鹿島郡上島村大字豪濁澤二七九
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊附衛生兵
 故陸軍衛生兵伍長 勳八等 小沼 汎
 功七級
 法名 大正四年十月二十九日生



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣八卦山附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 小沼源太郎

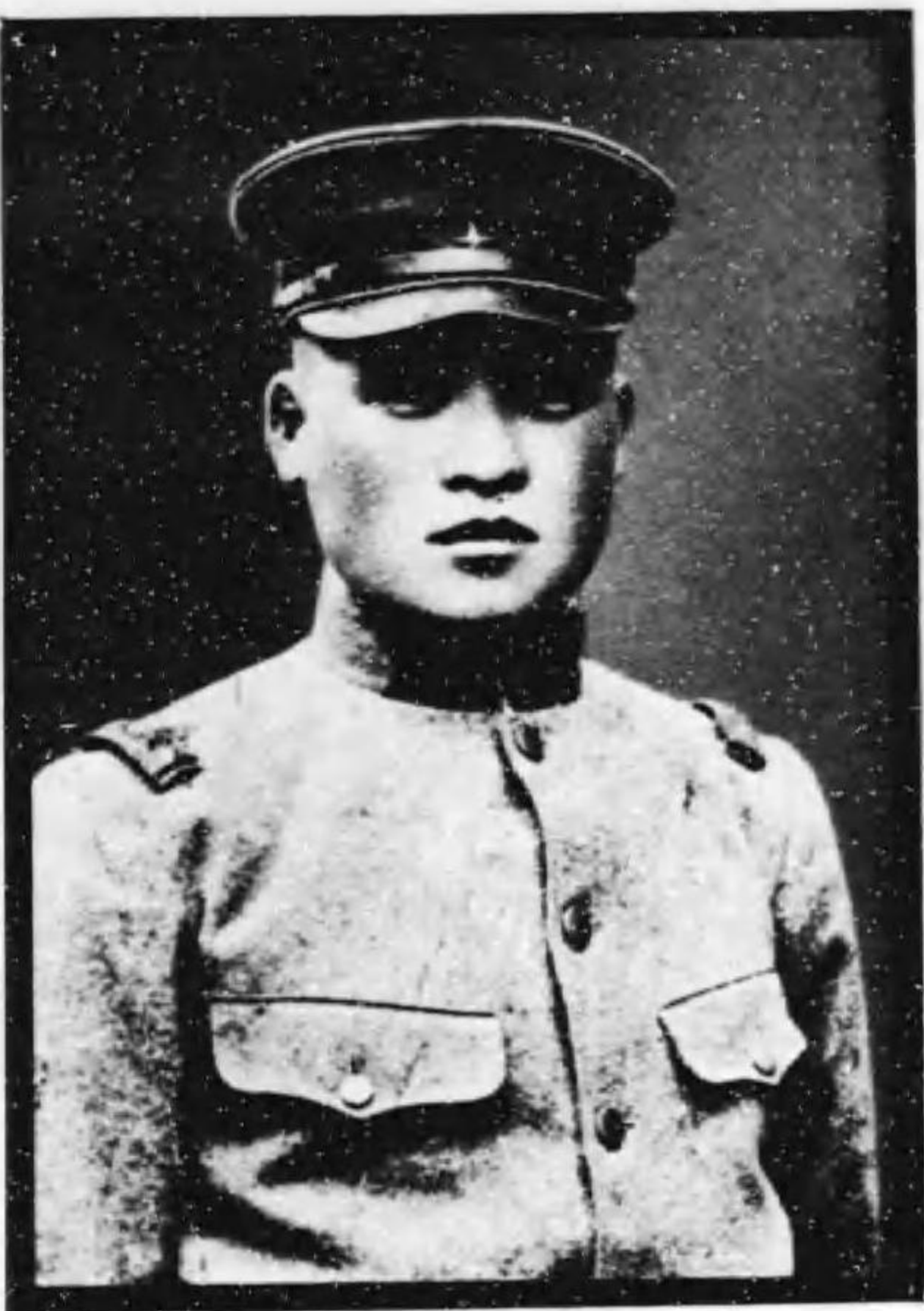
略 歴

昭和六年三月大宮小學校卒業、四月ヨリ川口市木町小原鐵工場見習工トシテ勤務、八年三月家事都合上退職シ八年四月ヨリ大宮鐵道工場旋盤工ニ従事、昭和〇〇年二月二十日支那駐屯宮崎部隊市川隊へ編入、八月大命ヲ奉ジテ中支江南ニ派遣セラル、ヤ瑞昌ノ初陣以來茶園嶺、丁家山、麒麟峯ノ峻嶮ナル山岳地帯ノ堅陣地ヲ力攻シ、敵ノ中樞戰力ヲ牽制擊碎シ善溪ノ要衝ヲ攻略シ赫々タル武功ヲ樹テラレ、更ニ唐庄山、孟烟山、鳳凰尖高地ニ前進シ天險ニ據ル頭敵ヲ殲滅シ、更ニ通山方面ニ於ケル中央軍ノ精銳ヨリノ猛射ヲ冒シ挺身重機關銃手トシテ敵陣ニ肉迫奮闘中、不幸病魔ノ目ス所トナリ通城陸軍野戰病院ニ入院加療中、十一月二十四日遂ニ戰病死セラル、同日附伍長ニ任官サル。

略 歴

小沼汎ハ大正四年十月二十九日茨城縣鹿島郡上島村ニ生レ、昭和四年三月高等小學校卒業、同八年四月ヨリ農業ニ従事ス、同〇〇年一月十日〇〇歩兵第〇聯隊へ入營、同年二月八日東京第〇陸軍病院へ配屬、同〇〇年七月九日歸休除隊、同年九月五日召集ニテ東京第〇陸軍病院へ應召、同日ヨリ翌〇〇年七月十七日迄同院ニ在リテ支那事變勤務ニ従事中、同〇〇年七月十八日駐支木間部隊宮崎部隊山崎隊へ衛生兵トシテ轉屬シ、同年九月十八日江西省瑞昌縣八卦山附近ノ戰闘ニ於テ戰死ス、同日附伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等ニ叙セラレ功七級ヲ賜ハル。

原籍地 茨城県眞壁郡關本町大字關本分中
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵曹長 勳七等 功六級 森 勝 藏
 法 名 盡忠院殉奉勝鑑居士
 大正四年十月十日生



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣丁家山
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 森 久 四 郎

略 歴

森勝藏、父久四郎ノ長男ニシテ大正四年十月十日關本町ニ生レ、
 昭和〇〇年一月十日〇〇歩兵第〇聯隊へ入營シ、同年五月支那駐
 屯岡崎部隊ニ編入セラレ、同〇〇年七月七日北支事變起ルヤ天津
 出發通州、南苑、豐臺等ノ戰闘ニ參加シ更ニ山西省太原攻略戰ニ
 加ハリ、忻口鎮ニ於テ同年十月二十六日顔面並ニ左手ヲ迫撃砲彈
 破片ノ爲メ負傷シ遼陽陸軍病院ニ後送セラレ、療養ノ效アリ同十
 二月二十五日平癒、再起歸隊後宮崎部隊ニ轉屬、黄河作戦濟南ヲ
 經テ徐州戰ニ參加、十三年八月七日揚子江ヲ遡リ九月六日南京ニ
 上陸、七日九江ニ至ル、此ノ間累進軍曹トナル、同月十六日瑞昌
 馮家鋪附近ノ激戰ニ參加シ、同月十九日瑞昌縣丁家山高地ニテ奮
 戰中敵彈左胸部貫通銃創ヲ受ケ遂ニ名譽ノ戰死ヲ遂ゲ護國ノ華ト
 散ル、享年二十有三、同日附曹長ニ任ゼラレ、
 畏クモ其功ニ依リ勳七等ニ叙セラレ功六級金鷄勳章ヲ賜ハリ靖國
 神社ニ合祀セラル。

原籍地 宮城県仙臺市元寺小路九八
 所屬部隊 宮崎部隊檜崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 鈴木 直 吉
 法 名 光徳院義徹直道居士
 大正六年三月二十日生



戰歿場所 湖北省陽新縣鳳凰尖附近
 戰歿年月日 昭和十三年十月十九日
 遺族住所 栃木縣黒磯町一七九
 氏 名 (士族) 父 鈴木 直 吉

略 歴

昭和九年三月宇都宮市商業學校卒業、同年四月ヨリ東武鐵道ニ從
 事、昭和〇〇年三月一日召集ヲ命ゼラレ歩兵第〇聯隊ニ入營、六
 日出發、九日〇〇港出帆、十三日〇〇上陸、支那駐屯宮崎部隊白
 貝隊ニ編入、七月二十二日檜崎隊ニ轉屬、保定附近ニテ一期檢閲
 ヲ受ケ、八月北支出發海路南京へ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、
 蕩溪等ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散ラシ炎暑ヲ冒シ
 不眠不休奮闘シ漢口へ進軍、武勳ヲ樹タルモ陽新縣鳳凰尖附近ノ
 戰闘ニテ全身へ砲彈破片創ヲ蒙リ十三年十月十九日戰死ス。
 同日上等兵ニ進級、林銑十郎閣下ヨリ碑文ヲ揮毫セラル。

原籍地 栃木縣那須郡兩鄉村中野内一六五四
 所屬部隊 廣部部隊山田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 益子兼雄
 功七級
 法名 顯光院大曠眞雄居士
 大正四年四月五日生



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 益子金之助

略歴

昭和三年三月小學校卒業、十一年一月十日歩兵第〇〇聯隊機關銃中隊へ編入、〇〇年七月七日ヨリ昭和〇〇年二月二十八日迄支那駐屯歩兵第〇聯隊ニ在リテ事變動務ニ従事ス、五月十日〇〇港出帆、十五日〇〇上陸、同日天津着宮崎部隊第〇機關銃〇隊ニ編入、上等兵ニ進級、各地ニ轉戰赫々タル武勳ヲ樹テタルガ、九月二十七日麒麟峯附近ノ戦闘ニ腹部貫通銃創ヲ受ケ戦死シ同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 群馬縣佐波郡剛志村下武士
 所屬部隊 廣部部隊山田隊
 故陸軍歩兵曹長 勳七等 倉林清武
 功六級
 法名 忠譽院殉清武鑑居士
 大正四年三月十八日生



戰歿場所 江西省長岡坪西方高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十三日
 遺族住所 群馬縣佐波郡境町大字境三四四
 氏名 倉林熊吉

略歴

昭和四年三月剛志小學校卒業、四月ヨリ伊勢崎織物業ニ従事ス、長男ニ生レ勝氣ニテ他人ニ負ケル事ナク濃厚篤實、明朗勇敢ニ前途有望ノ人ナリキ、昭和十一年検査ノ結果健康體ニテ甲種合格、河合總裁ヨリ賞状ヲ授與セラル、〇〇聯隊機關銃隊ニ編入、五月天津駐屯、蘆溝橋事件勃發スルヤ廣安門、南苑ヲ攻撃シ、通州、北平、折口鎮、太原城等ヲ一番乗ノ勇名ヲ馳セ、一月最前線ニテ黄河ヲ涉リ濟南城ニ入城、北支五省ニ足跡ヲ印シ、昭和〇〇年三月召集セラレ、七月中支轉戰、海路南京上陸、九江、瑞昌、簞溪間ヲ分隊長トシテ奮戰、九月二十三日長岡坪西方高地ニ於テ機關銃ノ猛射ヲ浴セテ敵ヲ沈黙セシメ、右翼ノ敵ヲ單獨兵ヲ率ヒテ撃滅セシメシ時敵彈左上膊部ヨリ胸部ニ命中シ、ヤラレマシタ、天皇陛下萬歳ノ聲モ微カニ戦死セラレ、温情ノ部下ハ占領セシ山ノ南ニ墓穴ヲ掘リ懇ニ葬ヒ供物ヲ手向ラレ永眠セラル。

原籍地 群馬縣碓氷郡九十九村國衙五四
 所屬部隊 廣部部隊山田隊
 故陸軍輜重兵上等兵 勳八等功七級 小林政太郎
 法名 瑞光院殉忠政範居士
 大正四年十二月一日生



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 小林德次郎

略 歴

昭和五年三月國衙小學校卒業、四月ヨリ農業ニ従事、昭和十一年三月碓氷郡聯合青年團ヨリ模範青年トシテ表彰セラル、〇〇年四月〇〇〇聯隊ニ入營、〇〇年七月召集セラレ數日後征途ニ上リ、八月九日南京へ上陸、九月十一日九江着、難戰苦闘シツ、瑞昌、麒麟峯等ノ山岳戰ニ參加、強敵ヲ殲滅シ、九月二十八日午後五時半戰場ノ華ト散ル、即日上等兵ニ進級、勳八等功七級ヲ賜ハル。

原籍地 山梨縣西八代郡久那土村芝草四三
 所屬部隊 湯田部隊三重野隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等功七級 内藤安治
 法名 忠禪院安清治勝居士
 大正五年十月一日生



戰歿場所 湖北省陽新縣石尖山附近
 戰歿年月日 昭和十三年十月十二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 内藤倭孝

略 歴

昭和五年三月久那土尋常高等小學校卒業後、東京市中野區上高田二一五内藤龜男方ニ建築大工ニ従事、昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍宮崎部隊第〇中隊ニ入營ス。
 昭和十三年十月十二日、中華民國湖北省陽新縣石尖山附近ニ於テ戰鬪中左胸部貫通銃創ヲ受ケ戰死ス。

原籍地 長野縣下高井郡長丘村田麥
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 岩 下 多 右衛門
 法 名 靖照院釋泰然自衛居士
 大正五年十月十五日生

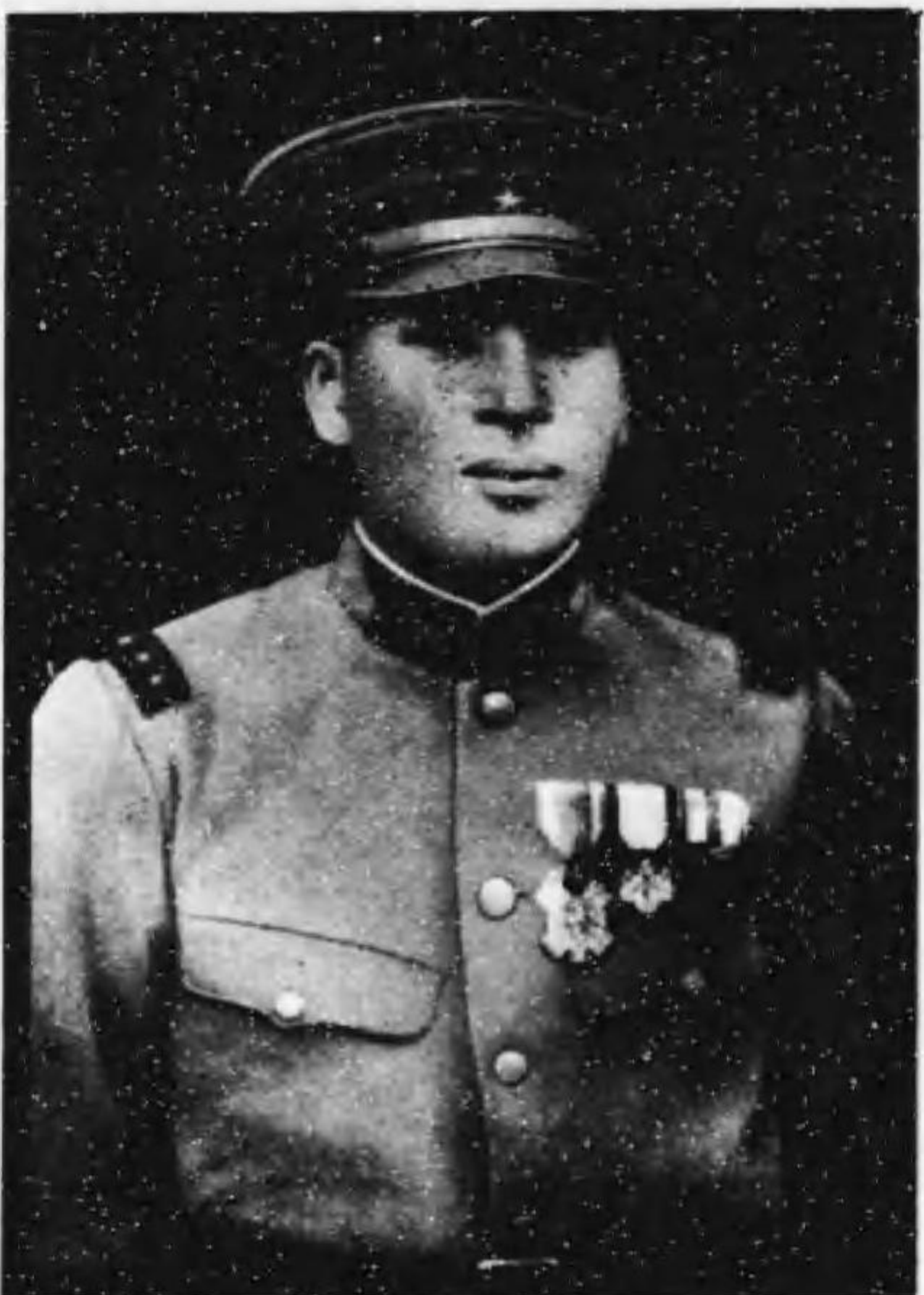


戰歿場所 江西省陽新縣梨頭尖附近
 戰歿年月日 昭和十三年十月十五日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 岩 下 と し
 母 岩 下 と し

略 歴

昭和六年三月長丘小學校卒業、四月ヨリ農業ニ従事、〇〇年十二月一日〇〇歩兵第〇聯隊へ入營、十二年十二月五日歸休ヲ命ゼラル、〇〇年九月九日召集セラレ原隊へ入營、二十一日〇〇驛發征途ニツキ〇〇乗船〇〇上陸、南京、九江ヲ經テ敵ノ退路ヲ遮斷スベク峻嶮ナル山野ヲ越ヘ憩フ遺ナク休ム所モナク糧食缺乏シ生辛ヲ嚼リ不眠不休敵彈下ヲ馳驅シ夜ヲ徹スル事數十回ニ及ビタリ、梨頭尖攻撃ノ際ハ高地ヨリ猛烈ナル射撃ヲ受ケ應戰中、腹部ニ貫通銃創ヲ受ケシモ屈セズ續行中、體力盡キ銃ヲ握リシマ、戦死セラル。

原籍地 長野縣北安曇郡常盤村一七八三
 所屬部隊 吉田部隊
 故陸軍輜重兵上等兵 勳八等 功七級 中 條 多 長
 法 名 神 靈
 大正六年十一月十八日生



戰歿場所 湖北省陽新縣小虎岩附近
 戰歿年月日 昭和十三年十月十六日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 中 條 は つ ぶ ち
 母 中 條 は つ ぶ ち

略 歴

昭和七年三月常盤小學校卒業、四月ヨリ實業補習學校ニ入り、十二年三月青年學校卒業、九年八月一日ヨリ日本電氣工業會社大町工場勤務、〇〇年十二月一日輜重第〇〇聯隊第〇中隊ニ入營、十三年一月二十五日歸休被命、七月十五日召集二十二日整備要員トシテ屯營地出發、〇〇港出帆、二十八日〇〇上陸宮崎部隊ニ轉屬第〇大隊ニ配屬、八月七日南京上陸、三十日出發九月六日九江上陸猪頭橋附近ノ警備、十五日ヨリ瑞昌、馮家舖周庄間ノ戰闘參加、九月二十六日ヨリ麒麟峯附近ノ山岳戰ニ奮闘、九月三十日ヨリ大屋田村著溪間ノ戰闘並ニ著溪、龍港慈口鎮間ノ戰闘ニ參加シ小虎岩附近ニ於テ敵彈ヲ蒙リ戦死サル、同日輜重兵上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 長野縣更級郡力石村四〇七
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 中 澤 正 治
 功七級
 法 名 輝高院殉義正鑑居士
 大正四年六月十五日生



戰歿場所 湖北省通山縣熊家窩西方高地
 戰歿年月日 昭和十三年十一月六日午前六時
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 中澤今朝一

原籍地 長野縣下高井郡中野町中野一〇三〇
 所屬部隊 宮崎部隊森垣隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 高 野 幸 夫
 功七級
 法 名 高源院幸得夫雄居士
 大正四年五月十六日生



戰歿場所 河北省肅寧縣王村附近
 戰歿年月日 昭和十四年二月四日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 高野忠助

略 歴

昭和五年三月上山田組合立小學校卒業、七年三月更南實科中學校青年訓練所卒業、十年三月高等科三學年卒業、十二月一日〇〇歩兵第〇聯隊第〇中隊入營、十二年五月三十一日除隊、十二月一日鐵道省直江津驛勤務、〇〇年九月十四日召集、九月九日出發以來嶮峻ナル山岳地帯ノ攻撃ニ參加、十月十二日宮崎部隊ニ配屬セラレ機關銃手トシテ敵ヲ斃シタル事數知レズ、漢口へ突入シ赫々タル武動ヲ樹テタルモ戰半ニシテ通山縣熊家窩西方高地附近ノ戰鬥ニ於テ肩部及上膊ニ手榴彈ノ破片創ヲ受ケ其場ニ彈藥函ヲ抱キタル儘十一月六日午前六時戰死セラル、其武動タルヤ實ニ偉大ナリシ、同日上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ヲ授ケ賜フ。

略 歴

昭和六年三月長野縣中野商業學校卒業、十年十二月〇〇歩兵第〇聯隊へ入營、十二年五月除隊、昭和〇〇年九月召集、支那駐屯歩兵第〇聯隊ニ編入、箬溪、龍口、慈口鎮等ノ山岳戰ニ參加、十月二十二日ヨリ三十日迄陽新鎮附近ノ警備並ニ戰鬥ニ參加、十二月二十七日ヨリ滄縣附近ノ警備、昭和十四年一月二十三日ヨリ津浦線京漢線間ノ討伐戰ニ參加、二月四日王村附近ノ戰鬥ニテ左胸部貫通銃創ヲ受ケ戰死サル、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 新潟縣岩船郡保内村下鍛冶屋
 所屬部隊 廣部部隊山田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 大矢 弦 司
 功七級
 法名 義獄院大勇堅忠居士
 大正五年一月八日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣丁家山
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 母 大矢 かの

略 歴

大正五年一月八日原籍地ニ於テ誕生、大正十三年十月父ニ死別、
 昭和五年三月縣立村上中學校ヲ二年ニテ退學、同年四月加茂農林
 學校ニ轉校、昭和九年三月十九歳ニテ同校卒業、同年四月東京府
 町田町玉川學園專門部ニ入學、十一年六月兄上病氣ノ爲メ退學シ
 家庭ニ於テ専心農業ニ従事、傍同村實踐農學校ノ體操及ビ林業ノ
 助教授ヲナシ、昭和〇〇年三月一日小池隊ヘ入隊シ、其後宮崎部
 隊山田隊ヘ轉屬シ、各地ノ戰闘ニテ武勳ヲ樹テタリシガ、九月十
 九日瑞昌縣丁家山攻撃ニ重機關銃手トシテ敵彈雨飛ヲ物トモセズ
 奮戰中、不幸敵彈命中シ遂ニ斃ル。

原籍地 新潟縣南蒲原郡中之島村中野東
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 岩 本 甚 平
 功七級
 法名 釋 齊 入
 大正五年十二月一日生



戰歿場所 中華民國河南省寧陵縣張庄附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 母 岩 本 キ シ

略 歴

大正五年十二月一日新潟縣南蒲原郡中之島村ニ生レ、昭和四年中
 之島村立中野尋常高等小學校卒業、翌四月ヨリ農業ニ従事ス、昭
 和十一年三月中之島村立中野青年訓練所卒業、在所中成績優秀ニ
 付新潟縣青年團長ヨリ表彰サル、昭和〇〇年三月一日應召、同月
 六日駐支部隊要員トシテ屯營出發北京ニ到着、駐支歩兵〇部隊ニ
 編入、駐屯地附近修備訓練、六月一日一等兵ニ進級、各戰闘ニ參
 加、昭和〇〇年六月二日河南省寧陵縣張庄附近ニ於テ中隊獨力敵
 陣地要點ノ攻撃ヲ命ゼラレ勇敢ニ行動シテ之ヲ奪取、第一線陣地
 ニ突入ノ瞬間不幸敵彈ヲ受ケシモ毫モ屈セズ猶モ突進ヲ續ケ第二
 線陣地ヲ完全ニ占領、任務ヲ終ルヤ精魂ツキテ再び起ツ能ハズ、
 天皇陛下萬歲ヲ連呼シツ、從容トシテ戰死セリ、同日附上等兵ニ
 進級、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラレ。

原籍地 新潟縣南魚沼郡大崎村大字水尾
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 山口 五郎
 功七級
 大正六年三月二十一日生
 法名 天彰院忠察義英居士



戰歿場所 中華民國河南省柳河驛附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 山口龜三郎

略 歴

大正六年三月二十一日新潟縣南魚沼郡大崎村ニ生レ、昭和六年三月大崎村尋常高等小學校高等科卒業、翌四月ヨリ農業ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日應召、同月六日駐支部隊要員トシテ屯營出發、同月十七日北京ニ到着、支那駐屯宮崎部隊ニ編入セラレ駐屯地營備訓練、同年五月徐州大會戰ニ參加、至ル所ノ頑強ナル敵ヲ潰滅シ追撃中、六月二日河南省柳河驛附近ノ戦闘ニ於テ不幸敵彈ノ爲メ頭部貫通銃創ヲ受ケ名譽ノ戰死ヲ遂ゲ、同日附上等兵ヲ命ゼラレ功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜フ。

原籍地 新潟縣中頸城郡美守村大字沖柳
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 井 豊治
 功七級
 大正五年三月十二日生
 法名 忠 徹



戰歿場所 中華民國河南省寧陵縣候園附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 松井富士作

略 歴

大正五年三月十二日新潟縣中頸城郡美守村ニ生レ、昭和四年三月新潟縣立直江津農商學校卒業、翌四月ヨリ農業ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日應召、同月六日支那駐屯部隊要員トシテ屯營出發、渡支北京蕭宮崎部隊ニ編入、同年五月徐州大會戰ニ參加、各地ニ轉戦、六月二日中華民國河南省寧陵縣候園ノ戦闘ニ於テ頑強抵抗セル敵十數倍ニ對シ惡戰苦闘中敵彈ノ爲メ遂ニ斃ル、同日附上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラレ、昭和十五年十月靖國神社ニ合祀セラレ。

原籍地 新潟縣西頸城郡上早川村大字越
所屬部隊 吉田部隊山口隊
故陸軍歩兵上等兵 勳八等 齋 藤 喜 代 吉
功七級
大正六年三月六日生
法 名 忠道義範居士



戰歿場所 中華民國瑞昌縣第四野戰病院
戰歿年月日 昭和十三年九月十八日
遺族住所 同 原籍地
氏 名 齋 藤 喜 代 吉
母 齋 藤 イ ヨ

原籍地 新潟縣東頸城郡牧村大字櫻瀧
所屬部隊 廣部部隊山田隊
故陸軍歩兵上等兵 勳八等 羽 深 庄 作
功七級
大正六年四月十三日生
法 名 釋 間 正



戰歿場所 中華民國瑞昌縣丁家山高地
戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
遺族住所 同 原籍地
氏 名 羽 深 藤 太 郎

略 歴

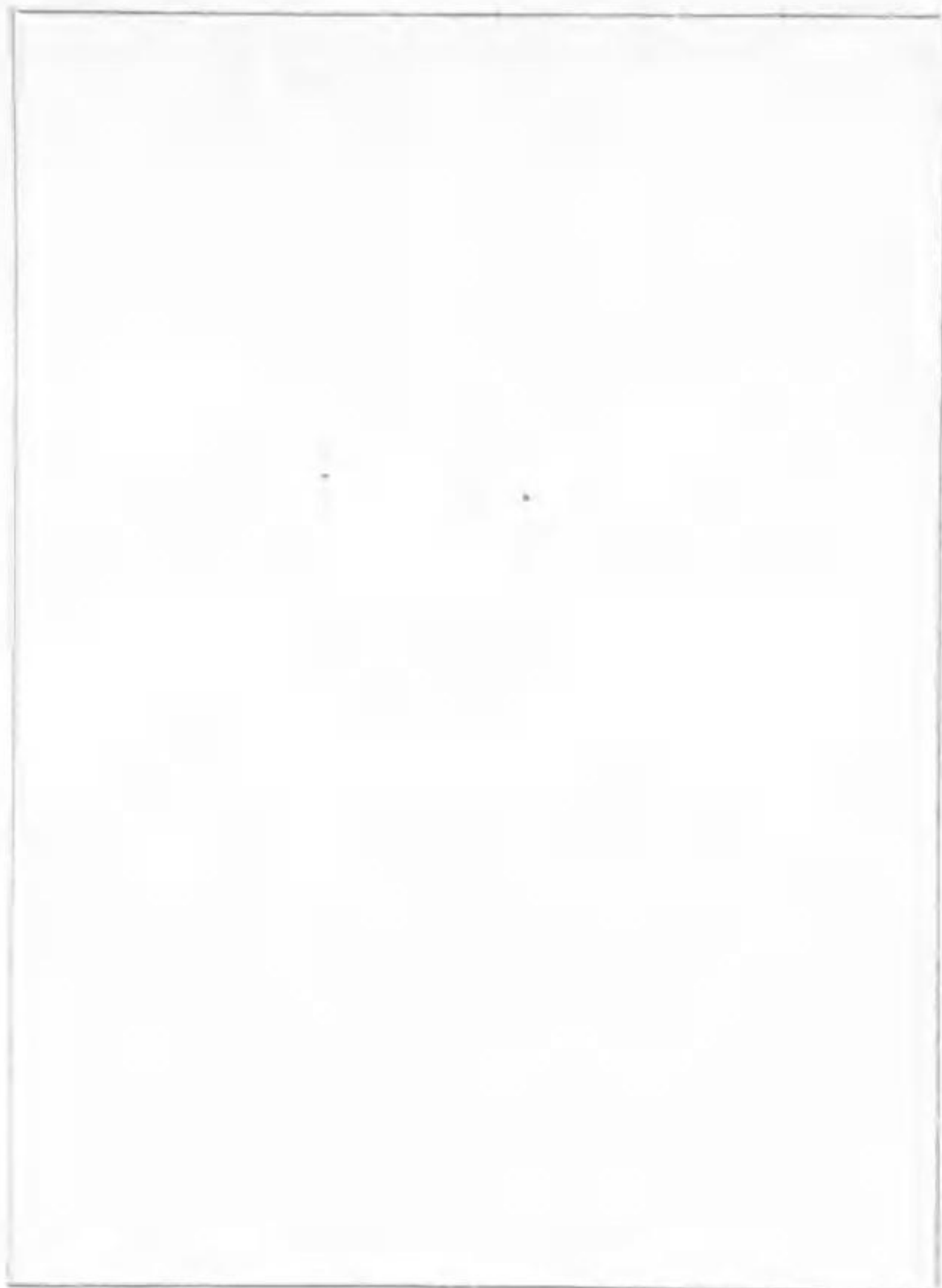
大正六年三月六日新潟縣西頸城郡上早川村ニ生レ、昭和七年三月同郡下早川村尋常高等小學校卒業、翌四月ヨリ農業ニ従事、昭和〇〇年三月一日應召、同月六日屯營出發渡支、北京西苑支那駐屯宮崎部隊ニ編入保定附近へ移駐、營備中一期檢閲ヲ受ケ、八月北支出發海路南京ニ上陸、九月以來武漢攻略戰ニ參加、頑敵ヲ相手ニ常ニ勇敢ニ奮闘中、九月十八日江西省八卦山ヲ攻略シ守備中拂曉敵大部隊ノ逆襲ヲ受ケ勇敢沈着之ニ猛射ヲ浴セ奮闘中不幸敵彈ニ收容セラレ出血多量、顔面蒼白ナリシモ意識明瞭ニテ住所等判然ト申述べ、重傷ノ爲メ治療室ニテ手術ヲ受ケ看護兵ニ皇國ノ爲メト手ヲ握リ合ヒ人生ノ別レヲシタト言ヒ其儘戰傷死ス、同日附上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラレ、昭和十五年十月靖國神社ニ合祀セラレ。

略 歴

大正六年四月十三日新潟縣東頸城郡牧村ニ生レ、昭和四年三月牧村大字原尋常高等小學校卒業、後家業ノ農事ニ従事ス、昭和十一年十一月愛知縣岡崎市ノ日本レイヨン株式會社ニ勤務中、昭和〇〇年三月一日應召、同月六日駐支部隊要員トシテ屯營出發渡支北京到着、後支那駐屯宮崎部隊ニ編入セラレ太原附近ニテ營備、訓練ヲ受ケ六月一日一等兵ニ進級、八月武漢攻略戰參加ノ爲メ北支出發海路南京ヲ經テ九江附近ニ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ參加、九月十九日瑞昌縣丁家山高地ニ於テ戰死ス、同日附上等兵ニ昇進、功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜ハル。

原籍地 新潟縣三島郡岩塚村十樂寺
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 平 石 兼 義
 法 名

戰歿場所 江西省瑞昌縣丁家山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 平 石 政 吉



原籍地 新潟縣南蒲原郡加茂町狹口
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 熊 倉 寅 治
 法 名 誠光院眞阿忠全居士
 大正四年十二月十日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣鶴公岑
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 熊 倉 寅 治

略 歴

昭和 年 卒業
 昭和〇〇年三月北支派遣宮崎部隊高木隊へ入隊、一期檢閲ヲ受ケ、六月一日一等兵ニ進級シ、徐州戰ニ參加シ、九月中支ニ轉ジテ南京ニ上陸、揚子江ヲ遡リ九江、瑞昌附近ノ警備討伐ヲ行ヒ、常ニ卒先功ヲ樹テ、丁家山高地守備ノ敵ニ對シテハ死力ヲ盡シテ應戰シ、九月十九日遂ニ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル、同日附上等兵ニ進級シ功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜ハル。

略 歴

昭和五年三月加茂小學校卒業、四月ヨリ建具商船従事、十年木工試驗場製圖科修業
 昭和〇〇年三月一日應召、三月六日屯營出發、三月九日〇〇出帆、
 〇〇城子曠上陸、〇〇北京駐屯、〇〇北京新郷區戰闘、〇〇北京出發、〇〇沽塘出帆、〇〇南京上陸、〇〇南京揚子江遡江、〇〇九江上陸、同年九月二十二日江西省瑞昌縣鶴公岑ノ戰闘ニ右翼第一線第〇小隊第〇分隊ニ屬シ敵陣地ノ一角ヲ奪取シタ時、突然敵ノ一彈飛來シ無念ナルヤ頭部貫通銃創ヲ受ケ戰場ノ華ト散ル。

原籍地 新潟縣刈羽郡高柳村字岡田五〇〇
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 中 村 信 吉
 功七級
 法 名 殉譽忠山顯信士
 大正五年四月二十二日生



戰歿場所 中華民國德安縣麒麟峯附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 中 村 茂 吉

略 歴

大正五年四月二十二日新潟縣刈羽郡高柳村ニ生レ、昭和六年三月岡野町尋常高等小學校高等科卒業、後農業ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日應召、同月六日支那駐屯長谷川部隊要員トシテ屯營出發、同月九日上陸、同月十七日支那駐屯長谷川部隊ニ到着、同日宮崎部隊ニ轉屬江田隊ニ編入、同四月十日ヨリ保定附近ノ警備並ニ討伐ニ當リ、七月下旬南京集結ノ爲メ保定出發海路ヲ經テ八月二日南京ニ上陸、九月二日九江附近ニ上陸瑞昌、箬溪間ノ山岳戰ニテ、九月二十三、四兩日長岡坪附近ノ戰闘ニ參加、九月二十六日麒麟峯ノ戰闘ニ於テ頸部ニ敵手榴彈破片ヲ受ケ名譽ノ戰死ヲ遂ゲ、同日附歩兵伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜ハリタリ。

原籍地 新潟縣中蒲原郡新津町大字古川
 所屬部隊 湯田部隊藤原隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 古 川 一 作
 功七級
 法 名 雄光院一義作道居士
 大正六年三月十三日生



戰歿場所 中華民國江西省南川高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 古 川 與 作

略 歴

大正六年三月十三日新潟縣中蒲原郡新津町ニ生レ、昭和四年三月新津尋常小學校卒業、同年六月ヨリ同十二年九月迄下駄職見習ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日應召、同月六日駐支部隊要員トシテ屯營出發駐支長谷川部隊ニ到着、其後支那駐屯宮崎部隊ニ轉屬藤原隊ニ編入、駐屯地附近警備訓練ヲ受ケ同六月一日一等兵ニ進級、七月下旬武漢攻略戰ニ參加ノ爲メ北支出發南京ヲ經テ九江附近ニ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ參加、昭和十三年九月二十七日江西省南川高地ノ戰闘ニ於テ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲ同日附歩兵上等兵ニ昇進、功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜ハル。

原籍地 新潟縣中蒲原郡烏屋野村笹口二六
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 石 黒 清 市
 功七級
 大正五年八月二十三日生
 法 名 揚光院忠烈日清居士

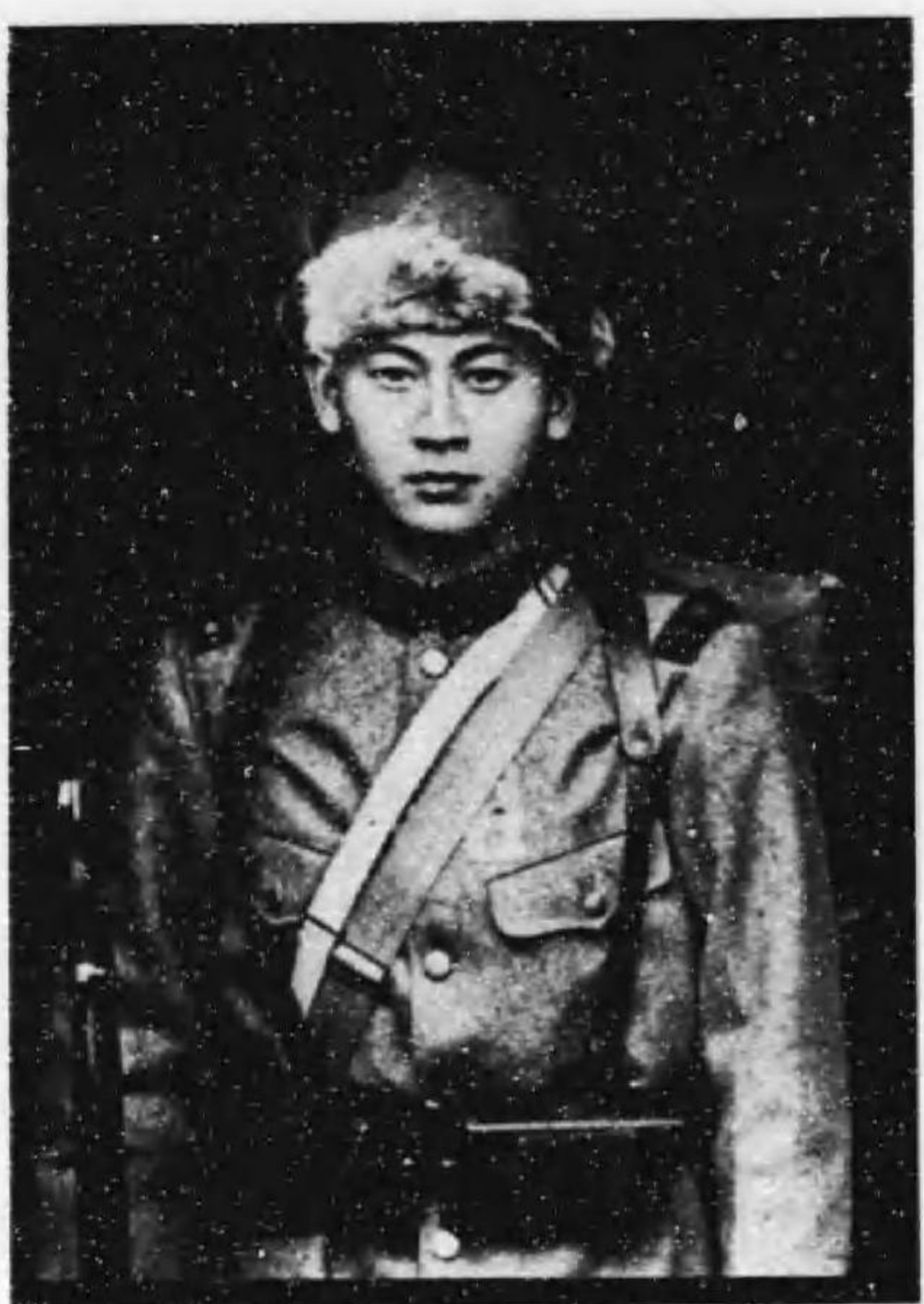


戰歿場所 中華民國江西省武寧縣羅盤山三坪高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 石 黒 清 作

略 歴

大正五年八月二十三日新潟縣中蒲原郡烏屋野村ニ生レ、昭和四年三月烏屋野村大字笹口尋常小學校卒業、翌四月ヨリ家業ノ精白米業ニ従事ス、昭和十一年徴兵検査ニ合格、同〇〇年三月一日應召、駐支部隊要員トシ同月六日屯營出發渡支シ、支那駐屯宮崎部隊ニ編入サレ北京郊外萬壽山麓ニテ實戰的訓練ヲ受ケ、同年五月徐州大會戰ニ參加、同年七月慰フ暇モナク再び木間兵團ノ全力ヲ以テ漢口作戰ニ參加ノ爲メ北支出發、海路南京ヲ經テ同年九月五日九江ニ上陸、瑞昌、箬溪間ノ山岳地帯各戰鬪ニ參加、休ム違ナク食スルニ辛ヲ糧トシ晝夜不眠不休行進、敵彈下夜ヲ徹スル事數十回ニ渡ル、偶々同年十月二日箬溪道三坪高地南側ニ蟄集スル敵擊破ノ任務ヲ受ケ三坪高地ヲ占領シ攻撃ノ準備中、敵ハ我ヲ寡兵ト侮リ多數ヲ恃ミ三坪高地ヲ奪回セント迫撃砲援護ノ下ニ數十回逆襲シ來リ、手榴彈ノ白兵戰實ニ二時間餘ニ渡ル奮戰中、不幸敵小銃彈ニテ頭部貫通銃創ヲ受ケ壯烈ナル戰死ヲ遂ケ。

原籍地 新潟縣南魚沼郡敷神村一村尾三二一三
 所屬部隊 湯田部隊多田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 井 上 哲 雄
 功七級
 大正六年七月八日生
 法 名 羅山院顯正哲英居士



戰歿場所 江西省武寧縣三坪高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月三日
 遺族住所 新潟縣南魚沼郡大卷村大字五日町七
 氏 名 母 井 上 キ ヌ

略 歴

大正六年七月八日新潟縣南魚沼郡敷神村ニ誕生、昭和六年三月二十六日大卷村小學校卒業、昭和七年三月二十七日南魚沼郡浦佐ミノ屋店員トシテ忠實に勤務、同十二年十月一日横須賀海軍工廠ニ入所、昭和〇〇年三月一日召集、同年十月三日中華民國江西省武寧縣三坪高地東側附近ノ戰鬪ニ於テ頭部ニ砲彈ヲ受ケ戰死、同日上等兵ニ進級功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 新潟縣東頸城郡牧村大字岩神
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 飯田 義郎
 法名 忠革院釋義流
 大正六年三月五日生



戰歿場所 中華民國所屬師團第一野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月五日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 飯田 久治

略 歴

大正六年三月五日新潟縣東頸城郡牧村ニ生レ、昭和七年三月牧村立實業公民學校第三學年卒業、翌四月ヨリ農業ノ傍ラ板屋根職ニ従事ス、性温順寡黙ニシテ飾氣ナク軍人ヲ志望シ居リタル處、昭和〇〇年二月召集セラレ同三月一日入營、駐支部隊要員トシテ同六月屯營出發渡支、保定附近警備中一期檢閲ヲ受ケ郷里牧村銃後會ヘ資金ノ一部トシテ金一封ヲ送金シ、七月下旬北支出發海路南京、蕪湖、安慶等ヲ經テ九月初旬九江へ上陸、本間部隊本部附屬通信班、或ハ炊事班トシテ炎熱燒クガ如キ酷暑ノ下或ハ敵機空襲ノ下ニ猛烈ナル行軍ヲ續ケ、漢口攻略戰始マルヤ決死ノ覺悟ヲ抱キ瑞昌箬溪間ノ山岳戰ニ參加、奮闘中惜クモ敵彈ニテ負傷第一野戰病院ニ入院加療ノ申斐モナク、同十月五日同院ニテ漢口一番乗りノ夢モ碎ク戰傷死ス、同日附上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜ハル。

原籍地 新潟縣南蒲原郡大島村字下須頃
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 今井 清治
 法名 至證院釋良忠
 大正五年九月十九日生



戰歿場所 江西省武寧縣合掌街第三野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月十一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 今井 治資

略 歴

昭和六年三月小學校卒業後農業ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日應召、三月十七日北支宮崎部隊平井隊へ編入、一ヶ月後徐州戰ニ參加、德城へ一番乗り榮譽ヲ擲フ、七月上旬中支作戰參加、揚子江ヲ遡江、九月五日九江上陸以來連戰連勝、九月二十八日瑞昌縣煤山附近ノ戰ニ大捷ヲ獲得、十月三日羅盤山戰闘ニ於テ負傷、武寧縣合掌街野戰病院ニ於テ銃後ヲシツカリ頼ムト云ヒ殘シ戰傷死サル。

原籍地 新潟縣北魚沼郡敷神村大字今泉
 所屬部隊 湯田部隊三重野隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 山本 德藏
 功七級
 法名 盛徳院華中宗純居士
 大正五年十一月二十六日生



戰歿場所 中華民國湖北省陽新縣唐庄山附近
 戰歿年月日 昭和十三年十月十三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 山本 伸二

略 歴

大正五年十一月二十六日新潟縣北魚沼郡敷神村ニ生レ、村立敷神尋常高等小學校卒業、後家業ノ農事ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日應召、同月六日駐支部隊要員トシテ屯營出發北支ニ向フ、支那駐屯宮崎部隊ニ編入セラレ駐屯地附近警備ニ當ル、六月一日一等兵ニ進級、同年七月下旬武漢攻略参加ノ爲メ北支出發海路南京ヲ經テ九江附近ニ上陸、同年九月上旬九江ヨリ瑞昌、簞溪等ノ山岳戰ニ参加各所ノ敵陣地ヲ攻略シ、同年十月十三日湖北省陽新縣唐庄山附近ノ戰鬪ニ於テ壯烈ナル戰死ヲ遂ケ、同日附伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 新潟縣中頸城郡吉川村字大乗寺
 所屬部隊 湯田部隊藤原隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 關 澤 興 治
 功七級
 法名 釋 晃 治
 大正五年七月十五日生



戰歿場所 中華民國湖北省陽新縣陽新孟烟山高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月十六日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 關 澤 惣 治

略 歴

大正五年七月十五日新潟縣中頸城郡吉川村ニ生レ、昭和六年三月吉川尋常高等小學校高等科卒業、直チニ家業ノ農事ニ従事ス、昭和十二年三月吉川青年訓練所修了、昭和〇〇年三月應召、同月六日駐支長谷川部隊要員トシテ屯營出發、〇〇、〇〇、〇〇、〇〇ヲ經テ同月十七日北京到着、同日支那駐屯宮崎部隊ニ轉屬藤原隊ニ編入、保定附近警備中一期檢閲ヲ受ケ六月一日歩兵一等兵ニ進級、八月武漢攻略戰参加ノ爲メ北支出發海路南京ヲ經テ九江附近ニ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、簞溪等山岳戰ニ参加、同年十月十六日湖北省陽新縣陽新鎮東南方孟烟山高地附近ノ戰鬪ニ於テ顔面ニ盲貫銃創及左膝蓋部手榴彈破片創ヲ受ケ戰死ス、同日附伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 新潟縣中蒲原郡金津村金津五七九
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 青木 三治
 大正四年十二月十九日生
 法名 陽新軒忠三治全居士



戰歿場所 中華民國湖北省陽新縣陽新司馬令高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 青木 作治

原籍地 新潟縣中頸城郡谷濱村長濱
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 沼波 常治
 大正二年九月十七日生
 法名 釋敬信



戰歿場所 中華民國九江野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 母 沼波 ヤマト

略 歴

大正四年十二月十九日新潟縣中蒲原郡金津村ニ生レ、昭和六年三月金津尋常高等小學校卒業、昭和十三年二月迄石油抗夫ニ従事ス、〇〇年三月應召、同三月六日駐支要員トシテ屯營出發渡支ス、北京到着ノ後チ支那駐屯宮崎部隊ニ編入サレ、同年七月漢口攻略戰ニ參加ノ爲メ北支出發海路南京ヲ經テ九江ニ上陸、山岳地帶各所ニ轉戰、同年十月十七日湖北省陽新縣陽新鎮東南方司馬令高地ノ戰鬪ニ於テ戰死ス、同日附上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラレ。

略 歴

大正二年九月十七日新潟縣中頸城郡谷濱村ニ生レ、昭和九年三月高田中學校卒業、翌四月ヨリ林業ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日應召、支那駐屯宮崎部隊ニ編入サレ、保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ六月一日一等兵ニ進級、八月北支保定出發海路ヲ經テ揚子江ヲ遡江南京へ上陸、九月上旬ヨリ九江、瑞昌、善溪間ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散シ炎暑ヲ冒シ不眠不休夜襲ニ白兵戰ニ夜ヲ徹シ行軍中、病ヲ得テ戰友ノ切ナル後退勸告モ斥ケテ敵都攻略セズンバノ不屈ノ意氣ヲ以テ邁進セシモ如何セン、同九月二十二日意識不明ノ儘後送セラレ、同二十七日野戰病院ニ收容サレ療養中、翌十月二十九日漢口陥落ヲ耳ニシ莞爾トシテ戰病死ス。

原籍地 新潟縣中頸城郡有田村春日新田
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 藤 戸 慈 眼
 法 名 忠徳院釋慈眼
 大正四年八月十二日生



戰歿場所 中華民國南京野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月三十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 藤 戸 圓 理

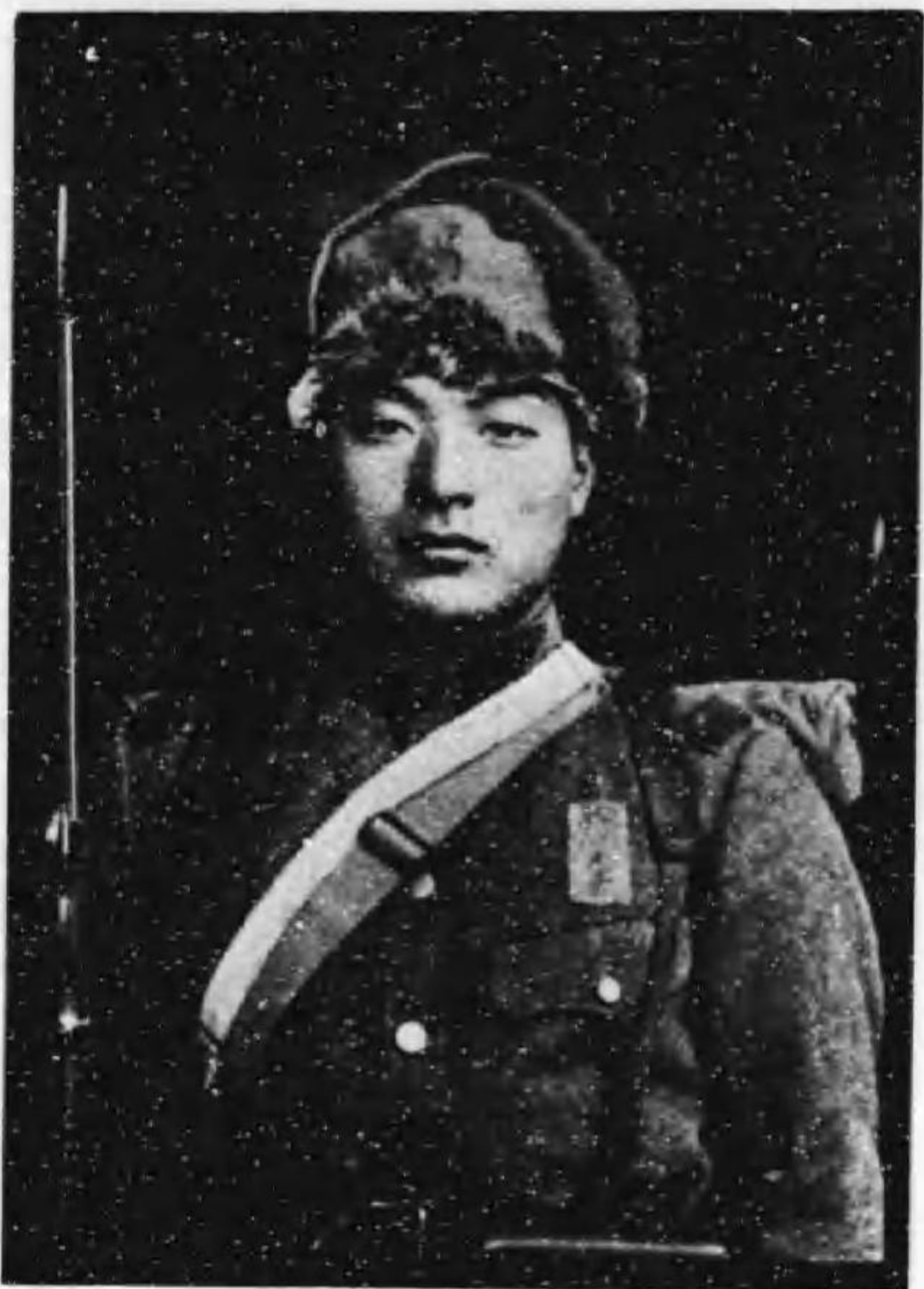
略 歴

大正四年八月十二日新潟縣中頸城郡有田村ニ生レ、昭和十一年大
 谷大學卒業、寺務ニ從事中昭和〇〇年三月應召、支那駐屯宮崎部
 隊ニ編入、分隊長トシテ北支及中支ニ奮戰中甲種幹部候補生ニ合
 格セシモ、陣中病ヲ得テ野戰病院ニ入院加療中ナリシモ遂ニ南京
 野戰病院ニテ戰病死ス、日記ノ末頁ニ左ノ語ヲ書キアリ。

佛ヲ信ジ、母ノ愛ヲ思ヒ

戰友ノ武運長久ヲ祈ル

原籍地 新潟縣刈羽郡南鯖石村山室二四〇〇
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 關 口 忠 藏
 功七級
 法 名 義嶽良忠居士
 大正六年二月二十五日生



戰歿場所 中華民國湖北省崇陽縣大沙坪第三野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月二十三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 關 口 房 吉

略 歴

大正六年二月二十五日新潟縣刈羽郡南鯖石村ニ生レ、昭和五年三
 月南鯖石高等小學校卒業、翌四月ヨリ農業ニ從事ス、昭和十二年
 三月南鯖石專修農學校研究科卒業、昭和〇〇年三月一日應召支那
 駐屯宮崎部隊ニ編入、各地ニ轉戰中同年十一月十日頃ヨリ流行性
 感冒ニ罹リ、同二十日所屬師團第三野戰病院ニ入院加療セシモ、
 惜シヤ同二十三日戰病死ス、同日附伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等
 功七級ヲ賜リタリ。

原籍地 新潟縣西蒲原郡米納津村字佐渡山
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 邊 伊 輔
 功七級
 法 名 誠忠院殉國日輔居士
 大正四年十二月八日生



戰歿場所 中華民國河北省肅寧縣張庄附近
 戰歿年月日 昭和十四年三月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 渡邊 八重郎

略 歴

大正四年十二月新潟縣西蒲原郡米納津村ニ生レ、進新農堂ヲ卒業、新潟縣農村工業員拜命（農林省講習所出）、同穀物検査員拜命、昭和〇〇年三月一日應召支那駐屯宮崎部隊ニ入隊、北支保定附近警備中一期檢閲ヲ受ケ六月一日歩兵一等兵ニ進級、七月下旬南京集結ノ爲メ保定出發、海路揚子江ヲ廻リ南京ヲ經テ九江附近上陸漢口攻略戰ニ參加中、同九月十八日敵手榴彈破片ニテ負傷、加療全快再ビ第一戰ニ出テ同年末北支ニ歸還、翌年一月ヨリ津浦京漢兩線間ノ共匪討伐、三月一日肅正工作ノ爲メ警備行軍中河北省肅寧縣張庄北端ニ達スルヤ偶々我ニ十數倍ノ敵家屋ニ頼リ重機關銃、迫撃砲等ヲ突然猛射シ來ル、伊輔ハ擲彈筒手トシテ直チニ應戰勇敢ニ敵陣ニ突入敵數名ヲ斃セシモ、惜シヤ敵彈ノ爲メ胸部及前膊部貫通銃創ヲ受ケ戰死ス、同日附歩兵上等兵ニ昇進、功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜ハリタリ。

原籍地 宮城縣玉造郡岩出山町字二ノ構九四
 所屬部隊 湯田部隊三重野隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 井 上 三 子 雄
 功七級
 法 名 須孝院忠譽義山居士
 大正六年四月二十八日生



戰歿場所 河北省清苑縣保定附近
 戰歿年月日 昭和十三年五月十四日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 井 上 朝 治

略 歴

昭和十一年三月縣立小牛田農林學校卒業、十二年四月北海道廳地方林務課ニ勤務、〇〇年二月二十日應召、北支宮崎部隊ニ入隊、北京ニテ一期檢閲ヲ受ケ保定西關市街警備、石井分隊長ノ指揮ニ依リ寡兵能ク卒先匪賊ヲ攻撃シ、彈雨ノ中ヲ敵ノ側背ニ迫リ陣地ニ肉迫シテ多數ノ敵ヲ斃シ月光ノ下ニ日章旗ヲ懸シテ志氣ヲ鼓舞シ我軍戰捷ノ素因ヲ作リシガ、敵ハ再ビ猛烈ナル砲火ヲ我ニ集中シテ逆襲シ來リ全員大ニ努メ多大ノ損害ヲ與ヘテ該敵ヲ擊退セシム。

此時井上君ハ沈着擲彈筒手トシテ致命的打撃ヲ與ヘツ、アリシガ折柄敵ノ砲彈中隊ノ眞只中ニ破裂シ、五月十四日午前〇時十四分保定白團村附近ニ於テ頭部及左肘部、左大腿部へ砲彈破片創ヲ受ケ戰死サル、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル、尙同日附ニテ北海道廳農林技手ニ任ゼラレ、昭和十五年秋季靖國神社へ合祀セラル。

原籍地 宮城縣黒川郡落合村松坂字柿本十六
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 只木文夫
 功七級
 明治四十四年七月六日生
 大雄院賢岳義光居士



戰歿場所 中支那河南省寧陵縣柳河集南方湖庄
 戰歿年月日 昭和十三年六月一日
 遺族住所 仙臺市南小泉字鍛冶屋敷五番地ノ一
 氏名 兄 只木和六

略歴

明治四十四年七月六日宮城縣黒川郡落合村松坂三十番地ニ誕生
 昭和四年三月九日宮城縣仙臺第一中學校卒業
 昭和七年三月十日第二高等學校文科卒業
 昭和十年三月三十日京都帝國大學法學部卒業
 昭和十年四月五日東北帝國大學法文學部經濟科入學
 昭和十二年四月十八日京都帝國大學大學院入學、同日特選給費學生ヲ命ゼラル
 昭和〇〇年三月一日召集ヲ命ゼラレ步兵第〇聯隊ニ入隊ス
 昭和〇〇年三月六日〇〇出發、支那駐屯軍山下部隊宮崎部隊山崎隊ニ屬ス
 昭和十三年六月一日二十時中支那河南省歸德西南方約四十軒寧陵縣柳河集南方湖庄附近ノ戰鬪ニ於テ頭部貫通、左腸部渗透性銃創ヲ受ケ戰死ス、同日陸軍歩兵上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等ニ叙シ白色桐葉章並ニ功七級金鷄勳章ヲ賜フ。

原籍地 宮城縣遠田郡南郷村木間塚砂押一
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 牛渡且
 功七級
 大正六年一月一日生
 故陸軍歩兵伍長牛渡且命



戰歿場所 中支江西省瑞昌縣丁家山
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 牛渡正

略歴

大正六年一月一日宮城縣遠田郡南郷村木間塚砂押一番地ニ生ル、
 同十二年村立南郷尋常小學校ニ入學、昭和四年東京市牛込區愛日小學校ニ轉校、同五年同校卒業、同年東京市小石川區獨逸協會中學校ニ入學、同十年同校卒業歸郷。
 昭和〇〇年三月一日召集、同六日〇〇發、十七日支那駐屯軍宮崎部隊ニ入營、保定ニテ第一期檢閲ヲ受ケ五月徐州戰ニ參加、八月北支發海路南京へ、九月九江ヨリ瑞昌ニ着、同地附近ノ戰鬪ニ參加、十九日丁家山ニテ戰死ス。

原籍地 宮城縣伊具郡丸森町宇羽出庭六〇

所屬部隊 廣部部隊江田隊
故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 八 卷 豐

法名 義豊院忠鑑慧光居士 大正四年三月二十九日生



戰歿場所 中支江西省德安縣白水街麒麟峯高地
戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日
遺族住所 同 原籍地
氏名 父 八 卷 貞 治

略 歴

大正四年三月二十九日宮城縣伊具郡丸森町ニ誕生
昭和四年三月宮城縣丸森小學校高等科卒業
同七年三月宮城縣伊具農蠶學校卒業
同十一年三月宮城縣青年學校教員養成所卒業
同年三月二十日小學校本科正教員免許
同年三月三十一日宮城縣公立青年學校教諭ニ任ゼラル
同年四月三日同縣互理郡山下村青年學校教諭奉職、同十二年二月十六日劍道初段允許サル
昭和〇〇年三月一日召集ノタメ〇〇歩兵第〇聯隊留守隊ニ應召、同六日屯營出發同十七日支那駐屯宮崎部隊江田隊ニ入隊、同月中旬ヨリ七月下旬迄西苑附近、保定附近ノ警備並ニ討伐、八月上旬南京上陸、九月上旬九江上陸以來猪頭橋附近ノ警備、茶園嶺、八卦山附近ノ戰鬥ニ參加、同月中旬ヨリ丁家山、長岡坪附近ノ戰鬥ニ參加、九月二十六日江西省德安縣白水街西側麒麟峯高地ニ於テ顔面手榴彈破片創胸部貫通銃創ヲ蒙リ戦死ヲ遂グ、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 宮城縣名取郡玉浦村寺島
所屬部隊 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 佐 藤 昇

法名 功殉院忠譽義昇道範居士



戰歿場所 中支江西省瑞昌縣麒麟峰
戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
遺族住所 同 原籍地
氏名 父 佐 藤 運 治
母 同 氏 名

略 歴

昭和十三年九月二十七日江西省麒麟峯總攻撃ニ參加、身ニ數箇所敵彈ヲ負フモ不屈奮戦中、可惜最後一彈亦腹部ヲ貫通、遂ニ壯烈ナル戦死ヲ遂グ。

原籍地 宮城縣宮城郡多賀城村浮島字高原二一
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 加藤 庄吉
 功七級
 法名 誠忠院義嶽考道居士
 大正六年五月二十一日生



戰歿場所 中支瑞昌縣麒麟峯高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 加藤 惣吉

略 歴

大正六年五月二十一日宮城縣宮城郡多賀城村浮島字高原二一ニ生ル
 昭和七年三月山王尋常高等小學校卒業
 昭和七年四月山王青年學校ニ入學農業ニ従事ス
 日支事變勃發スルヤ昭和〇〇年三月一日召集セラレ宮崎部隊ニ編入
 西苑ヨリ保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ、六月一日附ヲ以テ一等兵ニ進級シ、徐州戰ニ參加スルヤ西方地區、隴海線各地ニ頑敵ヲ蹴散シ、再ビ保定ニ歸還スルヤ直チニ漢口攻略戰ノ命下ル、海路南京ニ上陸シ、九月中旬九江ヨリ瑞昌ヘノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散ラシ炎暑ヲ冒シテ不眠不休、進ンデ瑞昌縣麒麟峯ノ強行夜襲ニ際シ力戰奮闘中不幸ニモ戰半ニシテ胸部ニ敵手榴彈ヲ受シ中隊長殿ト共ニ戰場ノ露ト消ユ、時正ニ九月二十八日、同日附ヲ以テ上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等ニ叙セラレ白色桐葉章功七級金鷄勳章ヲ賜ハル。

原籍地 宮城縣桃生郡飯野川町馬鞍後谷地一六
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 武山 榮吾
 功七級
 法名 精忠院聖義榮光居士
 大正六年十月七日生



戰歿場所 中華民國湖北省慈口鎮
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 武山 章作

略 歴

大正六年十月七日宮城縣桃生郡飯野川町ニ誕生
 昭和六年三月飯野川町尋常高等小學校卒業
 同年四月三日農業ニ従事
 同〇〇年三月一日召集ニヨリ柴田部隊ニ入隊、同月七日北支派遣軍トシテ〇〇出發戰ニ從ヒ、徐州作戰及漢口作戰ヲ主トシ北支、中支ニ轉戰、常ニ挺身奮闘連戰連勝、遂ニ同年十月二十二日湖北省慈口鎮ノ戰闘ニ際シ不幸敵彈腹部ヲ貫通シ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲ、同日上等兵ニ進級セラレ、功ニ依リ勳八等白色桐葉章並ニ功七級金鷄勳章ヲ賜ハル。

原籍地 宮城縣牡鹿郡荻濱村月浦十五
 所屬部隊 湯田部隊多田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 大山長壽
 法名 彰忠院鎮岳長義居士
 大正六年三月二十八日生



戰歿場所 通城師團所屬第四野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月十二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 見 大山長太郎

略歴

昭和六年三月荻濱尋常高等小學校卒業
 同年四月發動機關士トナル
 昭和〇〇年三月一日應召、三月六日屯營出發、同十七日支那駐屯長谷川部隊附、同二十四日支那駐屯宮崎部隊多田機關銃中隊ニ轉屬、同日ヨリ同地附近警備、自四月中旬至五月上旬保定附近ノ警備並ニ討伐、自五月中旬至七月中旬徐州大會戰ニ參加、六月一日附歩兵一等兵ヲ命ゼラル。同月下旬木間部隊兵團ニ編入、七月下旬南京集結ノ爲メ保定出發、八月下旬南京上陸、同月下旬九江集結ノ爲メ南京發九月下旬大板橋上陸、同月猪頭橋着同地ノ警備ニ、同月中旬瑞昌、馮家舖周庄間ノ戰鬥參加、同月下旬迄麒麟峯附近戰鬥、十月下旬大屋田村等溪間、龍口慈口鎮間ノ戰鬥、同月下旬ヨリ十一月月上旬陽新鎮楠林橋間戰鬥、楠林橋ヨリ通城間ノ追擊戰ニ參加、十一月十二日マラリヤ病ニ罹リ通城師團所屬第四野戰病院ニ入院、同日十時三十分戰病死セラル。

原籍地 宮城縣柴田郡富岡村支倉
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 眞壁幸五郎
 功七級
 法名 瑞昌院忠烈雄幸居士
 大正六年四月二十五日生



戰歿場所 中支那瑞昌縣三坪高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月三日
 遺族住所 宮城縣柴田郡富岡村支倉字川窪二四
 氏名 父 眞壁與七
 母 同 眞壁與七

略歴

大正六年四月二十五日宮城縣柴田郡富岡村支倉ニ誕生
 昭和七年柴田農林學校入學
 昭和十年柴田農林學校卒業、家業ニ精勵中
 支那事變勃發スルヤ昭和〇〇年二月二十八日應召、支那駐屯軍宮崎部隊ニ入營、北支派遣軍山下部隊宮崎部隊平井隊ニ入隊、大平野ヲ横斷シ或ハ峻峻山谷越エ各所ニ轉戰シツ、徐州大會戰ヲ經、更ニ漢口攻略戰ニ參加スルコト、ナリ九月五日九江上陸以來敵ノ退路遮斷ノタメ不眠不休、糧食缺乏ノ困苦ヲ物トモセズ敵彈下夜ヲ徹スルコト數十回ニ及ブ、偶々十月二日瑞昌縣三坪附近ノ高地南方等溪道ニ蟄集スル敵ヲ擊破スル任務ヲ以テ同高地ヲ占據攻撃準備中、敵ハ我レヲ寡兵ト侮リ多數ヲ恃ミ同高地ヲ奪回セント試ミ迫撃砲ノ援護下ニ逆襲、白兵戰ヲ演ズルコト實ニ二時間餘、偶々幸五郎ノ奮戰中敵ノ迫撃砲彈肺部ニ貫通シ壯烈ナル戰死ヲ遂グ、維時昭和十三年十月三日、享年二十二歳、其功ニ依リ同日勳八等白色桐葉章並功七級金鷄勳章下賜セラル。

原籍地 福島縣伊達郡茂庭村字田畑二八
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級
 山田 正義
 大正六年一月二十七日生
 法名 東徳院義烈正隆居士



戰歿場所 河北省保定正門外
 戰歿年月日 昭和十三年五月六日
 遺族住所 福島縣伊達郡茂庭村字田畑二八
 氏名 山田 ユヰノ

略歴

大正六年一月二十七日福島縣伊達郡茂庭村ニ誕生、昭和六年三月二十五日茂庭尋常高等小學校卒業、同年四月ヨリ農業ニ従事ス、昭和十一年五月上京、日本橋區オリエンタルベラント株式會社社員トシテ勤務、昭和〇〇年三月一日召集被命、〇〇歩兵第〇〇〇聯隊ニ應召、同六日〇〇出發、同十七日支那駐屯宮崎部隊ニ入隊、同年五月六日河北省保定正門外附近ノ戰鬪ニ於テ不幸敵彈ニ斃レ戦死、同日上等兵ニ進級セラル、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラ

原籍地 福島縣田村郡三丁目町字櫻内
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級
 邊 國三
 大正五年五月十五日生
 法名 誠忠院勇譽報國居士



戰歿場所 河南省寧陵縣張庄附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 福島縣郡山市赤木町二三〇
 氏名 邊 國三
 母 渡 邊 カメ

略歴

大正五年五月福島縣郡山市字稻荷町八二番地ニ於テ誕生、郡山市尋常小學校卒業、爾來學職ヲ營ミ昭和〇〇年二月二十二日召集、北支ノ戰野ニ臨ムヤ常ニ大敵ヲ控ヘ幾多ノ戰鬪ニ參加、河南省寧陵縣張庄附近ノ戰鬪ニ於テ奮戰中、頭部ニ敵ノ手榴彈破片創ヲ受ケ、名譽ノ戦死ヲ遂ゲ、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 福島縣耶麻郡熊倉村
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 磯部 浩
 功七級
 法名 浩徳院忠譽瑞昌居士
 大正五年七月二十四日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣丁家山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 福島縣若松市七日町一三八
 氏名 磯部 兼次
 父 磯部 兼次

略 歴

兼次氏ノ長男ニ生レ、昭和九年三月會津中學校卒業、十二年三月小樽高等商業學校卒業、四月ヨリ安田銀行淺草支店ニ勤務、〇〇年三月一日應召、〇〇佐藤部隊ニ入隊、直チニ北支宮崎部隊ニ轉屬、間モナク保定附近ノ警備ニ任ジ五月徐州戰ニ參加、同年八月北支出發海路南京へ上陸、九月上旬江南戰線ニ出動、九江ヨリ瑞昌附近ノ山岳戰ニ參加、九月十九日丁家山高地ノ戰闘ニ於テ戰死サル、九月一日上等兵ヲ被命、十九日附伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラレ、十五年秋季靖國神社ニ合祀サル。

原籍地 福島縣相馬郡大甕村大甕東道三五
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 伏見 忠夫
 功七級
 法名 陽新院義寛忠光居士
 大正五年十月七日生



戰歿場所 湖北省陽新鎮南方鳳凰尖高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 伏見 綱記
 父 伏見 綱記

略 歴

昭和五年三月小學校卒業、四月ヨリ大工職従事、昭和〇〇年二月召集下令、歩兵第〇〇〇聯隊第〇中隊ニ入隊、三月十七日支那駐屯部隊ニ轉屬、重機關銃手トシテ峻峻ナル山岳地帯ニ登攀シ炎暑ヲ冒シ憩フ暇ナク敵陣ヲ擊破シ勇敢ニ活躍、重任ヲ果セルガ、十月十六日夜ハ陽新鎮南方鳳凰尖高地ヲ攻撃シ十七日午前七時頃一角ヲ奪取、敗退セル敵ト尙陣地ニ頑張ル敵ニ猛射ヲ浴セ死傷者ヲ眼前ニ眺メツ、快戰ヲ續ケ、裝填手トシテ正確迅速ニ威力ヲ發揮セシガ、敵ニ狙撃セラレ顔面ヨリ胸部ニ貫通銃創ヲ受ケ彈藥ヲ持テタル儘壯烈ナル戰死ヲ遂ゲラル、享年二十有三歳、其武功ニ依リ伍長ニ任官、勳八等功七級ニ叙セラレ、郷黨モ亦忠勇義烈ヲ景仰シ村葬ノ禮ヲ以テス、武人ノ面目、家門ノ榮譽何モノカ是ニ如カン。

原籍地 福島縣岩瀨郡長沼町字金町六六
 所屬部隊 宮崎部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 佐藤 四郎
 法名 彰忠院徹心義貫居士 大正三年八月二十四日生



戰歿場所 湖北省陽新鎮野戰豫備病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月一日
 遺族住所 福島縣岩瀨郡長沼町字金町六六
 氏名 父 佐藤 優 司

略 歴

大正三年八月廿四日福島縣岩瀨郡長沼町ニ誕生、昭和七年三月縣立安積中學校卒業、同年四月慶應義塾大學豫科入學、同拾年四月本科經濟學部入學、同十二年九月迄在學中長兄三人應召出征セルニ付家業手傳。
 昭和〇〇年二月廿一日應召、三月支那駐屯宮崎部隊白貝隊ニ入隊、宮崎部隊山崎隊ニ屬シ徐州會戰ニ參加、武漢攻略戰ニ於テ九月中旬八卦山附近ノ戰鬪、同下旬以來山背附近ノ戰鬪、鶴公峯附近、日鳥家山麒麟峯附近ノ戰鬪、十月初旬ヨリ箬溪源及谷山王分小巒岩鳳凰尖北山附近ノ戰鬪等ニ參加シ、常ニ最モ勇敢ニ行動シテ完全ニ其任務ヲ遂行シ何レモ拔群ノ功績ヲ樹テ、終ニ任務ノ爲メニ力盡キ病魔ノ犯ス所トナリ、十月廿二日野戰病院ニ收容、十一月一日湖北省陽新鎮野戰豫備病院ニ於テ戰病死ス。

原籍地 福島縣田村郡高瀨村下行合朝日舞
 所屬部隊 渡部隊森垣隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 柳 沼 喜 一
 功七級 大正六年十月五日生
 法名 義鑑院殉忠喜覺清居士



戰歿場所 河北省肅寧縣灣村附近
 戰歿年月日 昭和十四年二月九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 柳 沼 熊 藏

略 歴

昭和八年四月高瀨小學校卒業、四月ヨリ農業ニ從事、十三年三月歩兵第〇〇〇聯隊ニ召集セラル、保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ、八月北支出發海路南京へ上陸、九江、瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ頑敵ヲ蹴散ラシ難攻不落ノ漢口へ突入シ赫々タル武勳ヲ樹テタルモ戰ヒ半ニシテ北支肅寧縣灣村附近ノ戰鬪ニ於テ昭和十四年二月四日負傷シ野戰病院ニテ二月九日遂ニ戰傷死セラル、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 福島縣西白河郡白河町字八百屋町六十三
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 加藤 進 一
 法 名 勇進院殉輝一鑑居士位
 大正六年十月七日生



戰歿場所 河北省河間府西方約四杆張庄附近
 戰歿年月日 昭和十四年三月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 母 加藤 タケ

略 歴

昭和十年三月十五日福島縣白河商業學校卒業、同年四月ヨリ東京丸山帽子店ニ勤務、父死亡ノ爲メ昭和十二年六月歸宅、同年八月ヨリ福島電燈株式會社ニ奉職、同〇〇年三月一日支那駐屯軍宮崎部隊ニ應召、保定附近ニ於テ第一期檢閲ヲ受ケ、七月下旬北支出發海路南京ニ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌ヲ經テ南下シ、十五日ヨリ山岳戰ニ參加シ頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散ラシ、十月五日ニハ要衝善溪ヲ占領シ、十一月中旬通城ニ向ヒ果敢ナル追擊戰ヲ斷行スル等、此間月ヲ閲スル事六旬、懸軍爲ニ百數十里懸崖ヲ攀テ深溪ヲ涉リ困苦缺乏ヲ意トセズ不眠不休、十二月北支ニ歸還再ビ北支警備ニ就ク、同年二月末河北省ノ共匪討伐ニ向ヒ、十四年三月一日河間府張庄附近ノ戰鬪ニ於テ機關銃射手トシテ二千餘ノ敵ト戰ヒ銃身燒ク迄猛烈ナル射撃ヲ續行奮闘中敵彈頭部ヲ貫通シ十一時三十分銃ヲ握リシマ、壯烈ナル名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 靜岡縣志太郡葉梨村下藪田
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 木 武 男
 法 名 大正六年四月十七日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣丁家山
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日八時三十分
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 兄 八 木 惣 一

略 歴

昭和七年三月葉梨小學校卒業、農業ニ従事、十年葉梨中部産業組合事務員勤務、〇〇年三月一日支那駐屯天津歩兵第〇聯隊ニ入營、第〇聯隊轉屬第〇中隊ニ編入、四月十日西苑發保定着、約四ヶ月警備並ニ附近討伐、七月二十八日海路南京ヲ經テ九月六日九江上陸、七日猪頭橋着、茶園嶺八卦山附近ノ戰鬪ニ參加、九月十八日丁家山高地附近ノ戰鬪ニ參加、十九日頭部ヲ敵彈ニテ貫通セラレ「銃後ヲ頼ム」ト云ヒ終ラザル間ニ息絶ヘタリ、同日上等兵ニ進級セリ。

原籍地 靜岡縣安倍郡有度村楠新田二
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 石川 清 司
 功七級
 法名 武功院忠勇量義居士
 大正六年一月二日生



戰歿場所 馮村北側高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 石川 七太郎

略 歴

石川君ハ資性温厚篤實ニシテ孝心深ク鄉村ノ模範青年ナリシ、有度小學校卒業、昭和〇〇年三月支那駐屯歩兵第〇聯隊ニ入營第〇聯隊ニ轉屬、四月西苑ヨリ定縣ニ到リ警備、更ニ保定ヨリ南京附近ノ警備、九月十五日ヨリ瑞昌馮家舖間ノ戦闘ニ參加、連日優勢ナル頭敵ト戦ヒ大捷ヲ獲得シ、二十一日附近山背高地ノ戦闘ニ折柄ノ朝霧ヲ衝キ高地上ノ敵陣地突入猛烈ナル奮戦中、頭部ニ敵彈命中スルヤ完爾トシテ壯烈ナル最後ヲ遂ゲラル、眞ニ鬼人ヲ泣カシムルモノ有リ、同日伍長ニ任官セラレ功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル、入隊以來六ヶ月餘ニテ江南ノ地ニ陣歿セシモ武勳ハ燦然トシテ永遠ニ輝カン、享年二十二歳ナリキ。

原籍地 靜岡縣濱名郡新居町新居一七〇一
 所屬部隊 吉田部隊白貝隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 片山 徳 市
 功七級
 法名 義心院徳阿忠烈居士
 大正六年五月四日生

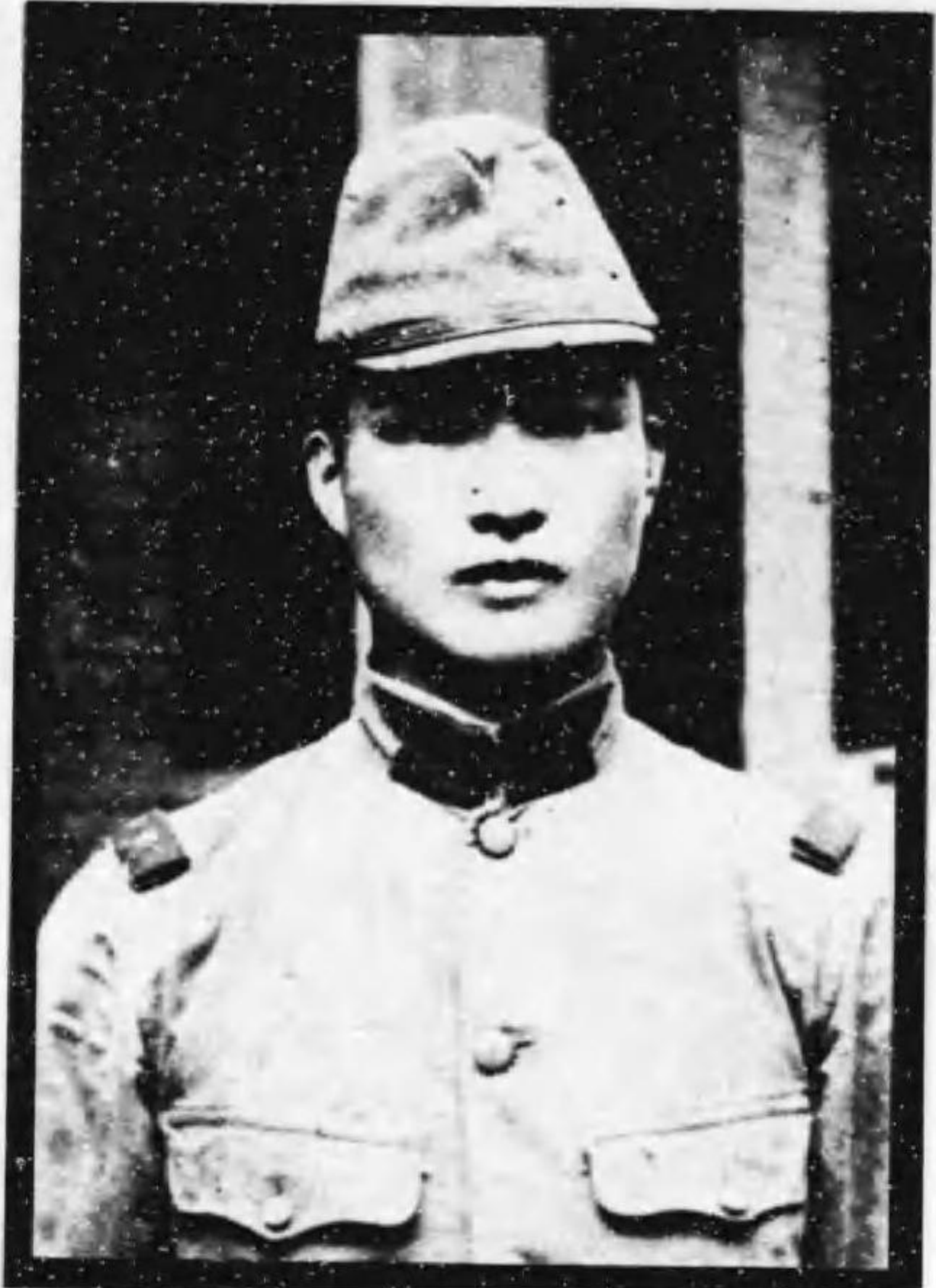


戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣楊村北側高地附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十三日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 片山 權 吉

略 歴

靜岡縣濱名郡新居町西町ニ誕生
 昭和七年十二月十五日新居尋常高等小學校高等科三年ヲ中途退學
 昭和七年十二月十六日製紙原料商ニ従事ス
 昭和〇〇年三月一日北支那駐屯軍岡崎部隊ニ入營、同日宮崎部隊ニ轉屬
 六月一日保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ同日一等兵ヲ命ゼラル、同日上等兵候補者ヲ命ゼラル
 八月北支出發海路南京へ上陸シ、九月一日上等兵ヲ命ゼラル
 九月上旬九江ヨリ瑞昌蕪湖等ノ山岳戦ニ參加、頑強ニ抵抗スル敵ヲ蹴散ラシ炎暑ヲ冒シ不眠不休、夜襲ニ白兵戦ニ連戦連勝、赫々タル武勳ヲ樹タルモ戦半ニシテ瑞昌縣楊村北側高地附近ノ激戦ニ突入、左胸部貫通銃創ヲ受ケ遂ニ戦死ス、九月二十三日附伍長ニ任官セラレ功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル、行年二十二歳。

原籍地 靜岡縣田方郡北狩野村浮橋八三七ノ一
 所屬部隊 宮崎部隊尻隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等功七級 梅原德雄
 法名 大雄院智賢日德居士
 大正六年一月八日生



戰歿場所 中華民國江西省大屋田村野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月四日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 梅原佐次平
 父 梅原佐次平
 母 梅原佐次平

略歴

大正六年一月八日靜岡縣田方郡北狩野村浮橋梅原佐次平三男トシテ生ル。
 昭和六年三月北狩野村立尋常高等小學校卒業。
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍宮崎部隊崎崎隊ニ入隊、四月十一日保定到着同地附近ノ警備並討伐戰ニ參加、六月一日歩兵一等兵ヲ命ゼラル。
 八月上旬南京大板橋上陸、九月中旬猪頭橋附近ノ警備ニ、鄭家山沙頭嶺麒麟峯附近ノ戰闘ニ參加中、同三十日江西省大屋田村崑崙山附近ニ於テ優勢ナル敵ノ重機關銃隊現出ヲ發見、直ニ小隊長ニ報告シ陣地ニ歸ラントシテ敵彈ヲ受ケ再ビ起ツ能ハズ、十月四日野戰病院ニ於テ名譽ノ戰傷死ヲ遂ゲ、享年二十二歳、功ニ依リ歩兵上等兵ニ進級、勳八等功七級ニ叙セラレ白色桐葉章並金鷄勳章ヲ授ケラル。

原籍地 靜岡縣濱名郡可美村明神野七三六
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等功七級 仲秋照雄
 法名 仲秋照雄主奥都城
 大正六年一月五日生



戰歿場所 中華民國江西省武寧縣蒼溪
 戰歿年月日 昭和十三年十月七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 仲秋幾太郎
 父 仲秋幾太郎

略歴

大正六年一月五日靜岡縣濱名郡可美村明神野七百三十六番地幾太郎長男トシテ生レ、昭和六年三月二十八日濱名郡可美尋常高等小學校卒業スルヤ同年四月一日濱松市佐藤司鑄物工場ニ入りテ格闘精勵シ、昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍宮崎部隊山口隊ニ入營シテ戰時下ノ軍務ニ遵ヒ、六月一日保定附近ニテ一等兵ヲ命ゼラル北支ノ戰闘ニ參加シ、九月中支へ派遣セラレ九江コリ瑞昌蒼溪等ノ山岳戰及ビ武漢攻略戰ニ參加シ蔣介石直系ノ中央軍等ヲ相手ニ奮闘シ武勳ヲ擧ゲ、十月五日江西省武寧縣蒼溪ヲ占領、意氣揚々第一線高地ヲ守備中、十月七日拂曉我ニ數倍セル敵ノ逆襲ヲ蒙リ輕機關銃射手トシテ勇奮激闘シタリシガ敵ノ機關銃彈ヲ受ケ心臟部貫通銃創ノ爲メ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲ、同日陸軍歩兵上等兵ヲ命ゼラレ勳八等功七級ニ叙セララル。

原籍地 靜岡縣庵原郡庵原村伊佐布
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 山田 富次郎
 大正六年三月三十一日生
 法名 堅持院高節日富居士



戰歿場所 第三野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月五日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 山田 留次郎

略 歴

大正六年三月三十一日原籍地ニ於テ誕生。
 大正十二年四月一日庵原尋常高等小學校ニ入學、昭和二年三月同校卒業、以來農業ニ従事ス。
 昭和〇〇年三月本間部隊宮崎部隊ニ入營、爾來軍務ニ精勵シ學術業ニ秀テ卒先軍規ヲ振作シテ、同年十月下旬ヨリ中支通山縣通山附近ノ戰闘ニ參加、不幸病魔ニ冒サレ戰闘半ニシテ十一月五日第三野戰病院ニ於テ戰病死ス。

原籍地 靜岡縣富士郡芝富村西山一七五一
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 清 重 作
 功七級
 大正六年十二月一日生
 法名 義感日重信士



戰歿場所 中華民國湖北省虎形山附近
 戰歿年月日 昭和十三年十一月九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 清 兵 作

略 歴

大正六年十二月一日靜岡縣富士郡芝富村ニ誕生、昭和八年三月芝富村尋常高等小學校卒業、昭和〇〇年三月四日支那駐屯宮崎部隊市川隊入隊、保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ、八月北支出發海路南京上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、善溪等ノ山岳戰ニ參加、遂ニ粵漢線遮斷後補林橋ヨリ通城間ノ追撃戰ニ入り、其間頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散ラシ炎暑ヲ冒シテ不眠不休、夜襲ニ白兵戰ニ連戰連勝、十一月九日虎形山附近ノ戰闘ニ於テ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲ、同日伍長ニ任官セラレ功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 愛知縣北設樂郡豐根村三澤四九
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 村松 唯一
 法名 昭公院武烈唯心居士
 大正五年六月二十日生



戰歿場所 中華民國寧陵縣候周附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 村松 かめのの

原籍地 愛知縣南設樂郡作手村大字高里字向畑十三
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 夏目 英人
 法名 恭徳院英岳俊峰居士
 大正六年三月十六日生



戰歿場所 中華民國江西省鵠公嶺高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月廿二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 夏目 清四郎
 母 同 清 四郎
 母 同 清 四郎

略 歴

大正五年六月二十日愛知縣北設樂郡豐根村ニ生レ、昭和五年三月三澤小學校卒業、翌四月ヨリ農業ニ従事ス、昭和〇〇年三月應召、支那駐屯宮崎部隊山崎隊ニ入隊、一ヶ月有半猛訓練ヲ受ケ五月初旬以來各地ニ奮戦、徐州大會戰ニ参加中ノ所六月二日所屬最前線中隊ニ獨力敵陣地ノ要點攻撃ヲ命ゼラレ、十數倍ノ敵ニ對シ惡戰苦闘遂ニ此レヲ擊破シ重要ナル任務ヲ果シタル戰況下ニ於テ終始勇敢ニ行動シ、敵ノ第一線ニ突撃シテ之ヲ奪取シ更ニ敵後方陣地ニ突入ノ瞬間、不幸敵彈ヲ受ケ身ノ自由ヲ失ヒタルモ少シモ屈セズ尙突進ヲ續ケ、第二陣地ヲ完全ニ占領ノ任務ヲ終ルヤ精魂盡キテ再び起ツ能ハズ、安堵ノ色ヲ浮ベテ從容トシテ 天皇陛下萬歲ヲ連呼シテ名譽ノ戰死ヲ遂ゲタリ。

略 歴

大正六年三月十六日愛知縣南設樂郡作手村ニ誕生、同十二年四月二日尋常小學校ニ入學、昭和四年三月二十二日小學校卒業、同年四月五日愛知縣作手農林學校入學、同年七月二十三日同校卒業、同年四月鍛冶業ニ従事。
 昭和〇〇年三月三日支那駐屯宮崎部隊山崎隊入營、同年四月ヨリ第一線ニ出動、保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ陸路ヲ經テ各地ニ轉戦、五月中旬徐州總攻撃ニハ中隊ヨリ特別選抜ニテ参加、七月河南省ノ一角ニテ休戦ノ折六月一日附ヲ以テ一等兵ニ任ゼラル、七月下旬武漢攻略戰ニ参加、九月上旬九江ヨリ瑞昌、周家等ノ戰鬪ニ参加、同月二十二日朝來江西省鵠公嶺高地一帶ニ陣地ヲ占領セル敵ノ攻撃ニ任ジ、敵彈雨注前進極メテ困難ナル狀況下ニ在リテ常ニ卒先最モ勇敢ニ突撃ヲ終始分隊ノ最先頭ニ在リ勇敢突進シテ敵最後ノ陣地タル鵠公嶺高地西端ノ敵ニ對シ突撃ヲ敢行中、敵手榴彈ノタメ右腕及左肘關節ニ破片創ヲ受ケ精魂盡キ再起不能戰死セラル。

原籍地 名古屋市東區新出來町四丁目九三
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵伍長 功七級 山田清造
 法名 釋靜念



戰歿場所 中華民國煤山附近
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 妹 山田ゆみ

原籍地 愛知縣東春日井郡品野町下品野茶畑
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 功七級 江茂
 法名 義山道忠居士
 大正六年一月十七日生



戰歿場所 第三野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 母 長江よし

略歴

昭和〇〇年三月一日應召、支那駐屯宮崎部隊へ現地入營、一ヶ月餘猛訓練ヲ受ケ五月時機到來シ、清造モ徐州ノ大會戰ニ參加スル事ヲ得、勇躍出發隨海線ヲ西進シ各所ニ轉戰、急迫ニ急追河南ノ大平原ヲ横斷シ、殊ニ五月二十九日歸德縣城ノ陥落ヲ觀ルニ及ベリ、七月再ビ漢口攻略戰ニ參加スル事トナリ、清造モ第二小隊第三分隊小銃手トシテ參加シ、峻嶮ノ山谷ヲ越ヘ憩フニ邊ナク糧食ツキ芋ヲ糧トシ晝夜不眠不休、瑞昌武寧街道ノ敵彈雨下ニ夜ヲ徹スル事數十回、正面ノ敵ハ我ニ數倍ノ兵力ヲ以テ逆襲シ來ル事數回ニ及ベリ、清造ノ屬スル第二小隊ハ煤山南側陵線上ヲ占領シ萬歲ヲ三唱シ其ノ意氣天ヲ衝ケリ、時ヲ移サズ追撃シ白兵戰ヲ演ズル事約一時間ニ及ベリ、清造ノ分隊ハ小隊ノ左翼ニアリテ奮戰中、不幸ニシテ敵ノ小銃一彈頭部ヲ貫通シ銃創ヲ受ケ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲタリ。

略歴

大正六年一月十七日愛知縣東春日井郡品野町下品野ニ生レ、昭和四年三月小學校卒業、同年四月ヨリ左官業ニ從事中、昭和〇〇年三月一日應召支那駐屯宮崎部隊へ入隊、同年六月歩兵一等兵ニ進級、同八月北支出發海路ヲ經テ揚子江ヲ遡リ南京ニ上陸、九江、瑞昌へ進發、九月二十六日瑞昌縣麒麟峯附近ノ戰鬪ニテ右臂部隊莖部ニ貫通銃創ヲ受ケ後送セラレ、所屬師團第〇野戰病院ニテ治療中九月二十九日遂ニ戰傷死ス、同日附上等兵ニ進級、功ニヨリ勳八等功七級ヲ賜ハル。

原籍地 愛知縣知多郡鬼崎村榎戸新町南乙五五
 所屬部隊 宮崎部隊檜崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等齋 田 綱 雄
 法 名 純忠院義貫實現居士
 大正六年二月十八日生



戰歿場所 中華民國江西省九江野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 齋 田 龜 次 郎

原籍地 岐阜縣本巢郡生津村
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 吉 田 正 夫
 法 名 恭忠院釋正壽信士
 大正六年一月一日生



戰歿場所 中華民國江西省鶴公嶺
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十二日
 遺族住所 名古屋市中區大井町二
 氏 名 伯 母 棚 橋 や す

略 歴

大正六年二月十八日愛知縣知多郡鬼崎村榎戸ニ父龜次郎ノ二男トシテ生レ、昭和六年三月知多郡鬼南尋常高等小學校高等科ヲ卒業、同年四月ヨリ同村指榮號都築商店方ヘ指物職ノ徒弟トシ入店、職業ニ從事中同〇〇年三月應召支那駐屯宮崎部隊ニ入營、保定附近ニテ第一期ノ檢閲ヲ受ケ、八月漢口攻略戰ニ參加ノ爲メ北支出發海路ヲ經テ揚子江ヲ遡江南京ヘ上陸シ、九月上旬九江ヨリ瑞昌著溪間ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散シ炎暑ヲ冒シ不眠不休、夜襲ニ白兵戰ニ連戰連勝目的地ニ進出シ、遂ニ漢口ヲ陥落セシメ赫々タル武勳ヲ樹テタルモ、戰爭中病魔ノ冒ス所トナリ後送セラレ〇〇野戰病院ニテ療養中、十月十八日同院ニテ戰病死ス、同日附上等兵ニ進級、功ニヨリ勳八等ニ叙セラル。

略 歴

大正六年一月一日岐阜縣本巢郡生津村ニテ出生、幼少ニシテ父母ニ死別、伯父棚橋家ニ養育セラレ、昭和六年三月名古屋第三高等小學校卒業、同八年三月名古屋愛知簿記學校卒業、翌四月ヨリ伯父ノ許ニテ商業ニ從事、同〇〇年三月支那駐屯宮崎部隊ニ入營シ、同年七月以來武漢攻略戰ニテ瑞昌、蕩溪間各地ノ山岳戰ニ參加、同年九月二十二日朝來中隊ハ江西省鶴公嶺敵陣地ノ攻撃ヲ敢行スルニ方リ、左第一前線第二小隊ノ第三分隊ニ屬シ、急敵ノ如キ敵彈雨下ニアリテ常ニ勇敢ニ行動シテ一般ノ士氣ヲ鼓舞ス、殊ニ敵ノ第一、二線陣地突破後第三線陣地ニ對スル突撃ニ際シテハ、頑強ナル敵ノ抵抗ヲ受ケ死傷續出スル狀況下ニアリテ味方ノ最先頭ヲ最モ勇敢ニ敵陣内ニ突入シテ分隊突撃ノ端緒ヲ拓キタルモ、此ノ時敵彈ハ無念腹部ヲ貫通シ再ビ起ツ能ハズ、天皇陛下萬歲ヲ唱ヘ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲ、同日附歩兵上等兵ニ進級、後日畏キ御沙汰ヲ拜シ勳八等ニ叙セラレ功七級ヲ賜リタリ。

原籍地 岐阜縣武儀郡中々保村一七九三
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 小 林 功 一
 功七級
 法 名 釋 功 勇
 大正九年七月二十七日生



戰歿場所 湖北省辛潭舖第四野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月三十一日
 遺族住所 岐阜市雲井町一丁目六
 氏 名 母 小 林 か ち

原籍地 岐阜縣加茂郡東白川村
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 熊 崎 市 三
 功七級
 法 名 故陸軍歩兵伍長熊崎市三靈位
 大正八年十一月一日生



戰歿場所 中支陽新豫備病院第十四班
 戰歿年月日 昭和十三年十一月一日
 遺族住所 岐阜縣加茂郡東白川村
 氏 名 父 熊 崎 唯 吉

略 歴

大正九年七月二十七日東京市下谷區仲御徒町三丁目二十五番地ニ誕生、昭和九年三月岐阜市梅林尋常高等小學校卒業、同年四月同市花澤町一丁目ニ於テ製麵業ニ従事。
 昭和〇〇年三月支那駐屯宮崎部隊吉田部隊山崎隊ニ入隊、同年六月一日一等兵ニ、同年九月一日上等兵ニ、同年十月三十一日伍長ニ任ゼラル、戰歴ノ一端ハ徐州會戰ニ於テ赫々タル偉勳ヲ奏シ且武漢攻略戰ニ參加シ、九月中旬八卦山附近、鶴公峯附近、烏河峯附近ノ戰闘參加、同月下旬麒麟峯附近戰闘、十月初旬易家山善溪源及石尖山、中旬ヨリ小虎岩附近、鳳凰尖附近、北山附近ノ戰闘ニ、同下旬慈口鎮附近ノ戰闘等ニ參加、常ニ勇敢ナル行動ニヨク完全ニ其任務ヲ遂行何レモ拔群ノ功績ヲ樹テ終ニ任務ノタメ力盡キ病魔ノ冒ス所トナリ、十月三十一日遂ニ野戰病院ニテ戰病死ス。(以上中隊長殿ヨリノ書翰中抜萃)

略 歴

昭和十二年三月岐阜縣立加茂農林學校卒業、引續キ研究生トシテ在學、同〇〇年三月一日〇〇志願、支那駐屯宮崎部隊山口隊ニ編入、六月中旬下士官候補者トシテ集合教育ノタメ保定派遣、七月下旬下士官候補者集合教育解散歸隊、編成完結、武漢攻略戰ノタメ八月上旬南京上陸、同月下旬同地出發、九月上旬九江上陸猪頭橋着、同地附近ノ警備、同月中旬瑞昌馮家舖間ノ戰闘ニ參加、同月馮家舖周庄間、麒麟峯附近ノ戰闘ニ參加、十月上旬山岳地帶僻村大屋田村善溪間ノ戰闘ニ參加中、善溪龍港慈口鎮戰闘ニ參加、同十九日湖北省陽新縣北山高地占領守備中敵ノ大逆襲ヲ受ケ輕機關銃射手トシテ勇敢沈着應戰中、左側胸部穿透性貫銃創、左上膊部擦過銃創並ニ左側臍胞ヲ負ヒ陽新第〇野戰病院ニ入院、十月二十九日第十四班一甲部病院へ轉送、十一月一日同豫備病院ニ於テ戰傷死、同日附ヲ以テ歩兵伍長ニ任官。

原籍地 京都府綴喜郡田邊町大字田邊小字杏脱五六
合地
所屬部隊 廣部部隊高木隊
故陸軍歩兵伍長 勳八等 北 纓 武 重
功七級
法名 殉國院義譽武烈顯彰居士
大正五年一月五日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣麒麟峰高地附近
戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日十三時
遺族住所 同 原籍地
氏名 妹 北 纓 絹 子

略 歴

昭和八年三月、灘中學ヲ卒業、同年十二月天理外語支那語科ヲ中途退學、昭和九年一月ヨリ商業ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日召集、同年三月八日出征、支那駐屯軍宮崎部隊ニ入隊、北京西苑附近ノ敗殘兵討伐ニ參加、次テ北京支那派遣軍山下部隊宮崎部隊高木隊ニ屬シ保定、徐州各戰闘ニ參加、同年七月中旬ヨリ南京、九江、瑞昌ノ各戰線ニ於テ力戰奮闘、赫々タル武勳ヲ收メタルモ瑞昌ヨリ麒麟峰高地附近ノ山岳戰ニ於テ奮闘中頭部貫通銃創ヲ受ケ昭和十三年九月二十七日十三時壯烈ナル名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル、同日上等兵ニ進級。同十四年一月十七日歩兵伍長ニ任官セラル。

原籍地 奈良縣添上郡沿道村發志院二三六
所屬部隊 湯山部隊平井隊
故陸軍歩兵上等兵 勳八等 宮 崎 恭 一
功七級
法名 天理教會員
大正三年十一月十四日生



戰歿場所 河北省肅寧縣王村附近
戰歿年月日 昭和十四年二月四日
遺族住所 奈良縣生駒郡山町御町二ノ一七ノ二
氏名 母 宮 崎 キ ヌ

略 歴

昭和四年三月沿道小學校卒業、昭和〇〇年九月一日召集、歩兵第〇〇〇聯隊第〇中隊ニ編入、九月二十二日滿洲派遣歩兵第〇〇〇部隊第〇中隊ニ編入、昭和十三年十一月十五日〇〇港出航〇〇上陸、支那駐屯歩兵第〇聯隊第〇中隊ニ編入、十二月二日ヨリ十日迄通城附近警備、十一日滄縣着、昭和十四年二月四日河北省肅寧縣王村附近ノ戰闘ニ於テ右肩胛骨並ニ右臀部ニ貫銃創ヲ受ケ戰死ス、森垣中隊長殿ヨリ戰況ニ付武勳ノ通報ヲ得タリ。

原籍地 大阪市西淀川區大和田町七一六
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 井 上 定 信
 功七級
 大正六年一月十六日生



戰歿場所 中華民國河南省寧陵縣張庄西北方滿集
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 大阪市西淀川區大和田町四〇七
 氏名 井上ハル

略 歴

大正六年一月十六日大阪市西淀川區大和田町ニ生レ、昭和〇〇年三月一日召集ヲ受ケ歩兵〇聯隊へ應召、同八日支那駐屯長谷川部隊ノ要員トシテ屯營出發、九日〇〇出帆十三日〇〇上陸、山海關ヲ經テ同十七日支那駐屯長谷川部隊ニ到着、同日宮崎部隊ニ轉屬、同二十四日山崎隊ニ編入、自昭和〇〇年四月至同五月十日定縣附近整備、同五月十一日警備地出發徐州大會戰ニ參加、歸德縣城ノ攻略戰ニ參加、進ンテ河南省寧陵縣張庄西北方滿集附近ノ戰鬥ニ於テ壯烈ナル戰死ヲ遂グ、時將ニ昭和十三年六月二日、同日附上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラレ、昭和十五年十月靖國神社ニ合祀セララル。

略 歴

原籍地 兵庫縣西宮市染殿町一〇
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 西 田 弘
 功七級
 大正五年二月二十三日生



戰歿場所 中華民國河南省寧陵縣柳河驛附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月二日
 遺族住所 兵庫縣西宮市西福町二七五
 氏名 西田 常 吉

大正五年二月二十三日西宮市ニ生レ、昭和九年三月關西甲種商業學校卒業、同十二年十一月日本綿帛物輸出組合ニ輸出検査員トシテ勤務中、翌〇〇年三月一日應召、同日歩兵二等兵支那駐屯長谷川部隊要員トシテ〇〇出帆、〇〇、〇〇ヲ經テ同月十七日北京着入隊、同日支那駐屯宮崎部隊ニ轉屬山崎隊ニ編入、六月一日歩兵一等兵ニ進級、同月二日中華民國河南省寧陵縣柳河驛附近ノ戰鬥ニ於テ戰死、同日附歩兵上等兵ニ進級、戰功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セララル。

遺留品ヲ隊ヨリ送り下サレタ中ニ遺書ト遺髪ガアリマシム、其遺書ノ一節、男ト生レ育テラレ今帝國軍人トシテ晴レノ戰線ニ立ツ機會ヲ得タル幸運ヲ感謝シテ居リマス、今更何モ言ヒ殘ス事ハ有リマセヌ、只現在マデ何一ツ御満足シテ頂ク様ナ者養モセズ、其事ノミガ残念デス、弘最後ノ孝トシテ御國ノ爲メニ一死報國ノ念堅ク決シ戰ニ行キマス、一生懸命戰ヒマス、弘戰死ノ報ヲ御受取りノ節ハ名譽アル父母ノ子トシテ立派ニ最後ヲ飾ツタ御安心下サイ。(後略)

原籍地 兵庫縣養父郡八鹿町石原七六三
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵曹長 勳七等 秋山三郎
 功六級
 法名 光照院忠烈英俊居士
 大正四年三月生



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣鵝公山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 秋山實郎 治

略 歴

大正四年三月兵庫縣養父郡八鹿町ニ生レ、八鹿町小佐小學校高等科一年終了、十四歳ニシテ大阪ニ出テ興國商業學校二年終了後和洋家具職ニ従事、昭和〇〇年一月十日〇〇歩兵第〇〇聯隊へ入營、同年五月九日支那駐屯軍トシテ派遣天津ニ駐屯、昭和〇〇年七月七日支那事變起ルヤ牟田口部隊筒井部隊山崎隊ニ加ハリ事變最初ヨリ各地ニ轉戦、昭和〇〇年二月二十八日滿期除隊、同日召集、宮崎部隊ニ加ハリ徐州大會戰ニ參加後保定附近警備、同年七月保定出發天津ヨリ海路揚子江ヲ過リ九江ニ上陸漢口攻略戰ニ參加、江南戰線江西省瑞昌縣鵝公山高地ノ戰闘ニ於テ身ニ一彈ヲ受ケシモ、尙モ屈セズ敵陣ニ突入ノ際敵ノ投ズル手榴彈破片ヲ受ケ戰死ス、時將ニ昭和十三年九月二十二日十三時五十分、享年二十四歳。

尙長兄五一軍曹、弟八郎上等兵ト共ニ兄弟三人今事變ニテ戰死ス。同家ハ格段光輝アル譽ノ一家ナリ、謹テ敬申ノ意ヲ表ス。

(宮崎部隊彰忠會世話人代表)

原籍地 兵庫縣武庫郡本庄村深江七五〇
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 北嶋隆男
 功七級
 法名 專彰院釋大智
 大正六年六月二十七日生



戰歿場所 第四兵站病院
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十五日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 北嶋俊一

略 歴

大正六年六月二十七日兵庫縣武庫郡住吉村ニ生レ、昭和七年三月武庫郡精道小學校高等科ヲ卒業、後チ家業ニ従事ス、昭和十二年武庫郡本山村日本石綿株式會社ニ勤務中昭和〇〇年三月一日應召、支那駐屯部隊ニ編入セラレ北京郊外ニテ匪賊討伐及ビ鐵道警備等實地訓練ヲ受ケ六月歩兵一等兵ニ昇進シ、同月徐州攻略戰ニ參加シ平山枝隊湯田部隊高木隊ニテ活躍シ赫々タル武勳ヲ樹テ、七月本隊ニ歸リ同月下旬漢口攻略戰ニ參加ノ爲メ北支出發、海路ヲ經テ揚子江ヲ過リ八月下旬南京ニ上陸、同月下旬九江ニ進出シ九月中旬瑞昌縣丁家山ノ戰闘ニ頑強ニ抵抗スル敵ヲ物トモセズ不眠不休激戰中、無念ヤ九月十九日敵彈顛頂部穿透性貫貫銃創及左側胸部貫通銃創ヲ受ケ、九月二十二日ヨリ第四兵站病院ニ於テ加療中途ニ同二十五日名譽ノ戰傷死ス、行年二十二歳、同日附歩兵上等兵ニ進級、功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜リタリ。

原籍地 神戸市兵庫區大開通九丁目八ノ一
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 竹 中 力
 法 名 力征院武岳忠尊居士 大正五年五月二十八日生



戰歿場所 中華民國江西省德安縣麒麟峰
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日
 遺族住所 神戸市兵庫區大開通九丁目六番屋敷
 氏 名 父 竹 中 隆 繁

略 歴

大正五年五月二十八日神戸市ニ生レ、昭和六年三月神戸市立兵庫高等小學校卒業、同年九月神戸市神榮生絲株式會社ニ勤務、昭和十年三月神戸市立第二神港商業學校卒業、同年九月大阪鐵道局經理部神戸用品庫ニ轉勤、昭和十二年四月大阪市關西大學專門部ニ入學中、翌〇〇年三月一日應召支那駐屯宮崎部隊ニ入營、西苑、保定附近ノ警備並ニ討伐ニ從事、六月一日一等兵ニ進級、七月下旬北支出發海路ヲ經テ揚子江遡江南京ニ上陸、九月一日上等兵ニ進級、九月上旬九江附近ニ進ミ待機、中旬瑞昌ヨリ進撃、江南戰線大縱深地中央突破戰ニ參加、抵抗スル敵ヲ蹴散シ山岳陣地ヲ逐次奪取、江西省德安縣白水街西側麒麟峯ノ大夜襲白兵戰ニテ敵手榴彈破片創ニテ戰死ス、同日附步兵伍長ニ任官、戰功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 神戸市林田區駒榮町四丁目
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 高 松 幸 男
 法 名 妙法盡誠院玄武日威居士 大正五年一月三十日生



戰歿場所 中華民國江西省德安縣麒麟峰
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 神戸市林田區二葉町二丁目一四
 氏 名 父 高 松 五 郎 吉

略 歴

大正五年一月三十日神戸市ニ生レ、昭和六年三月神戸市兵庫高等小學校卒業、昭和十年三菱造船所勤務中昭和〇〇年三月一日應召支那駐屯宮崎部隊ヘ入隊、保定附近ニテ第一期檢閲ヲ受ケ附近ノ警備討伐ニ參加、五月徐州大會戰ニ參加、八月海路ヲ經テ揚子江遡江南京ニ上陸、九月亦遡江シテ九江附近ニ上陸警備ニ任ジ、同月上旬九江附近出發、瑞昌、馮家鋪等ニ到ル間ノ山岳戰ニ參加シ地利ヲ得テ強固ノ陣地ヲ作り頑強ニ抵抗スル敵ノ熾烈ナル彈雨ヲ物トモセズ突撃ニ次グ突撃ヲ以テ敵陣地ヲ奪取、重疊タル山岳ヲ乘リ越ヘ周庄ニ到ル、九月二十五日休ム遠モナク屹然ト聳ユル高地麒麟峯攻撃ニ參加、重キ裝具ヲ身ニ纏ヒ敵ノ迫撃砲、機關銃彈ノ飛ビ來ル中ヲ竹、葛、荊等密生スル峻嶮ヲ藤笠ヲ便リニ岩ニ獅嘯付キ、見上ル計リノ絶壁ヲ必死ニ登攀ヲ續ケ不眠不休ニテ敵陣間近ク接近シ今ヤ突撃ノ命令ヲ待ツ時、敵ノ手榴彈ヲ胸部ニ受ケ九月二十七日武運拙ク壯烈ナル戰死ヲ遂ケ。

原籍地 神戸市神戸區下山手通六丁目六五ノ九
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 井上博彦
 法名 武徳院聖光博道居士 大正五年十二月九日生

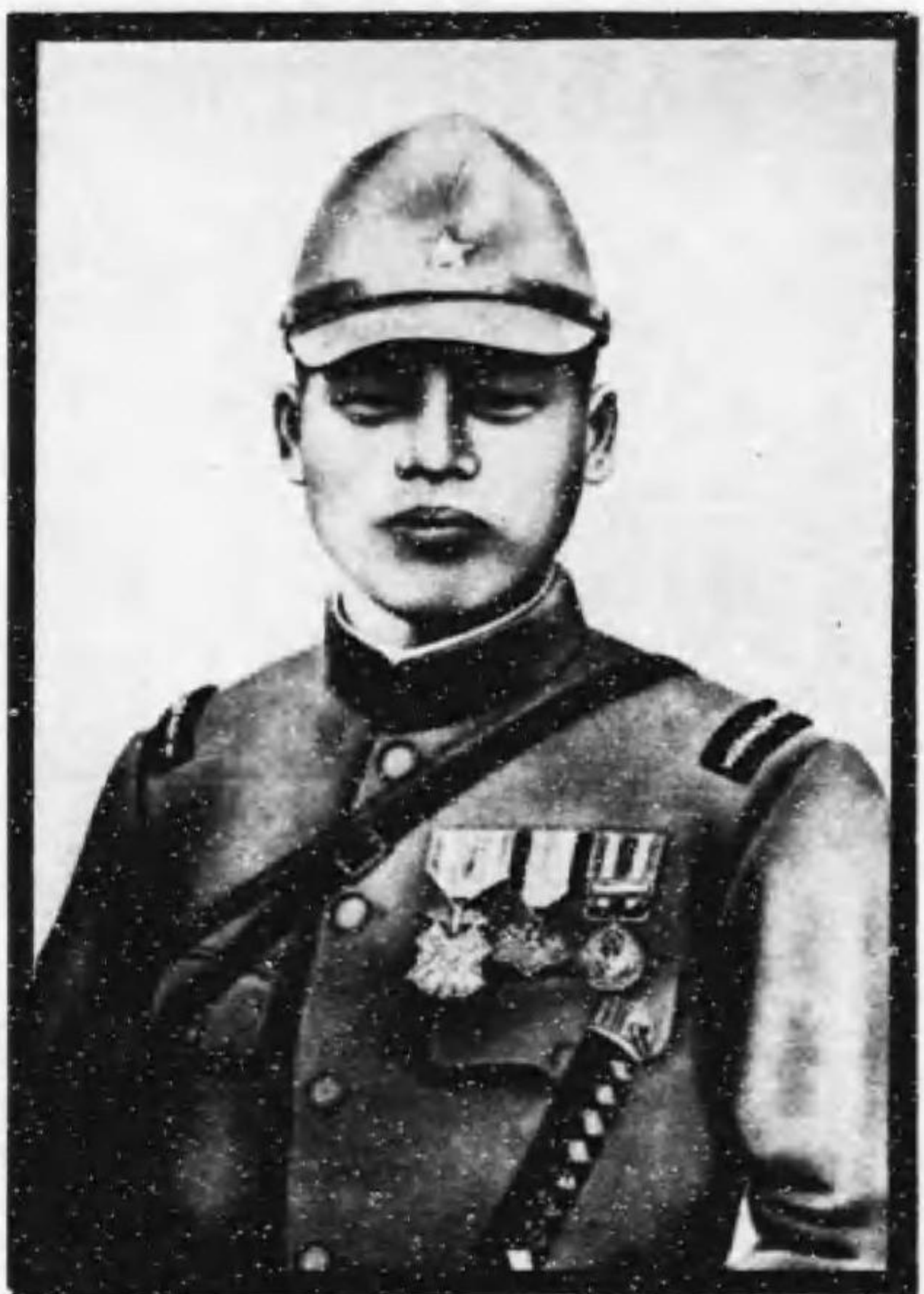


戰歿場所 中華民國江西省德安縣麒麟峰高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日
 遺族住所 神戸市湊東區楠町三丁目一一五ノ四
 氏名 父 井上榮次郎

略歴

大正五年十二月九日神戸市下山手通六丁目ニテ生レ、昭和九年三月神戸市立第一商業學校卒業、直チニ奥村商店へ入社自動車部分品ノ販賣ニ従事ス、昭和十二年七月徴兵検査ヲ受ケ第一乙種ニ合格スルヤ、翌日豫メテ念願セル參禪ヲ始メ神戸市平野ノ祥福寺ニ通ヒ荒法師ニ混ツテ心贖ヲ練リ大勇猛心ヲ養フニ餘念ナク入隊ノ日マデ繼續セリ、昭和〇〇年三月一日應召、〇〇部隊ニ入營、早クモ同六日北支ノ戰線目指シテ勇躍進發、殘敵ノ掃蕩ニ偉勳ヲ樹テツ、活躍スル事數ケ月、六月一日ニハ一等兵ニ昇進、九月一日ニハ上等兵ニ進ミ、武漢攻略戰ニ參加ノ爲メ幾多ノ危険ヲ冒シテ九江ニ上陸、敵ヲ撃破シツ、頑敵ノ死守スル麒麟峯ノ嶮ヲ見事ニ占領シ、山上ニテ逆襲シ來ル敵十倍ノ敵ニ猛烈果敢ナル反撃ヲ加ヘ勇戰奮闘シタレ共、頭部ニ敵彈ヲ受ケ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲタリ。時ニ昭和十三年九月二十八日、同日附伍長ニ任官セラレ功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セララル。

原籍地 兵庫縣明石郡櫛谷村寺谷
 所屬部隊 故陸軍歩兵曹長 勳七等 功六級 福山茂
 法名 芳忠院大義貫道居士 大正四年一月一日生



戰歿場所 江西省煤山南黎西側高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月三十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 兄 福山稔

略歴

昭和八年三月明石中學校卒業、八月神戸市灘區購買組合ニ奉職、昭和〇〇年〇〇第〇〇〇〇聯隊ニ入營、四月一日一期檢閲ヲ受ケ五月天津駐屯軍ニ編入、支那事變勃發スルヤ筒井部隊ニテ奮戰、〇〇年八月支派遣宮崎部隊ニ編入、九江ヨリ瑞昌附近ノ戰闘ニハ第一小隊第一分隊長トシテ奮闘シ、九月二十九日敵ノ水冷式重機關銃ヲ鹵獲、翌三十日大部隊ノ逆襲ヲ受ケ寡兵克ク戰ヒタルモ敵彈ニテ左胸部ニ貫銃創ヲ負ヒ煤山南黎西側ノ高地ニテ戰死ス、同日曹長ニ任官、功ニ依リ勳七等功六級ニ叙セララル。

原籍地 兵庫縣水上郡國領村東中
 所屬部隊 湯田部隊多田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 近藤 榮太郎
 法名 護國院殉忠榮勳居士
 大正六年三月六日生



戰歿場所 中華民國江西省武寧縣陳家三坪間高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 近藤 俊二

略 歴

大正六年三月六日兵庫縣水上郡國領村ニ生レ、昭和七年三月進修尋常高等小學校卒業、翌四月ヨリ農業ニ従事ス、昭和〇〇年三月一日應召、支那駐屯部隊ニ編入サレ保定附近警備中一期檢閲ヲ受ケ、五月十日徐州會戰ニ出動ヲ命ゼラレ参加、碭山、歸德ヲ攻略堂々歸德入城、七月中旬迄附近隴海線警備ノ任ニ當リ七月下旬保定へ歸還、八月北支出發海路ヲ經テ揚子江ヲ遡江南京ニ上陸、九月上旬武漢攻略戰ニ参加、機關銃手トシテ奮戰、遂ニ十月一日江西省武寧縣陳家ヨリ三坪高地へ通ズル西側高地ニ於テ戰死ス、同日附歩兵上等兵ニ昇進、功ニヨリ勳八等功七級ヲ賜フ。

原籍地 兵庫縣揖保郡東栗栖村平野六〇三
 所屬部隊 湯田部隊林隊
 故陸軍歩兵曹長 勳七等 功六級 石井 博
 法名 純忠院釋博回
 大正七年一月二十二日生

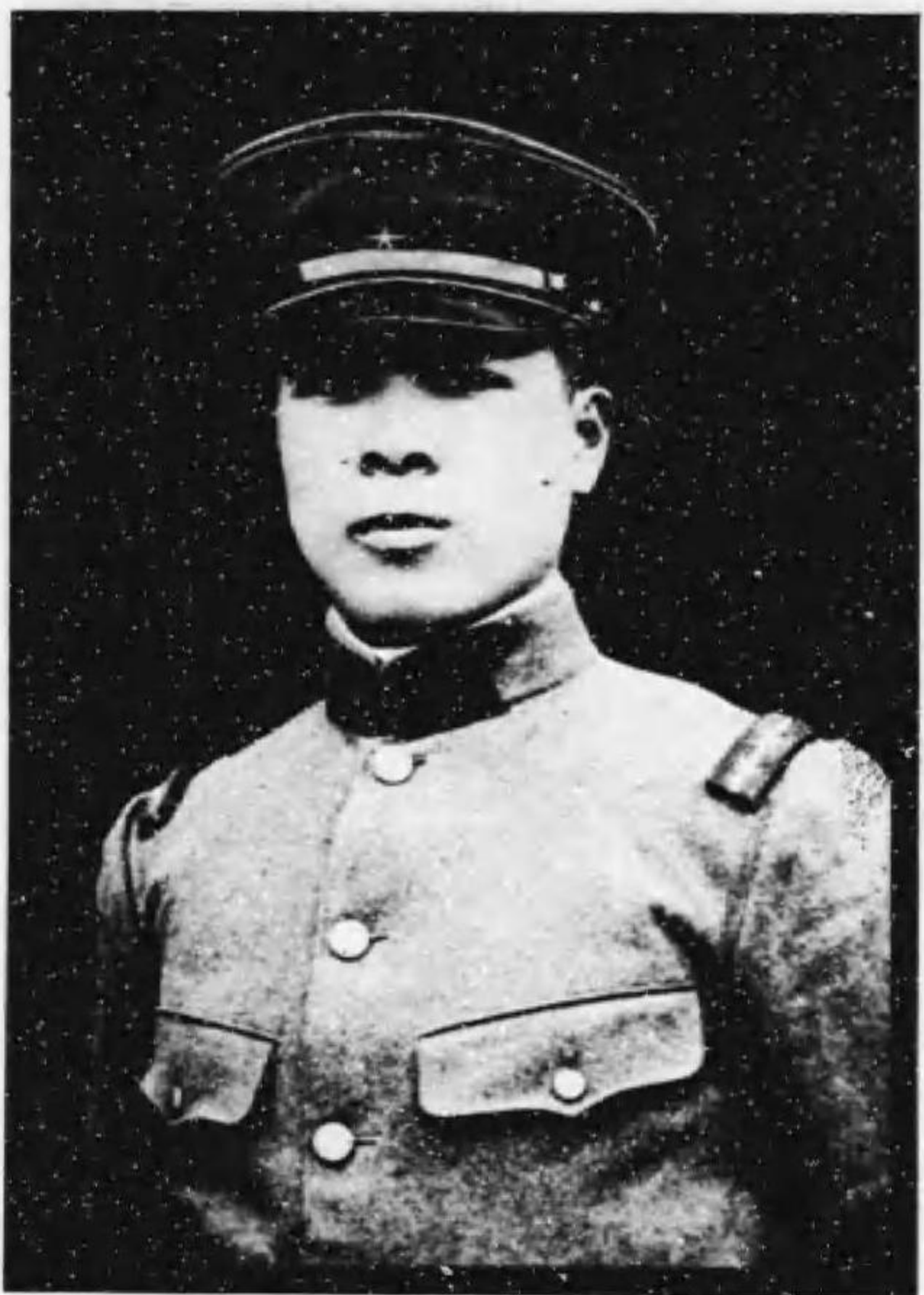


戰歿場所 中華民國江西省武寧縣朝家港附近
 戰歿年月日 昭和十三年十月十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 石井 清市

略 歴

大正七年一月二十二日兵庫縣揖保郡東栗栖村ニ生レ、昭和七年三月東栗栖尋常高等小學校卒業、同年四月ヨリ農業ニ従事ス、昭和〇〇年一月十日〇〇ヲ志願〇〇歩兵第〇〇〇聯隊ニ入營、同年五月九日支那駐屯軍ニ派遣ヲ命ゼラレ渡支駐屯軍ニ入隊、同六月一日歩兵一等兵ニ昇〇〇年三月上等兵ニ進級、同七月七日支那事變勃發スルヤ北支各地ニ轉戰、同十月伍長ニ任官、翌〇〇年四月軍曹ニ昇進、同七月南京集結ノ爲メ北支出發海路ヲ經テ揚子江遡江南京上陸、同九月九江ニ進出、瑞昌ヨリ簪溪間ノ山岳戰及武漢攻略戰ニ参加、十月十日江西省武寧縣岩嶺山南方朝家港附近ノ激戰中、自信アル擲彈筒ノ火蓋ヲ切り適確ナル射撃ハ忽チ敵陣地ヲ逐次破壊シ、分隊ヲ率イテ先頭ニ起チ銃劍ヲ揮ツテ突入、中隊全員ヲ奮起セシメ敵數名ヲ突刺シ山頭高ク日章旗ヲ掲ゲタル瞬間、敵彈ノ爲メ胸部貫通銃創ヲ受ケ遂ニ名譽ノ戰死ヲ遂ゲ、同日附曹長ニ累進、功ニ依リ勳七等功六級ニ叙セラル。

原籍地 兵庫縣加西郡西在田村上萬願寺
 所屬部隊 湯田部隊岡崎隊
 故陸軍歩兵曹長 勳七等 圓 滿 正
 功六級
 法 名 不退院英忠正鑑居士
 大正四年一月十三日生



戰歿場所 中華民國湖北省陽新縣石尖山附近
 戰歿年月日 昭和十三年十月十二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 圓 滿 庄 治

略 歷

大正四年一月十三日兵庫縣加西郡西在田村ニ生レ、昭和四年三月西在田小學校高等科ヲ卒業、翌四月ヨリ家業ノ農業ニ従事ス、昭和〇〇年一月〇〇歩兵第〇〇〇聯隊ニ入營、同年五月支那駐屯長谷川部隊ニ編入、渡支警備ニ當ル、昭和〇〇年七月支那事變勃發ト同時ニ出動、宛平縣城南苑ノ戰鬪ニハ青野小隊ニ屬シ城壁一番乘リノ殊勳ヲ樹テ、同〇〇年三月支那駐屯宮崎部隊ニ編入、保定ニ於テ初年兵教育ニ當ル、同七月末武漢攻略戰參加ノ爲メ保定出發海路南京ニ上陸、同九月上旬九江ヨリ瑞昌、蕪湖等ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗スル敵ヲ蹴散シ炎暑ヲ冒シ不眠不休ノ戰鬪ヲ續ケ、同十月十二日蕪湖龍港間ノ石尖山附近ノ戰鬪ニ於テ中隊ハ聯隊主力ノ前進ヲ容易ナラシムベク大隊ノ命ヲ受ケ、分隊ハ中隊ノ命ヲ受ケ頑強ナル敵陣地ノ側面攻撃ノ爲メ分隊長トシテ部下五名ヲ率ヒ敵陣深ク突入、白兵戰中敵彈胸部ヲ貫通壯烈ナル戰死ヲ遂ゲ、同日附曹長ニ昇進、功ニ依リ勳七等功六級ニ叙セラル。

原籍地 神戸市兵庫區西宮内町四九
 所屬部隊 宮崎部隊江田隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 濱 野 伊 佐 男
 功七級
 法 名 孝輝院釋正照
 大正四年十二月二十六日生



戰歿場所 南京兵站病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 濱 野 政 太 郎

略 歷

昭和三年三月神戸市立道場尋常小學校卒業、以降家業料理仕出業ニ従事、同十一年九月獨立シテ市内ニ生魚、乾物、青果小賣業八百伊ヲ經營中、兵庫突堤成駒食堂經營ノ實兄吉男同〇〇年八月一日應召ニ付之レヲ繼承經營、同〇〇年三月一日自分モ應召支那駐屯部隊へ入營、同四月五日足部挫折〇〇野戰病院入院、同五月一日前部隊へ復歸、以後保定附近ノ警備ニ任ジ一期ノ檢閲ヲ受ケ、同八月北支ヨリ中支ニ轉戰、南京ヲ經テ九月九江ニ至ル、爾後部隊ノ行動ハ山岳地帯ニ入りタル爲メ困苦缺乏言語ニ絶セルモ、愈々一死報國ノ決意ニ燃エ士氣旺盛ニ活躍セル模様ナリ、同九月二十五日瑞昌西南五十キロノ地點麒麟峯ニ於テ展開セラレタル二日三晩ニ渉ル大激戰ニ尖兵中隊ノ一員トシテ戰友ノ屍ノ中ニ涙ノ奮闘ヲ續ケ、明ケテ二十六日十五時半頃ノ戰鬪ニ無念敵ノ手榴彈二發ヲ右大腿部ニ受ケテ倒ル、噫、天命ナル哉、我が權威アル軍陣醫學ノ手術モ甲斐ナク同十月二十日〇〇兵站病院ニテ帝國萬歲ヲ唱へ戰傷死ス。

原籍地 兵庫縣津名郡尾崎村二〇七六
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 小松原 優
 法名 暢光院忠顯義好居士位
 大正五年六月十日生



戰歿場所 第二野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 母 小松原 ぬい

略 歴

大正五年六月十日兵庫縣津名郡尾崎村ニ生レ、昭和六年三月尾崎高等小學校高等科卒業、翌四月ヨリ樽屋業ニ從事中、昭和〇〇年三月一日應召歩兵第〇聯隊ニ入營、同日支那駐屯岡崎部隊要員ニ編入、〇〇出發〇〇、〇〇等ヲ經テ〇〇ニ同月十七日到着、同日支那駐屯宮崎部隊ニ轉屬、保定附近警備中一期ノ檢閲ヲ受ケ六月一日歩兵一等兵ニ進級、七月二十八日南京集結ノ爲メ保定出發八月七日南京ニ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、馮家鋪等ノ戰鬪ニ參加、同月下旬麒麟峯附近ノ戰鬪ニ參加、十月上旬大屋田、箸溪龍港間ノ戰鬪ニ參加、同月十三日唐山ノ戰鬪ニ於テ左上傳ニ手榴彈破片創ヲ受ケ所屬師團第二野戰病院ニ收容セラレ、同月下旬脚氣併發ノ爲メ〇〇野戰病院ニ轉院、十一月二日同病院ニテ戰傷死ス、同日附歩兵上等兵ニ進級、戰功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セララル。

原籍地 兵庫縣三原郡阿萬町阿萬東組六五七
 所屬部隊 吉田部隊市川隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 谷口三七吉
 法名 寧雲院忠誠厚朴居士
 大正六年九月二日生



戰歿場所 中華民國威寧第三野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月四日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 谷口 安平

略 歴

大正六年九月二日兵庫縣三原郡阿萬町ニ生レ、昭和五年三月阿萬小學校卒業、翌四月ヨリ製瓦業ニ從事ス、昭和〇〇年三月一日應召歩兵第〇聯隊ニ入營、即日駐支岡崎部隊ニ編入、同月八日屯營出發九日〇〇港出帆十三日〇〇上陸、十四日陸路〇〇〇ヲ通過十七日駐支岡崎部隊ニ到着、同日支那駐屯宮崎部隊ニ轉屬市川隊ニ編入、保定附近警備中一期檢閲ヲ受ケ六月一日一等兵ニ進級、八月三十日北支出發海路ヲ經テ揚子江ヲ過江南京ニ上陸、九月一日上等兵ニ進級、同六月南京出發九江ニ進出シ同十二月九日ヨリ瑞昌箬溪間十數里ニ互ル山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散シ更ニ轉進、約六十里ノ行軍ト追擊戰ノ爲メ炎暑ヲ冒シ不眠不休、夜襲ニ白兵戰ニ彈雨ノ中ニ在リテ沈着剛膽ニ行動シ、機關銃ノ威力ヲ遺憾ナク發揮シ連戰連勝遂ニ漢口ヲ陥落セシメ赫々タル武勳ヲ樹テタルモ戰ヒ半ニシテ發病、威寧第〇野戰病院ニ入院十一月四日戰病歿ス、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等ニ叙セララル。

原籍地 兵庫縣津名郡尾崎村二六二〇
 所屬部隊 湯田部隊三重野隊
 故陸軍歩兵伍長 功八等 阪口 貞夫
 功七級
 大正六年二月十五日生
 法名 妙法報國院殉忠日貞居士



戰歿場所 南京第十二兵站病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 阪口 和一郎

原籍地 兵庫縣水上郡芦田村西芦田一二九六
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵上等兵 功八等 小林 萬治
 功七級
 大正五年四月七日生
 法名 義雲院萬嶽壯忠居士



戰歿場所 第二野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十一月二十二日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 小林 あい

略 歴

大正六年二月十五日兵庫縣津名郡尾崎村ニ生レ、昭和九年三月縣立淡路實業學校卒業、同年四月ヨリ農業ニ従事、昭和〇〇年三月一日應召、一旦〇〇歩兵〇部隊ニ入營、同月八日支那駐屯岡崎部隊要員トシテ屯營出發、翌九日〇〇港出帆同月十三日〇〇へ上陸、同月十七日駐支長谷川部隊ニ到着、同日支那駐屯宮崎部隊ニ轉屬三重野隊ニ編入、保定附近ニテ一期ノ檢閲ヲ受ケ六月一日歩兵一等兵ニ進級、七月二十八日南京集結ノ爲メ保定出發海路ヲ經テ揚子江ヲ遡江シ八月七日南京ニ上陸、八月三十日九江附近集結ノ爲メ南京出發、九月一日歩兵上等兵ニ昇進、九月上旬九江ヨリ瑞昌箬溪間ノ山岳戰ニ參加、十月十日朝家港附近ノ戰鬪ニ於テ右大腿骨折貫刺破片創ヲ受ケ各野戰病院ヲ次々ニ轉院、十一月十日〇〇第十二兵站病院ニテ戰傷死ス、同日附歩兵伍長ニ任ゼラレ功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜リタリ。

略 歴

大正五年四月七日兵庫縣水上郡芦田村ニ生レ、昭和五年三月同村小學校卒業、昭和六年五月ヨリ大阪市ニテ生花業ニ従事中、昭和〇〇年三月應召〇〇第〇部隊ニ一旦入營、同月八日支那駐屯部隊要員トシテ征途ニツキ、保定附近警備中一期檢閲ヲ受ケ六月一日一等兵ニ進級、八月北支出發海路ヲ經テ揚子江ヲ遡江南京ニ上陸シ、九月上旬九江ニ進ミ瑞昌箬溪間ノ山岳戰ニ參加、十一月部隊ハ中支崇陽方面ニ猛進撃ヲ開始スルヤ偶々同月八日崇陽南方二軒ノ地點ニ於テ強力ナル敵軍ニ遭遇シ力戰奮闘中、兩下肢ニ手榴彈破片創ヲ受ケ右大腿部骨折ニヨリ直チニ第〇野戰病院ニ收容セラレ、其後手厚キ加療ヲ受ケタルモ十一月二十二日遂ニ名譽ノ戰傷死ス、同日附上等兵ニ昇進、功績ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 兵庫縣洲本町池内七七〇
 所屬部隊 湯田部隊森恒隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 中 村 博
 功七級
 法 名 光輝院義勝居士
 大正五年三月二十五日生



戰歿場所 河北省肅寧縣王村附近
 戰歿年月日 昭和十四年二月四日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 中 村 隣 平
 父 中 村 隣 平

略 歴

昭和六年三月大野小學校卒業、十二年一月洲本郵便局員拜命、○
 ○年三月一日○○歩兵第○聯隊ニ召集セラル、三月八日北支派遣
 宮崎部隊ニ轉屬、徐州附近及歸德開封附近ノ戰闘ニ參加、清瀨
 少尉殿ノ下ニテ歸德城一番乗ヲナス、八月北支出發海路南京上
 陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ山岳戰ニ參加、頑強ニ抵抗
 セル敵ヲ蹴散ラシ炎暑ヲ冒シテ晝夜奮闘、赫々タル武勳ヲ樹テ更
 ニ北支ニ轉戰、昭和十四年二月四日王村附近ノ戰闘ニ於テ壯烈ナ
 ル戰死ヲ遂ゲラル。

原籍地 兵庫縣加東郡大部村敷地一〇九八
 所屬部隊 湯田部隊岡崎隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 本 吉 正
 功七級
 法 名 眞輝院盡忠義亮居士
 大正二年七月一日生



戰歿場所 中華民國河北省獻縣西方賈莊橋附近
 戰歿年月日 昭和十四年二月六日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 藤 本 政 吉
 父 藤 本 政 吉

略 歴

大正二年七月一日兵庫縣加東郡大部村敷地ニ生レ、昭和四年三月
 高等小學校卒業、翌四月ヨリ左官業ニ従事ス、昭和○○年九月歩
 兵第○○○聯隊ニ應召、征途後支那駐屯宮崎部隊ニ配屬サル、中
 支方面ニ轉戰後同年十二月上旬北支ニ歸リ滄縣、獻縣附近ノ共匪
 討伐戰ニ參加、武勳ヲ樹テタルモ翌○○年二月六日獻縣西方約一
 里賈莊橋附近ニテ交戰中、單身危險ヲモ顧ミズ部落東北角屋上ノ
 敵ニ對シ手榴彈ヲ投擲シ敵ノ狼狽ニ乗ジ屋上ニ飛ビ上リ敵兵二三
 名ヲ刺殺シ、尙モ急追中敵迫撃砲彈ノ爲メ壯烈ナル戰死ヲ遂グ、
 即日上等兵ヲ命セラレ功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜ハル。

原籍地 岡山縣御津郡野谷村菅野
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵曹長 勳七等 岩井 要
 功六級
 大正四年一月二日生
 法名 妙法武烈院誠忠日要靈位



戰歿場所 江西省瑞昌縣煤山南側高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月三十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 岩井 和七

略 歴

昭和六年三月野谷村高等小學校並ニ實業補習學校、青年訓練所等
 ヲ卒業後農業ニ従事ス、昭和九年郷村代表トシテ新井祭新穀齋田
 田土任命、晚秋祭典終了、同十年郡青年團及星德奉養會長ヨリ表
 彰狀授與、昭和〇〇年歩兵第〇聯隊ニ入營、同〇〇年蘆溝橋事變
 勃發以來各地ニ奮戦、〇〇年五月保定西關附近ノ戰鬥ニ於テ左大
 腿部ニ貫通銃創ヲ受ケ入院、快方ヲ待チ再び戦線ニ赴キ赫々タル
 武勳ヲ樹テシモ、江西省瑞昌縣煤山南側高地ノ戦ニ克ク部下ヲ督
 シタルモ同年九月三十日敵彈胸部ヲ貫通シ遂ニ壯烈ナル戦死ヲ遂
 グ、同日附曹長ニ任ゼラレ功ニ依リ勳七等功六級ニ叙セラル。

原籍地 廣島縣御調郡大濱村
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍衛生軍曹 勳七等 杉本 益男
 功六級
 大正四年十月三日生
 法名 歸德院忠山良義居士



戰歿場所 中華民國河南省寧陵縣張庄附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 杉本 樂次

略 歴

大正四年十月三日廣島縣御調郡大濱村誕生
 昭和四年三月二十八日大濱小學校卒業
 昭和八年四月一日青年學校卒業
 昭和〇〇年一月二十三日歩兵第〇聯隊ニ入營
 同 年二月十日廣島衛戍病院ニ復歸
 同 年四月二十四日支那駐屯軍病院ニ配屬
 同 年七月二日一等看護兵
 同 年十二月一日上等看護兵
 同 〇〇年一月十五日支那駐屯軍長谷川部隊ニ轉屬
 同 年二月二十八日衛生伍長ニ任ズ
 同 年三月上旬支那駐屯軍宮崎部隊要員トシテ轉屬、同年六
 月一日赫々タル武勳ヲ殘シ柳河驛附近張庄ノ戰鬥
 ニ名譽ノ戦死ヲ遂グ。

原籍地 廣島縣廣島市舟入仲町百十九
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 新 見 一
 功七級
 法名 義光院釋忠清居士
 大正四年一月二十七日生



戰歿場所 中支江西省瑞昌縣八卦山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 新見文之助
 父 同
 母 ツル

略 歴

大正四年一月二十七日廣島市舟入仲町ニ誕生、昭和二年三月神崎尋常小學校卒業、同年四月廣島縣立商業學校入學、同七年三月同校卒業、昭和〇〇年八月二日〇〇歩兵第〇〇聯隊第〇中隊ニ入隊、日支事變起ルヤ出征各地ニ轉戰、同〇〇年九月上旬九江上陸以來瑞昌八卦山ノ攻略戰闘ニ參加、同月十八日江西省瑞昌縣八卦山ノ險峻ヲ攻撃セシ時、小隊長ト共ニ卒先登ニ立ツテ敵彈雨飛ノ間敵陣ニ肉迫進撃中、不幸敵彈左腹部ニ命中壯烈ナル戰死ヲ遂ゲタリ。

原籍地 廣島縣山縣郡加計町辻ノ河原
 所屬部隊 廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵曹長 勳七等 富 樫 作 郎
 功六級
 法名 專昌院釋道正
 明治四十一年九月十四日生



戰歿場所 江西省瑞昌縣丁家山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 富 樫 覺 悟

略 歴

學校卒業後家事農業ニ従事昭和四年六月〇〇歩兵第〇聯隊ニ入隊、伍長勤務上等兵ヲ命ゼラレ五年十一月歸隊、昭和七年十一月〇〇附近陸軍特別大演習ニ參加、伍長ニ任官、短歌ニ趣味深ク土屋文明先生ノ指導ヲ仰ギ歌誌アラギニ投稿、歌人協會編ニ出征軍人ノ歌中ニ掲載サル、昭和〇〇年十月十八日應召、十一月二十三日出征、山下部隊岡崎部隊ニ轉屬シ後本間部隊宮崎部隊高木隊ニ編入サル、天津附近鐵道警備ニ服シ後黃河渡河作戰、徐州會戰ニ參加、歩兵軍曹ニ任ゼラル、昭和十三年九月武漢攻略戰ニ參加、同月十九日江西省瑞昌縣丁家山高地ニ於テ戰死サレ、同日曹長ニ任官、功ニ依リ勳七等青色桐葉章並ニ功六級金鷄勳章ヲ授ケ賜ハル。

原籍地 廣島縣沼隈郡松永町
 所屬部隊 支那駐屯廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 山本重夫
 大正五年九月十七日生
 法名 顯正院忠烈殊勳日重居士



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣丁家山
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同原籍地
 氏名 父 山本大吉

略 歷

大正五年九月十七日廣島縣沼隈郡松永町誕生
 昭和三年三月松永尋常高等小學校卒業
 昭和三年四月運送店員ニ從事
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍歩兵第〇聯隊入營
 昭和〇〇年支那事變參加、天津、南苑、豐臺、通州及北京戰鬪、十
 月下旬山西省折口鎮、大原戰鬪、昭和〇〇年五月中旬徐州會戰、
 六月一日歩兵上等兵、九月十九日任陸軍歩兵伍長、江西省丁家山
 ニ於テ勇敢奮戰、同日午前七時三十分左胸部貫通銃創ヲ受ケ壯烈
 ナル戰死ヲ遂グ、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル、

原籍地 廣島縣賀茂郡熊野跡村
 所屬部隊 支那駐屯廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵上等兵 勳八等 功七級 金山松男
 大正五年九月二十日生
 法名 顯正院釋慈殉



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣丁家山高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月十九日
 遺族住所 同原籍地
 氏名 母 金山キリ

略 歷

大正五年九月二十日廣島縣賀茂郡熊野跡村ニ誕生
 昭和六年三月熊野跡尋常高等小學校卒業
 昭和七年四月吳井上指物店ニ見習生トシテ從事
 昭和十一年吳市岩方青年學校卒業
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯歩兵第〇聯隊第〇中隊入隊
 昭和〇〇年七月七日支那事變警備下令、北平及通州附近掃蕩警
 備、折口鎮及太原ノ戰鬪ニ參加、昭和〇〇年三月一日編成並ニ編
 制改正ノタメ支那駐屯軍宮崎部隊高木隊ニ編入サル保定及徐州ノ
 警備討伐ヲ敢行、南京上陸、同九江上陸炎暑ヲ冒シテ不眠不休瑞
 昌ヨリ馮家舖、丁家山高地ノ激戰鬪ニ參加（昭和十三年九月十九
 日）、同戰鬪ニ於テ胸部貫通銃創ヲ受ケ散華ス。
 同日附上等兵ニ進級セラレ功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 廣島縣安藝郡矢野町一六五
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 大 本 忠 雄
 功七級
 法 名 殉康院釋戈正信士
 大正五年八月十日生



戰歿場所 師團所屬第四野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 父 大 本 役 藏
 母 同 七 キ

略 歷

大正五年八月十日原籍地ニ誕生、昭和七年三月矢野高等小學校ヲ卒業後農業ニ従事、昭和〇〇年二月二十五日支那駐屯軍ニ入隊、同〇〇年三月支那駐屯宮崎部隊吉田部隊山口隊ニ轉屬、西花保定ノ警備並ニ討伐ニ従事、八月下旬南京上陸、九月上旬九江上陸以來瑞昌八卦山ノ攻略戰闘ニ參加、九月十八日八卦山守備中拂曉頃敵ノ逆襲ヲ受ケ奮戰中、左大腿部ニ手榴彈破片創ヲ受ケ同月二十日師團所屬第四野戰病院ニテ戰傷死ヲ遂ゲラレタリ。

原籍地 廣島縣安藝郡江田島村小用
 所屬部隊 支那駐屯宮崎部隊池尻隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 新 田 慶 一
 功七級
 法 名 釋 正 隆
 大正五年二月二十日生



戰歿場所 中華民國江西省瑞昌縣馮村高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 父 新 田 龜 松
 妻 同 子

略 歷

- 一、大正五年二月二十日廣島縣安藝郡江田島村小用ニ誕生
- 一、同十一年四月江田島小學校ニ入學
- 一、昭和四年三月同校卒業
- 一、同〇〇年三月一日支那駐屯歩兵
- 一、廣安門附近ノ戰闘ニ參加、通州警備、平震、太原戰闘ニ參加、黃河渡河昭和〇〇年一月一日濟南着、同年三月〇〇日宮崎部隊池尻隊ニ轉屬、西苑附近〇〇警備、七月下旬南京ニ集結九月六日九江上陸、瑞昌馮家舖間ノ戰闘ニ參加、九月二十一日中華民國江西省瑞昌縣馮村高地ニ於テ頭部貫通銃創ヲ受ケ戰死。

原籍地 廣島縣佐伯郡二十日市町四百五十九
 所屬部隊 廣部部隊江田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 大和 積雄
 功七級
 法名 釋寬顯信士
 大正五年一月一日生



戰歿場所 中華民國江西省白水街西側麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日
 遺族住所 廣島縣廣島市舟入本町二百〇八
 氏名 父 大和 治郎

略 歴

大正五年一月一日廣島縣佐伯郡二十日市町ニ生レ、十二年四月廣島市觀音小學校入學、昭和五年三月同校高等科卒業、後同町ニテ桐箱職ニ従事、昭和〇〇年三月一日支那駐屯歩兵第〇聯隊第〇中隊ニ入營、第一期檢閲終ルヤ偶々日支事變ニ遭ヒ出征、各地ニ轉戰後宮崎部隊ニ轉屬、同〇〇年九月二十六日江西省德安縣白水街西方麒麟峯ノ拂曉戰ニ於テ敵ノ逆襲ニ對シ輕機關銃手トシテ勇敢沈着應戰、最後ノ一彈迄射盡シ遂ニ敵彈命中壯烈ナル戰死ヲ遂ゲラル。

原籍地 廣島縣廣島市下柳町六六ノ三
 所屬部隊 支那駐屯宮崎部隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 西東 常三
 功七級
 法名 忠誠院釋義淳居士
 大正五年一月十八日生



戰歿場所 中支江西省德安縣白水街北方高地麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十六日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 西東 政吉
 母 同 マサ

略 歴

大正五年一月十八日廣島市ニ誕生
 昭和五年三月二十八日中町高等小學校卒業、直チニ株式會社福屋ニ入社、勤務中軍人ヲ志望シ少年航空兵ニ又海軍機關兵ニ志願セシモ身體檢査ノタメ何レモ成ラズ、意ヲ體育ニ繁忙ナル勤務ノ傍ラ福屋ラグビー部選手トナリ心身ノ鍛練ニ勉ム、同十一年徵兵檢査ニ甲種合格シ永年ノ宿願ヲ達ス、同〇〇年三月一日勇躍支那駐屯歩兵第〇聯隊第〇機關銃中隊ニ入隊、同年七月七日支那事變警備下令、北支各地ニ轉戰シ赫々タル武勳ヲ樹テタリ。昭和〇〇年三月下旬支那駐屯宮崎部隊廣部部隊山田隊ニ編入、同年八月北支出發海路南京へ上陸中支ニ轉戰シ、九月漢口作戰ニ參加シ、九江ヨリ瑞昌、箬溪等ノ頑敵ヲ蹴散シ第二分隊長トシテ奮戦力闘セルモ、遂ニ九月二十六日江西省德安縣白水街北方高地麒麟峯ノ激戰ニ頭部、顔面、左頸部、兩手掌、左膝、蓋ニ敵砲彈破片創ヲ受ケ壯烈ナル名譽ノ戰死ヲ遂ゲ。

原籍地 廣島縣吳市阿吹町五八八三番地
 所屬部隊 支那駐屯廣部部隊上山隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 黑 本 正 人
 法 名 顯忠院釋貫之
 大正五年四月七日生



戰歿場所 中華民國江西省德安縣麒麟峰
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十七日
 遺族住所 廣島縣吳市阿吹西延崎六五番戸
 氏 名 母 黑 本 ツ ネ

略 歴

大正五年四月七日廣島縣吳市阿吹町五八八三番地ニ誕生
 昭和六年三月吳市阿吹尋常高等小學校卒業、同年一月廣島逓信講習所普通科入學、同年十二月卒業、昭和九年四月逓信講習所高等科ニ進ミ、翌年三月卒業後、下關電信局ニ逓信事務員トシテ奉職、昭和〇〇年八月二日〇〇第〇〇聯隊ニ應召、同年十一月二十三日暴支膺懲ノ征途ニ上リ爾來警備ニ又討伐ニ北支各地ヲ轉戰、昭和〇〇年八月中支戰線ニ派遣ヲ命ゼラレ本間部隊宮崎部隊ニ屬シ敵ノ重要據點漢口目指シテ歩武ヲ進メ、嶮峻極ナキ山岳地帯ニ支那軍ト火蓋ヲ切リツ、前進又前進、偶々江西省德安縣麒麟峯ニ於テ所屬部隊ハ同峯ノ攻撃ヲ命ゼラレ十數倍ノ頑敵ニ對シ不眠不休惡戰苦闘、遂ニ之ヲ擊破シ敵陣地へ突入ノ際不幸敵彈ヲ蒙リ壯烈ナル最後ヲ遂ゲ。

原籍地 廣島縣山縣郡筒賀村字上筒賀
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 栗 栖 惟 幸
 法 名 釋 惟 信
 大正五年七月二日生



戰歿場所 辛潭浦第四野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十七日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 栗 栖 鶴 松

略 歴

昭和六年三月筒賀小學校卒業、資性温厚、快活、平素克ク師父ノ教ヲ守リ成績優秀、親ニ事ヘテ至孝能ク家業ヲ扶ク、昭和十一年四月被服支廠ニ精勵、模範工トシテ信望厚カリシ、昭和〇〇年支那駐屯宮崎部隊ニ入營、保定附近ニテ一期檢閲ヲ受ケ、〇〇年三月上等兵ニ進級、北支ノ山野ニ轉戰シ偉功ヲ樹テシガ、八月北支出發海路南京へ上陸、九月上旬九江ヨリ瑞昌蕩溪間ノ山岳戰ニ參加、蔣介石ノ直系軍ノ頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散ラシ炎熱ヲ口シテ不眠不休、夜襲ニ白兵戰ニ活躍中、十月十六日湖北省陽新縣司馬嶺附近ノ戰鬪ニ於テ敵陣攻撃中、右大腿部貫通銃創ヲ受ケ動脈切斷ノタメ出血多量、爲メニ十月二十七日辛潭浦第〇野戰病院ニ於テ戰病死サル、同日附伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ヲ賜フ。

原籍地 廣島縣高田郡向原町大字戸島
 所屬部隊 宮崎部隊廣部部隊高木隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 中川 繁 男
 功七級 釋 覺 壽



戰歿場所 江西省德安縣麒麟峯
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十八日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 中川 喜 市

略 歴

昭和五年三月向原小學校卒業、昭和八年十一月藝備線向原驛勤務、昭和〇〇年二月一日北支駐屯軍天津歩兵第〇聯隊へ入營後西苑歩兵第〇聯隊へ編入、七月事變勃發スルヤ壹島部隊ニ屬シ勇躍出征、北京光華門ノ戰闘ヲ初陣ニ南苑、通州ニ奮戦、十一月南京總攻撃ニ參加南門一番乗ノ殊勳ヲ樹テ、各地ノ警備ニ任ジ、〇〇年六月宮崎部隊ニ配屬、武漢攻略戰ニ參加、八月上旬南京上陸警備ニ付キ、九月一日鄱陽湖高壩陣附近へ上陸、九江ヨリ蘆山、瑞昌、吳家、馮家舖等ノ頑敵ヲ蹂躪シ、九月十七日丁家山ノ激戰ニ頭張ル直系軍二箇師ニ大打撃ヲ與ヘ放棄セシメ逆襲ヲ繰返シ遂ニ占領セシモ、彈丸盡キ隊長ノ號令ニテ巨岩ノ雨ヲ降シ撃退セシメ、二十五日大屋田平野ヲ周庄ニ進出、白水街突破ノ前提トシテ麒麟峯奪取ヲ企テ廣部大隊之ニ向フ、惡戰苦闘擲彈筒ノ分隊ヲ率ヒ指揮中敵彈頭部ニ命中、二十八日午後五時半戰死ス。

原籍地 廣島縣深安郡下加茂村甲四六一番
 所屬部隊 廣部部隊上田隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 三 島 勝
 功七級 大正四年二月十四日生
 法名 誠忠院釋義潤良順居士



戰歿場所 中支江西省德安縣麒麟峯高地
 戰歿年月日 昭和十三年九月二十九日
 遺族住所 廣島縣深安郡下加茂村
 氏名 父 三 島 四 郎 兵 衛

略 歴

大正四年二月十四日廣島縣深安郡下加茂村甲四六一番ニ誕生、自體尋常高等小學校卒業後木履職ニ従事、昭和〇〇年三月一日支那駐屯歩兵第〇聯隊第〇中隊ニ入隊、同年七月七日北支事變警備下令、十月中旬迄北平附近ノ警備、同月中旬ヨリ通州大同平地忻口鎮附近ノ戰闘ニ參加、十一月月上旬太原附近戰闘ニ參加、同月下旬太原發石家莊ヲ經テ天津着、同地附近ノ警備、同〇〇年一月中旬黄河渡河作戰並濟南警備、二月下旬迄京奉線警備、三月上旬支那駐屯宮崎部隊上田隊ニ編入、三月下旬西苑附近、五月下旬保定附近警備並ニ討伐ニ參加、六月下旬木間部隊編成下令、七月下旬編成完結、南京上陸以來大板橋、猪頭橋附近ノ警備、九月中旬迄瑞昌、馮家舖周庄間ノ戰闘ニ參加、九月二十九日麒麟峯高地附近ノ戰闘ニ於テ腹部貫通銃創ヲ受ケ戰死ス、同日附ヲ以テ伍長ニ任官、勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 廣島縣雙三郡河内村三原
 所屬部隊 廣部部隊廣本隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 小路 定美
 法名 昭超院釋義碩信士
 大正五年四月十日生



戰歿場所 武寧縣合掌街野戰病院
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十五日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 小路 勘太郎
 母 ユクノ

略 歴

大正五年四月十日廣島縣雙三郡河内村ニ誕生、昭和六年三月河内尋常高等小學校卒業、同年四月ヨリ吳服商ニ従事ス。
 昭和〇〇年三月一日支那駐屯軍歩兵第〇聯隊第〇中隊ニ入營、同年七月事變勃發スルヤ北支各地ニ轉戦シ、翌〇〇年三月駐屯軍宮崎部隊上田隊ニ編入、同年七月末保定出發海路上海ヨリ南京ニ上陸、九月漢口攻略戦ニ参加シ、九月二十九日江西省德安縣麒麟峯高地ニ於テ奮戦中、左頸部ニ貫通銃創ヲ受ケ武寧縣合掌街野戰病院ニ收容ノ上加療中ナリシモ遂ニ十月二十五日午前六時戦傷死ス、同日附伍長ニ任官セラル、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラレ、時ニ二十三歳ナリキ。

原籍地 山口縣大津郡深川町澁木七
 所屬部隊 吉田部隊山口隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 河添 謙治
 法名 法徳院釋精薫居士
 大正五年九月十日生



戰歿場所 江蘇省南京第四兵站病院
 戰歿年月日 昭和十三年十二月十一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏名 父 河添 榮太郎

略 歴

昭和六年三月三隅村明倫小學校卒業、十一年三月縣立農事試験場講習生終了、四月ヨリ農事ニ従事、十二年三月一日支那駐屯歩兵第〇聯隊入營、七月七日天津警備、二十六日北平廣安門ノ戦闘参加、南苑、蘆溝橋攻撃参加、通州警備、十月十六日太原へ出動、忻口鎖、太原戦闘参加、太原一番乗中隊トシテ馳名ヲ馳セタリ、此間戦闘討伐、數十回ニ及ブ、石家莊ノ警備、黄河渡河作戦、〇〇年三月宮崎部隊ニ編入、保定及ビ北寧線掃蕩並ニ警備、濟南、天津警備、八月北支ヨリ海路南寧上陸、九月九江ヨリ瑞昌、蕪湖等ノ山岳戦ニ参加シ頑強ニ抵抗セル敵ヲ蹴散ラシ苦痛ヲ忍ビ應戦シ皇軍ノ威武ヲ發揚シ、九月十八日八卦山ノ戦闘ニ赫々タル武勳ヲ樹テタルモ不幸戦ノ半ニ病魔ニ冒サレ、十二月十一日戦病死セラレ、同日伍長ニ任官、功ニ依リ勳八等功七級ニ叙セラル。

原籍地 鳥取縣岩美郡津ノ井村香取
 所屬部隊 吉田部隊山崎隊
 故陸軍歩兵軍曹 勳七等 功六級 井 殿 哲 雄
 法 名 善立院功覺哲雄居士
 大正四年四月十一日生



戰歿場所 中華民國河南省寧陵縣柳河驛附近
 戰歿年月日 昭和十三年六月一日
 遺族住所 同 原籍地
 氏 名 父 井 殿 甚 藏

略 歷

大正四年四月十一日鳥取縣岩美郡津ノ井村ニ生レ、昭和七年三月津ノ井尋常高等小學校卒業、卒業ニ際シ舊藩主池田侯ヨリ授賞サル、昭和〇〇年〇〇歩兵第〇〇聯隊ヘ入營、同年五月二日支那駐屯長谷川部隊ヘ志願シテ編入サル、同月九日屯營出發渡支、昭和〇〇年三月一日支那駐屯宮崎部隊ヘ轉屬、蘆溝橋ノ戰ヨリ逐次戰果ヲ收メツ、有リシガ、同年六月一日河南省寧陵縣柳河驛附近ノ戰鬪ニ於テ勇シク名譽ノ戰死ヲ遂ゲ、其間召集兵及初年兵ノ教育掛トシテ任務ヲ遂行ス、同日附步兵軍曹ニ昇級、功ニ依リ勳七等功六級ニ叙セラル。

原籍地 兵庫縣神戸市葺合區磯邊通四ノ七
 所屬部隊 湯田部隊平井隊
 故陸軍歩兵伍長 勳八等 功七級 石 井 一 郎
 法 名 陽新院忠烈道雄居士
 大正六年七月二十八日生



戰歿場所 司馬岑西側高地
 戰歿年月日 昭和十三年十月二十日
 遺族住所 高知縣高知市寶永町一
 氏 名 母 石 井 リ ッ

略 歷

大正六年七月二十八日東京市本郷區湯島天神町一丁目一番地ニ誕生、昭和七年釜山商業學校中退、八年三月ヨリ高知縣ニテ商業ニ従事ス、昭和〇〇年三月召集セラレ中支派遣宮崎部隊平井隊ニ編入、北支、中支ニ轉戦シ武勳ヲ樹テ、漢口作戰ニハ中隊指揮班傳令トシテ重大ナル任務ヲ果シ、九月五日九江上陸、十月二十日拂曉攻撃準備完了、優勢ナル敵ト交戦中武漢三鎮ノ陥落モ待タズ戰場ノ華ト散ル。

原籍地 高知縣幡多郡佐賀村佐賀
 所屬部隊 宮崎部隊
 故陸軍歩兵上等兵勳八等泉
 義之
 大正六年一月七日生



戰歿場所 第四野戰病院
 戰歿年月日 昭和十四年二月十七日
 遺族住所 同原籍地
 氏名 泉善太郎

略 歴

昭和四年三月佐賀尋常高等小學卒業後漁業ニ従事、昭和〇〇年九月召集、〇〇歩兵第〇〇〇聯隊歩兵砲隊トシテ入營、一期檢閲ヲ受ケ、十二月ニ北支上陸支那駐屯軍歩兵第〇〇聯隊ニ入營シ、二十三日第八路軍ト戰ヒ克ク武動ヲ樹テタルモ、折柄二月初旬風邪ノ冒ス所トナリ急性氣管支炎ノタメ五日第〇野戰病院ニ入院、二月十七日遂ニ戰病死ス。

申 込 ナ キ 分

故人階級	氏名	戰死年月日	場 所	現住所	遺 族
陸軍歩兵伍長	村田忠良	昭和十三年六月二日	寧陵縣候閣	千葉郡睦村神久保	村田莊藏
伍長	宇田川政吉	十月十五日	第〇野戰病院	本葛飾郡浦安町猪賀	宇田川 猪之八
上等兵	國吉常德	九月十九日	丁家山高地	君津郡富津町富津	國吉とせ
上等兵	海老根 智	九月二十七日	麒麟峯高地	夷隅郡古澤村桑田	海老根帶治
上等兵	伊藤光平	十月二十五日	瑞昌縣豫備病院	海上郡旭町	伊藤 昇
伍長	沼田 昇	十月二十五日	第〇野戰病院	長生郡大東村椎木	沼田 佐一
群馬縣					
輻重兵上等兵	増田次郎	九月十九日	丁家山	碓氷郡安中町安中	増田 倉吉
輻重兵上等兵	石井理藏	十一月五日	第〇野戰病院	利根郡絲ノ瀬村絲井	石井勢多吉
輻重兵上等兵	宮口隆一	昭和十四年二月六日	肅寧縣賈莊橋	碓氷郡横野村中野谷	宮口キヨ
高知縣					
陸軍歩兵中尉	森澤勇雄	昭和十三年十月十二日	陽新縣金山嶮附近	吾川郡長濱町	森澤ミサヲ
上等兵	岡 慶章	昭和十四年三月一日	張庄附近	幡多郡東山村佐々岡	山岡 慶太
岡山縣					
陸軍歩兵伍長	薮 正義	昭和十三年九月十九日	丁家山	岡山市西大寺町	薮 正義

陸軍歩兵曹長 佐藤 照太 十月三日 陽新縣三坪高地 後月郡芳井町天神山 佐藤 鐵次郎

曹長 中島 登美男 十月十六日 孟烟山 眞庭郡川東村法界寺 中島 隆義

上等兵 安田 勇 昭和十四年二月二日 肅寧縣中保店 倉敷市新田二六二〇 安田 小次郎

上等兵 坂本 勉 三月一日 張生附近 小田郡陶山村有田 坂本 久四郎

上等兵 横満 助市 三月一日 〃 久米郡弓削町上弓削 横満 七五郎

陸軍歩兵上等兵 飯森 孟茂 昭和十三年六月六日 徐水縣徐河橋 東筑摩郡日向村九七二 飯森 清茂

曹長 原 四郎 九月二十六日 麒麟峯 南佐久郡岸野村佃野 原 源

曹長 若林 正典 十月二日 德安縣易家山 更級郡青木島村大塚 若林 雅之

曹長 花岡 芳明 十月二十日 陽新縣月山部落 松本市中條町中區六三四 花岡 さと

曹長 有賀 憲三 十一月八日 崇陽縣大字廟附近 上伊那郡朝日村澤 有賀 今朝次郎

廣島縣 陸軍歩兵伍長 高山 担明 昭和十三年九月十八日 茶園峯高地 御調郡河内村 高山 重松

曹長 佐々木 太一 九月十九日 丁家山高地 山縣郡加計町加計 河野 繁人

伍長 白川 一也 九月二十六日 風雨亭東方高地 豊田郡名荷村 白川 直一

伍長 萩原 昇 九月二十六日 麒麟峯 菅品郡宜山村向水谷 萩原 ユキ

衛生兵伍長 岡崎 良雄 〃 〃 加茂郡内海町 岡崎 良吉

步兵上等兵 西野 繁夫 〃 〃 廣島市河原町 西野 はつゑ

曹長 高田 貴太郎 九月二十七日 〃 〃 佐伯郡大竹町大竹 高田 タカヲ

上等兵 山岡 芳太郎 十月二十二日 慈口鎮西南高地 安佐郡三川村中筋 山岡 勇

陸軍歩兵上等兵 鎌田 寅一 十月二十三日 第〇野戰病院 安藝郡戸澤村松島 鎌田 末吉

軍曹 倉木 安之助 昭和十四年三月一日 張庄附近 比己郡高村川西 倉木 乙助

島根縣 伍長 重田 貢 十一月四日 石黄泉高地 遷摩郡井太村大口 重田 キチ

伍長 山本 貞夫 昭和十四年二月二日 肅寧縣中保店 簸川郡田岐村田岐 山本 壽一

岐阜縣 陸軍歩兵一等兵 今井 亮一 昭和十三年三月二十四日 北京第〇兵站病院 加茂郡西白河村中川 今井 房一

上等兵 神山 光義 六月二日 寧陵縣張庄西北方 岐阜市日之出町三ノ九 神山 四市

上等兵 葛谷 由太郎 十月二十日 第〇野戰病院 羽島郡笠松町 葛谷 由太郎

上等兵 水野 由夫 十一月十九日 第〇野戰病院 土岐郡笠原町二三八四 水野 由太郎

上等兵 星屋 鏡二 九月二十七日 麒麟峯 武儀郡金山村 星屋 伊八

上等兵 木田 一郎 九月二十日 第〇野戰病院 山縣郡大桑村斧田 木田 銀一

靜岡縣 陸軍歩兵上等兵 堀 隆二 六月二日 寧陵縣張庄西北方 清水市北矢村 堀 秀太郎

上等兵 池田 重雄 六月二日 〃 清水市清水八五〇 池田 晋一

上等兵 北川 恭式 九月十九日 丁家山高地 志太郡益澤村小濱 北川 七藏

上等兵 増田 勇吉 九月二十六日 白水街附近 志太郡西益澤村稻川 増田 金松

伍長 西原 晋作 九月二十八日 麒麟峯 富士郡鷹岡村天間 西原 惣太郎

上等兵 猿田 明 九月二十八日 〃 引佐郡岡山村富幕 猿田 金松

陸軍歩兵上等兵

杉山伊佐美 十一月六日
上等兵 花島良一郎 十一月八日
上等兵 柏木 勳
上等兵 森竹 孝 九月二十八日
上等兵 山本鐵夫 十一月二日
上等兵 村上 正 九月十九日
伍長 廣田 茂 十一月七日

白羊舖南方高地
桂口市西北方
病院船輪送船内
陽新縣豫備病院
丁家山
第○野戰病院

沼津市上番谷藤川町
周智郡天方村薄場
富士郡富士根村大岩
安倍郡井川村
上新宮町二三
濱名郡芳川村木郷
濱名郡鷺津町市場

杉山伊太郎
花島庄平
柏木米松
森竹長吉
山本勝藏
村上武夫
廣田凱次

兵庫縣

陸軍歩兵上等兵 渡邊 守一 七月二十一日
上等兵 安井 菊夫 六月一日
上等兵 大堀 順治 六月二日
軍曹 谷口 七五郎 六月二日
少尉 熊井 八郎 九月二十九日
曹長 小田 金平 十月十九日
曹長 淺田 菊次 十月十六日
曹長 黒田 新太郎 二月八日
曹長 田路 友夫 十月二十日
上等兵 安達 正也 九月十九日
伍長 北川 幸一 九月二十八日
上等兵 近成 輝夫 九月二十九日

保定農學院前
寧陵縣張庄
嶺下章家南側高地
第○野戰病院
孟烟山高地
第○野戰病院
陽新縣老屋溝附近
丁家山
麒麟峯

津名郡洲本町外通町
三原郡灘村下灘
多紀郡南河内村川北
城崎郡津村田結
姫路市河間町
飾磨郡家島町宮
加古郡原岡村土山
養父郡八鹿町石原
宍粟郡
水上郡鴨庄村上牧
多紀郡北河内村上板井
多紀郡北河内村小坂

渡邊サダ
安井 鹿吉
大堀利之進
谷口長太郎
熊井 福松
小田 定一
淺田 きの
黒田方三郎
田路梅太郎
安達 義次
北川彦三郎
近成 トヨ

陸軍歩兵上等兵

曹長 繪田 正三 九月二十一日
伍長 齋藤 賤男 十一月二十八日
上等兵 高木 一己 十一月八日
上等兵 田中 清二 昭和十四年二月二日
上等兵 三浦 茂 二月二日
上等兵 前田 性治 昭和十三年十月十二日
上等兵 長谷川 正市 九月二十六日
上等兵 安居 義正 昭和十四年三月一日

馮村北側高地
第○野戰病院
崇陽縣石城灣附近
肅寧縣中保店
瑞昌縣野戰病院
麒麟峯
肅寧縣張生附近

有馬郡小野村母子
多可郡日野村羽山
丹羽郡大山町上野
加東郡市場村太郎大夫
加西郡富田村吉野
武庫郡山田村箕谷
神戸市兵庫區下澤通
加東郡上東條村長貞

高木 源吾
田中 きく
三浦 正三
前田 龍平
長谷川 五三一
安居 正治

栃木縣

陸軍歩兵大尉 河野 貫一 昭和十三年十一月二十二日
陸軍歩兵大尉 印南 靜夫 六月十六日
准尉 眞瀬 眞三郎 九月十九日
輜重兵上等兵 篠崎 義男 十月十一日
步兵曹長 伊藤 要 十月十六日
曹長 秋澤 年吾 十月十七日

安國城西南角
丁家山高地
野戰病院
陽新縣小虎岩
陽新縣鳳凰尖

石西郡鬼龍野村元山
那須郡野崎村下石上
下都賀郡野木村丸林
河内郡雀宮町
那須郡新園村字田川
上都賀郡南押原村藤江

印南 太郎吉
眞瀬 眞八
篠崎 幹次
伊藤 要平
秋澤 延郎

茨城縣

步兵上等兵 藤澤 善太郎 六月一日
准尉 大久保 章三 九月二十七日
曹長 大關 竹雄 十一月二十日

寧陵縣張庄
麒麟峯
第○野戰病院

水戸市東町二丁目
結城郡安靜村芦ヶ谷
新治郡都和村今泉

前島 敬三郎
大久保 與四郎
大關 みさ

福島縣

陸軍歩兵上等兵 齋藤 猛次 六月二日 寧陵縣張庄西北方 河沼郡野澤町堂平 齋藤 新作
 上等兵 高久田 定之助 九月十九日 岩瀬郡須賀川町上町 高久田 次郎吉
 上等兵 近藤 勝雄 九月二十七日 西白河郡金山村高木 近藤 伊惣次
 上等兵 林 功 十月六日 若松市七日町一〇 林 平八郎
 上等兵 松尾 清作 十月十六日 信夫郡岡山村大木 松尾 郡次
 上等兵 原田 彦一 十月十九日 伊達郡榎木村新田 原田 タケユ
 伍長 佐々木 吉春 十月二十四日 伊達郡湯野町大水口 佐々木 彌四郎

鳥取縣

陸軍歩兵曹長 奥谷助左衛門 昭和十三年六月一日 寧陵縣張庄 氣高郡大和村猪子 奥谷 熊次郎

山口縣

陸軍歩兵曹長 岩本 克己 五月五日 保定西關 玖珂郡藤河村關戸 岩本 初代
 伍長 木村 建次 九月二十六日 麒麟峯 阿武郡奈古村濱崎 木村 サメ
 伍長 竹本 一治 九月二十四日 古樹李 厚狹郡小野田村 竹本 タミ子
 伍長 石村 秀雄 九月二十九日 麒麟峯 大津郡三隅村 石村 惣吉
 上等兵 田中 忠 九月二十九日 第〇野戰病院 都濃郡三隅村中 田中 俊一
 伍長 井上 清 十月一日 野戰病院 都濃郡富岡町 大村 道行

愛知縣

陸軍歩兵上等兵 杉山利三郎 六月一日 寧陵縣張庄 一宮市大正通四ノ一八 杉山 重吉
 上等兵 村松 唯一 六月二日 寧陵縣候閣 北設樂郡豊根村三澤 村松 かめの

陸軍歩兵上等兵

山 仲光 男 六月二日 張庄附近 名古屋市中區蘇鐵町一 山 仲末 吉
 伍長 松井 光 男 十一月五日 白羊舖南方高地 名古屋市東區横代官町一 松井 民雄
 伍長 神谷 芳 二 十月二十日 老屋溝南側高地 碧海郡高濱町 神谷 萬吉
 上等兵 鈴木 竹 一 九月二十六日 麒麟峯 中島郡明治村馬場 鈴木 周太郎
 上等兵 山下 英 雄 九月二十五日 古樹李 東加茂郡和知村上飯田 上田 重作
 上等兵 上田 富 平 九月十七日 瑞昌縣河上村附近 名古屋市南區豊田町 林 市次郎
 上等兵 林 薫 " 丁家山高地 名古屋市東區船付町 小川 才 丞
 上等兵 小川 已 喜 三 九月二十七日 麒麟峯 葉栗郡北方村北方 野田 倉三郎
 上等兵 野田 信 男 九月二十七日 兵站病院 北設樂郡振草村神田 金田 周 平
 上等兵 金田 照 一 十一月七日 野戰病院 北設樂郡下川村花田 伊藤 清 高
 上等兵 伊藤 健 治 十月三十日 第〇野戰病院 成寧療養所 北設樂郡下川村花田 夏 目 操
 上等兵 夏目 一 太郎 十月三十一日 成寧療養所 名古屋市港區寛政町九 藤 田 清
 上等兵 藤 田 清 五月二十八日 商邱縣宗大莊 名古屋市港區寛政町九 藤 田 清

大阪市

陸軍歩兵上等兵 平井 健 藏 三月十三日 兵站病院 三島郡富田町西ノ町 平井 留 吉
 上等兵 松下 秀 夫 六月二日 寧陵縣張庄 澁川區三津屋町中通三ノ一三 松 下 サノ
 上等兵 中川 政 五 郎 十月十三日 唐庄山 " 三島郡玉島村島 中川 シマ
 上等兵 竹田 行 男 十月十三日 " 此花區西九條下通 竹田 源 七
 上等兵 加藤 武 男 十一月四日 野戰病院 北區梅田町二 加藤 彦 三 郎
 伍長 藤本 勝 美 昭和十四年二月四日 肅寧縣王村附近 西澁川區姫島町一六九七 藤本 照 美

東京市

陸軍歩兵上等兵 鳥飼金太郎 昭和十三年七月二十五日
 伍長 秋元 清 九月二十二日
 伍長 竹川新次郎 九月二十六日
 上等兵 榎本 政夫 昭和十四年三月一日

〇〇野戰病院
 鶴公嶺
 風雨亭東方高地
 肅寧縣張生附近

大森區入新井町五ノ一九六 鳥飼 赤次郎
 深川區白河町一ノ一 秋元 哲三
 渡邊メリヤス方
 王子區堀船町一ノ三六六 榎本ウメノ

宮城縣

陸軍歩兵上等兵 高橋慶治 昭和十三年六月一日
 上等兵 武山作之助 六月二日
 上等兵 熊谷輝雄 九月十八日
 伍長 丹野重雄 九月十九日
 上等兵 武者隆一 九月十九日
 上等兵 菅原一雄 九月二十六日
 上等兵 中條 孝 九月二十六日
 伍長 渡邊一夫 九月二十七日
 上等兵 阿部芳太郎
 上等兵 庄司吉雄
 伍長 管野 隆 十月十三日
 十月二十一日

寧陵縣張庄
 雷家高地
 丁家山附近
 麒麟峯
 白水街附近
 石尖山附近
 下山墻

柴田郡槻木町入間田 高橋千代太郎
 桃生郡橋浦村女川 武山 繁幸
 木吉郡松岩村赤石 熊谷新造
 宮城郡鹽釜町木町 丹野良知
 遠田郡南郷村木間塚 武者丹治
 西原郡大岡村 菅原みわ
 遠田郡富永村善助 中條清助
 栗原郡姫松村泉澤 佐藤忠左衛門
 川田郡七ヶ宿村關守 渡邊市松
 牡鹿郡稻川村大爪 阿部頼治
 牡鹿郡女川町出島 庄司清之助
 刈田郡福岡村長袋 管野房吉
 北村山郡東郷村沼澤 奥山 潔

埼玉縣

陸軍歩兵上等兵 藤間 怒三 昭和十三年五月二十八日
 上等兵 清宮忠三郎 九月二十五日
 上等兵 松木丁己 九月二十八日
 上等兵 鈴木清一郎 十月十六日
 上等兵 峯岸正勝 十一月九日
 上等兵 大島正雄 十月六日
 上等兵 鹽田敏治 十一月十八日
 上等兵 高橋正通 九月二十七日
 上等兵 島田稻夫 十月三日
 上等兵 山崎忠一郎 昭和十四年二月二日

河南省宗大莊
 古欄李
 第〇野戰病院
 唐庄山南側高地
 崇陽縣伯家南高地
 箒溪南方高地
 第〇野戰病院
 麒麟峯高地
 羅盤山東北高地
 肅寧縣王村

北埼玉郡太田村眞名板 藤間 ナカ
 北足立郡六辻町字辻 清宮安太郎
 北埼玉郡屈巢村市場 松本 福士
 北葛飾郡田宮村 鈴木 みつ
 足立郡白子村下新倉 峯岸三之丞
 北足立郡小針村羽貫 大島 忠吉
 埼玉郡井泉村尾崎 鹽田慶太郎
 北足立郡芝村 高橋 正司
 北足立郡馬室村瀧馬室 島田 新作
 北埼玉郡平子林村下平子 山崎角三郎

神奈川縣

陸軍歩兵伍長 原 一太郎 昭和十三年六月一日
 上等兵 原 道郎 九月十九日
 伍長 井上留吉 十月三日
 上等兵 青木育造 十月三日
 上等兵 中戸川定吉 十月十一日

新潟縣

陸軍歩兵上等兵 山田芳朗 五月十三日
 上等兵 清水用作 五月二十八日

寧陵縣張庄附近
 丁家山高地
 三坪高地東側
 三坪高地
 岩嶺山西南高地

橫濱市中區藤棚町二ノ二二五 原 今朝太郎
 川崎市小田町二ノ五九 原 ヨネ
 川崎市渡田町三ノ一四一三 井上勘之助
 川崎市平間三七三 青木才二郎
 鎌倉市腰越町 中戸川 勝太郎
 北浦原郡神山山村山倉 山田 廣吉
 古志郡新組村四ツ屋 清水源太

陸軍歩兵上等兵	三原新藏	六月一日	寧陵縣張庄	中蒲原郡大江山村江口	三原千代吉
上等兵	高木弘	九月十九日	丁家山高地	西蒲原郡曾根町旗屋	高木タカ
上等兵	藤田庸備	"	"	刈羽郡千谷澤村	藤田義作
上等兵	名古屋建次	"	"	佐渡郡兩津町夷	名古屋清一郎
衛生兵上等兵	大矢弦司	"	"	岩船郡佐内村下鍛治	大矢カノ
陸軍歩兵上等兵	小林與助	九月二十二日	第○野戰病院	古志郡下鹽谷村卷淵	小林與吉
上等兵	小池光鬼知	九月二十五日	古樹李	岩船郡三面村府部	小池鷹藏
上等兵	藤澤藤一	"	"	新潟市學校町三	藤澤周人
上等兵	渡邊末次郎	九月二十六日	麒麟峯	新潟市日出浦二ノ二〇六	渡邊徳次
上等兵	五十嵐金太郎	"	"	西頸城郡上早村	五十嵐龜太郎
上等兵	宮野行之	"	"	北蒲原郡川東村大友	宮野クメ
上等兵	小林善太郎	九月二十七日	李家山附近	西頸城郡磯部村筒石	本間榮太郎
上等兵	本間榮一	"	"	岩船郡下海町濱新保	風卷夏子
伍長	風卷吉雄	九月二十八日	麒麟峯	中魚沼郡下船渡村	木戸福松
上等兵	木戸福松	九月三十日	第○兵站病院	三條市三條三ノ町	古住喜三治
上等兵	古住貞治	十月十一日	岩岑山西南	中頸城郡板倉村福王寺	松永久治
上等兵	松永昇一	十月十四日	陽新縣上汪東側高地	古志郡北谷村名木	伊部カッ
上等兵	伊部宗利	十月十五日	野戰病院	刈羽郡北條村西長島	井口木一
上等兵	井口廣治	十月十六日	司馬岑高地	南魚沼郡大卷村五日町	小日向兵藏
上等兵	小日向太忠	十月二十七日	第○野戰病院	中頸城郡春日村	

陸軍歩兵上等兵	南雲安一	十月二十九日	"	南魚沼郡神立村宮林	南雲秀三郎
上等兵	貝沼常次	十一月十二日	野戰病院	中蒲原郡川内村仙見谷	貝沼文治
上等兵	渡邊五郎	十一月十八日	豫備病院	南蒲原郡加茂村	渡邊熊藏
衛生兵上等兵	金子惣一郎	十一月十九日	第○野戰病院	三島郡大津村磯田	金子萬作
上等兵	瀧川誠治	昭和十四年二月二日	肅寧縣中保店	西頸城郡名立村西蒲生田	瀧川あき
上等兵	長田勇吉	二月二日	"	南魚沼郡六日町坂戸	長田正能
上等兵	阿部利吉	一月二十二日	兵站病院	北蒲原郡河東村下三光	阿部勘吉

昭和十六年三月二十七日 印刷
昭和十六年三月三十一日 發行

東京市淺草區永住町一五〇

發行兼
編纂所

宮崎部隊彰忠會

代表者 塚本勝次郎

東京市牛込區神樂町一ノ二

印刷所

研究社印刷所

代表者 小酒井吉藏

終